

内ニ在ル地ハ之ヲ除ク	里以内ノ地域及其ノ以東ノ地域 花蓮港 花蓮港街ヨリ五里ニ至ル鐵道沿線 二里以内ノ地域及其ノ以東ノ地域
------------	---

第三號表

地域	流行病
八重山列島	マラリヤ(黒水熱ヲ含ム以下同シ)、赤痢
朝鮮	猩紅熱、腸チフス、バラチフス、赤痢、肺チフス、マ病
臺灣	マラリア、腸チフス、バラチフス、赤痢
南洋	マラリア、腸チフス、バラチフス、赤痢、黃熱
滿洲	ペスト、腸チフス、バラチフス、赤痢
關東	マラリア、猩紅熱、コレラ、發疹チフス、腸チフス、バラチフス、ペスト、赤痢、カラアザール
支那	發疹チフス、腸チフス、バラチフス、ペスト、回歸熱、赤痢
露領西伯利亞(薩哈連州ヲ含ム)	マラリア、コレラ、腸チフス、バラチフス、赤痢
比律賓	マラリア、コレラ、腸チフス、バラチフス、赤痢
佛領印度、暹羅、緬甸、馬來半島	マラリア、コレラ、發疹チフス、ペスト、赤痢
英領印度	マラリア、コレラ、ペスト、赤痢、カラアザール
中央亞米利加、南亞米利加	マラリア、猩紅熱、發疹チフス、腸チフス、バラチフス、回歸熱、赤痢
墨西哥	マラリア、發疹チフス、黃熱
亞弗利加	マラリア、ペスト、回歸熱、赤痢、トリバノゾーム病、黃熱

第十章 預金及有價證券

第一節 預金

○預金部預金法

●法律第二十五號 大正十四年三月三十日

第一條 法律勅令ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルル現金ハ預金部預金トシ大藏大臣之ヲ管理ス

第二條 郵便貯金トシテ受入レタル現金ハ之ヲ大藏省預金部ニ預入レ其ノ利子ヲ以テ貯金利子ノ支拂ニ充ツヘシ

第三條 預金部預金ノ種類、利子及取扱ニ關シテハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 預金部預金並大藏省預金部特別會計ノ積立金及支拂上ノ餘裕金ハ之ヲ預金部資金トシ預金部資金運用委員會ニ諮問シ有利且確實ナル方法ヲ以テ國家公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用スヘシ

第五條 預金部資金ノ運用ニ關スル事務ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
預金規則(明治十八年五月三十日太政官布告第十三號)、明

第十章 預金及有價證券

治二十三年法律第七十五號(預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件)及明治三十九年勅令第二百一十一號(明治三十七八年戰役ニ關スル一時賜金預託ノ件)ハ之ヲ廢止ス
本法施行前大藏省預金部ニ於テ受入レタル預金ハ之ヲ預金部預金トス

預金規則第一條第三號ノ規定ニ依ル預金及其ノ預金ヲ以テ購入保管シタル國債證券並明治三十九年勅令第二百一十一號ニ依ル預金及預託ノ國債證券ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ付本法施行後三月内ニ預ケ人ノカ拂戻ノ請求ヲ爲ササルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ預金ハ之ヲ郵便貯金ニ振替ヘ國債證券ハ之ヲ郵便貯金法第九條ノ規定ニ依リ購入シタルモノト看做シテ保管ス

○預金部資金運用規則

●勅令第五十五號 大正十四年四月一日

第一條 預金部資金ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ運用スヘシ
一 國債、地方債又ハ健康保險組合債ノ應募、引受又ハ買入(昭和五年二月第三(五號)ヲ以テ改正)

- 二 一般會計又ハ特別會計ニ對スル貸付
- 三 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ノ發行ニ係ル社債又ハ産業債券ノ應募・引受又ハ買入
- 四 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル銀行ニシテ社債ヲ發行セサルモノニ對スル貸付
- 五 外國政府ノ發行ニ係ル國債ノ應募又ハ買入
- 六 日本銀行ニ對スル在外指定預金
- 第二條 大藏大臣ハ毎年度預金部資金ノ運用ニ關シ必要ナル計畫ヲ定メ豫メ之ヲ預金部資金運用委員會ニ付議スヘシ其ノ計畫ニ付追加又ハ變更ヲ爲サムトスルトキ亦同シ
- 第三條 大藏大臣ハ毎年度預金部資金運用報告書ヲ調製シ年度經過後四月内ニ之ヲ預金部資金運用委員會ニ提出スヘシ
- 前項ノ報告書ニハ當該年度ニ於ケル預金部資金運用ノ狀況及運用資産ノ異動ニ關スル重要ナル事項ヲ記載スヘシ
- 第四條 本令ニ定ムルモノヲ除ク外預金部資金ノ運用ノ爲必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第五條 預金部資金運用委員會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ大藏大臣ノ諮問ニ應ジ預金部資金ノ運用ニ關スル事項ヲ調査審議ス
- 第六條 預金部資金運用委員會ハ預金部資金ノ運用ニ關シ大藏大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第七條 預金部資金運用委員會ハ會長一人及委員十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

- 臨時必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得
- 第八條 會長ハ大藏大臣ヲ以テ之ニ充ツ
- 第九條 委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一 大藏政務次官
 - 二 大藏次官
 - 三 關係各廳高等官
 - 四 會計検査院部長
 - 五 日本銀行總裁
 - 六 學識經驗アル者
- 前項第三號、第四號及第六號ニ掲クル者ヲ以テ充ツル委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 臨時委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第十條 會長ハ會務ヲ總理ス
- 會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス
- 第十一條 預金部資金運用委員會ニ幹事ヲ置ク
- 幹事ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ大藏部内高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
- 第十二條 預金部資金運用委員會ニ書記ヲ置ク
- 書記ハ大藏部内判任官ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ運用中ノ預金部資金ニシテ其ノ運用方法カ第一條ノ規定ニ該當セサルモノニ付テハ同條ノ規定ニ拘ラス仍其ノ運用方法ニ依ルコトヲ得

○大藏省預金部ニ預入ルル資金ニ關スル件

- 勅令第百十八號 大正十四年四月一日
- 左ノ資金ハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルルコトヲ得
 - 一 國債整理基金
 - 二 明治二十三年法律第二十七號ニ依ル積立金
- 附則
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- (參照)
- 明治二十三年三月三十日法律第二十七號ハ陸軍給與ニ關スル委任經理ノ件ナリ

○預金部預金取扱規程

- 大藏省令第六號 大正十一年二月一日
- 改正 大正十四年第五號、十五年第九號、昭和五年第一七號
- 第十章 預金及有價證券

第一章 總則

- 第一條 預金部預金及預金購入有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂ヲ爲スヘシ
- 第二條 預金人ハ左ノ者ヲ擔當者ト爲シ其ノ資格、氏名及住所ヲ日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ届出ツヘシ
 - 一 官廳ニ係ルモノハ當該官廳ニ於ケル取扱主任官
 - 二 法人ニ係ルモノハ其ノ理事者
- 預金部預金及購入有價證券ノ受拂ニ關シ預金人ヨリ提出スル書類ニハ擔當者之ニ記名捺印スヘシ
- 第三條 前條ノ擔當者ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ
- 第二章 預金ノ種類
- 第三條ノ二 預金部預金中預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第百二十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノモノハ之ヲ普通預金及定期預金ノ二種トス
- 第三條ノ三 普通預金ハ預金人ノ請求アルトキハ何時ニテモ之カ拂戻ヲ爲スモノトス
- 定期預金ハ預入ノ日ヨリ六月以上ノ約定期間内之カ拂戻ヲ爲ササルモノトス但シ約定期間内ト雖預金人ノ要求アルトキハ事情ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得
- 第三章 預金ノ拂込
- 第四條 預金人預金ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ定期預金

ニ在リテハ第一號書式ノ預金部預金拂込書ヲ、其ノ他ノ預金ニ在リテハ第一號ノ二書式ノ預金部預金拂込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ拂込ミ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

定期預金以外ノ預金ノ預ケ人ハ預金ノ拂戻ニ使用スル小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ預ケ人ハ必要アル場合ニ於テハ預金部預金帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テハ保管金ヲ提出スヘキ者ヲシテ第二號書式ノ保管金振込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ於ケル預ケ人ノ預金ニ振込マシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ振込ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ振込人ヲシテ日本銀行ヨリ預金部預金振込通知書ノ交付ヲ受ケシムヘシ

第六條 (削除)

第七條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人ハ其ノ預金ヲ以テ購入保管ニ係ル有價證券ノ利子支拂期到來シタルモノアルトキハ第三號書式ノ有價證券利子預金組入請求書ニ、其ノ償還ヲ受クヘキモノアルトキハ第四號書式ノ有價證券償還預金組入請求書ニ受領ノ旨ヲ記入シ當該有價證券ノ記番號内譯表ヲ添附シテ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金組入金額ノ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第八條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ日本銀行

額トセル小切手ノ裏面ニ保管金又ハ供託金ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ氏名、住所及支拂店名ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ交付スヘシ

第五章 預金ノ利子

第十二條ノ二 普通預金及定期預金ニ對シテハ拂込ノ翌日ヨリ拂戻ノ日迄日割計算ヲ以テ左ノ區分ニ依リ利子ヲ付スヘシ但シ一圓未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ付セス

一、普通預金

年二分(昭和五年九月第一七號ヲ以テ改正)
年四分二厘(昭和五年九月第一七號ヲ以テ改正)

第三條ノ三第二項但書ノ規定ニ依リ拂戻ヲ爲シタル定期預金ノ額ニ對シテハ利子ヲ付セス但シ事情ニ依リ普通預金ニ付スヘキ利子ト同額以下ノ利子ヲ付スルコトヲ得

第十三條 普通預金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモノトス但シ預金金額ノ拂戻ニ係ル利子ハ預金ノ拂戻ヲ爲ストキ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモノトス

第十三條ノ二 預ケ人定期預金ノ利子ノ支拂ヲ受ケムトスルトキハ定期預金期限到來ノ日ニ於テ第六號ノ二書式ノ預金部預金利子支拂請求書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

預ケ人前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ前項ノ利子ハ期限到來ノ日ニ普通預金トシテ拂込マレタルモノト看做ス

第十章 預金及有價證券

政府有價證券取扱規程第十二條ノ規定ニ依リ遺失物法ニ依ル政府保管有價證券ノ元利金受入ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ受領ノ旨ヲ記入シテ日本銀行ニ提出シ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第八條ノ二 預ケ人定期預金ノ更新ヲ爲サムトスルトキハ其ノ期限到來ノ日迄ニ第四號ノ二書式ノ預金部定期預金更新通知書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

預ケ人前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ定期預金ノ期限到來ノ日ヨリ普通預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做ス

第四章 預金ノ拂戻

第九條 預ケ人預金ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ定期預金ニ在リテハ第五號書式ノ預金部預金拂戻請求書ヲ日本銀行ニ提出シ其ノ他ノ預金ニ在リテハ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スヘシ

第十條 (削除)

第十一條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ保管替ヲ爲サムトスルトキハ第六號書式ノ預金部預金預入替請求書ヲ添ヘ保管替ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トセル小切手ヲ日本銀行ニ交付スヘシ

第十二條 預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第八條又ハ供託物取扱規則第八條ノ規定ニ依リ日本銀行ヲシテ保管金又ハ供託金ノ他店拂ヲ爲サシメムトスルトキハ他店拂ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金

第十三條但書及前項ノ場合ニ於テ預ケ人ハ日本銀行ニ對シ元加利子額ニ相當スル金額ノ預金部預金領收證書ヲ請求スルコトヲ得

第十四條ノ二 預ケ人日本銀行ヨリ預金部預金利子組入通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ承認ノ旨ヲ記入シ日本銀行ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ預ケ人ハ日本銀行ニ對シ定期預金利子ノ普通預金組入額ニ相當スル金額ノ預金部預金領收證書ヲ請求スルコトヲ得

第十五條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人郵便貯金規則第二十四條ノ規定ニ依リ郵便貯金ニ對スル利子ノ元加ヲ要スルトキハ第七號書式ノ預金部預金利子元加請求書ヲ、郵便貯金規則第七十九條ノ規定ニ依リ隨時郵便貯金ニ對スル利子ノ支拂ヲ要スルモノアルトキハ第八號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第十六條 大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ調査ノ上元加又ハ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ該請求書ニ記入シ之ヲ日本銀行本店ニ送付シ利子元加又ハ支拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十七條 預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ有スル者ニ對シテ利子ノ支拂ヲ要スルトキハ第九號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ニ依リ其ノ利子額ニ相當スル預金利子

額ノ支拂ヲ日本銀行ニ請求スヘシ但シ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ提出シタル利子請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第六章 預金購入有價證券

第十八條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人預金ヲ以テ有價證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ第十號書式ノ有價證券購入請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第十九條 大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ該請求書ニ記載ノ購入日附ニ於ケル時價ヲ以テ日本銀行本店ヲシテ指定ノ有價證券ヲ購入セシムヘシ

第二十條 (削除)

第二十一條 大藏省預金部日本銀行本店ヨリ購入有價證券ノ額面金額及購入代價ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十一號書式ノ有價證券購入濟通知書ヲ日本銀行ヲ經テ預ケ人ニ送付スヘシ

第二十二條 預ケ人前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ該通知書ノ裏面ニ有價證券購入代價ニ相當スル金額ノ預金ヲ領收セル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券保管通知書ヲ交付ヲ受クヘシ

第二十三條 預ケ人預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ第十二號書式ノ預金購入有價證券拂戻請求書ニ當該有價證券ノ記番號内譯表ヲ添附シ之ヲ日本銀行ニ提

出スヘシ

第二十四條 預ケ人日本銀行ヨリ預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ第十三號書式ノ預金購入有價證券受領證書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第七章 證明

第二十五條 預ケ人官廳ナル場合ニ於テ日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ヨリ預金部預金ノ受入及拂渡ノ請求書並支拂小切手ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ預金部預金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日以内ニ之ヲ日本銀行ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テハ預金取扱店ヲ經由スヘシ

第一項ノ規定ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏統轄店ヨリ預金部受拂計算表ノ送付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第八章 雜則

第二十六條 日本銀行甲店ヲ預金取扱店トスル預ケ人日本銀行乙店ヲ預金取扱店ニ變更セムトスルトキハ第十四號書式ノ預金取扱店變更申込書ヲ日本銀行甲店ニ提出シ預金部預金現在額證明書ヲ交付ヲ受クヘシ

預ケ人ハ前項ノ證明書ヲ日本銀行乙店ニ提出シ承認ノ旨ノ記入ヲ受クヘシ

第二十七條 預ケ人預金部預金領收證書、預金部預金振込濟通知書又ハ預金購入有價證券保管通知書ヲ亡失又ハ毀

損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得第五條第二項ノ振込人預金部預金振込濟通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ亦同シ

第二十八條 第二十五條ノ規定ニ依リ預ケ人又ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏預金部預金月計突合表又ハ預金部受拂計算表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ預金取扱店ヲ經由スヘシ

第二十九條 預金部預金帳ノ交付ヲ受ケタル預ケ人ハ隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金ノ受拂額ノ記入ヲ受クヘシ

第三十條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人ハ日本銀行ヨリ預金購入有價證券保管帳ノ交付ヲ受ケ時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券ノ受拂額ノ記入ヲ受クヘシ

附則

第三十一條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 預金取扱規程(明治二十六年九月二十日大藏省令第十九號)ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 本令施行前大藏省預金部ニ預入ヲ爲シタル預ケ人ハ從前ノ規定ニ依ル總代人、擔當者又ハ取扱主任官ヲ以テ本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス

定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス

第三十四條 本令施行前預ケ人カ金庫ヨリ交付ヲ受ケタル預金通帳ハ本令ニ依リ日本銀行ヨリ交付ヲ受ケタル預金部預金帳ト看做ス

附則 (大正十四年四月一日大藏省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十五年三月二十九日大藏省令第九號)

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第二百一十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノ預金ニシテ本令施行前預入ニ係ルモノニ付テハ其ノ預ケ人ハ本令施行後一月内ニ預金ノ種類ヲ定メ之ヲ日本銀行ニ通知スルコトヲ要ス

預ケ人前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ本令施行ノ日ニ於テ當該預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做シ其ノ通知ヲ爲ササルトキハ本令施行ノ日ニ於テ普通預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做ス

附則 (昭和五年九月三十日大藏省令第一七號)

本令ハ昭和五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式 預金部預金拂込書(用紙寸法)

預金部預金拂込書

第 號 年 月 日

預入根據法令

上記金額預金部定期預金トシテ拂込候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事者名) 印

日本銀行(何店)宛

第一號ノ二書式 預金部預金拂込書(用紙寸法)

預金部預金拂込書

第 號 年 月 日

預入根據法令

上記金額拂込候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事者名) 印

日本銀行(何店)宛

- 六 國庫金受拂總括帳
 - 七 國庫金受拂報告額整理帳
 - 八 某年度一般會計内譯帳
 - 九 某年度某特別會計内譯帳
 - 十 隔地拂資金内譯帳
 - 十一 歳出支拂未済繰越金内譯帳
 - 十二 預託金内譯帳
 - 十三 預金部内譯帳
 - 十四 某年度一般會計支拂豫算帳
 - 十五 某年度某特別會計支拂豫算帳
- 前項ノ帳簿中第一號乃至第五號ノ帳簿ハ日本銀行本店ニ、第七號ノ帳簿ハ特扱代理店所轄日本銀行統轄店ニ、第六號及第八號乃至第十三號ノ帳簿ハ日本銀行統轄店ニ、第六號、第八號、第九號及第十一號乃至第十三號ノ帳簿ハ日本銀行特扱代理店ニ、第十四號及第十五號ノ帳簿ハ日本銀行各店ニ之ヲ備フヘシ
- 日本銀行ハ支拂元受高ヲ要スル特別會計、預金部預金及預託金ノ受拂殘額ヲ明瞭ナラシムル爲適宜ノ帳簿ヲ設クヘシ
- 第七十一條 國庫金總括帳ニハ大藏大臣ノ定ムル計算科目毎ニ口座ヲ設ケ國庫金ノ受拂額ヲ記入スヘシ
- 第七十二條 國庫金受拂内譯帳ニハ大藏大臣ノ定ムル計算科目毎ニ各統轄店ヲ區分シタル口座ヲ設ケ國庫金ノ受拂額ヲ記入スヘシ

- 第七十三條 當座預金内譯帳、別口預金内譯帳及指定預金内譯帳ニハ大藏大臣ノ定ムル口座ヲ設ケ各預金ノ受拂額ヲ記入スヘシ
- 第七十四條 國庫金受拂總括帳ニハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ日本銀行ノ定ムル計算科目毎ニ口座ヲ設ケ國庫金ノ受拂額ヲ記入スヘシ
- 第七十五條 國庫金受拂報告額整理帳ニハ國庫金受拂總括帳ノ計算科目毎ニ所屬特扱代理店ヲ區分シタル口座ヲ設ケ國庫金ノ受拂額ヲ記入スヘシ
- 第七十六條 某年度一般會計内譯帳ニハ左ノ區分及口座ヲ設ケ一般會計ノ受拂額ヲ記入スヘシ
 - 一 受入ハ之ヲ歳入ト歳入外トニ區分シ歳入ニハ所管廳、取扱廳別ノ口座(第十九條ノ場合ニ於テハ尙其ノ所屬年度別ノ口座)歳入外ニハ大藏大臣ノ定ムル口座
 - 二 拂出ハ歳出ト歳出外トニ區分シ歳出ニハ所管廳、支拂元受高ヲ要スル特別會計ノ内譯帳ニハ所管廳、取扱廳、支出官別ノ口座ヲ設ケ同一口座中ニ當該會計ノ歳入歳出及歳入外歳出外ノ受拂額ヲ記入シ尙第十九條ノ場合ニ於テハ其ノ所屬年度ヲ記入スヘシ

支拂元受高ヲ要セサル特別會計ノ内譯帳ニハ前條ノ規定ニ準シ當該會計ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第七十八條 隔地拂資金内譯帳ニハ統轄店別ノ口座ヲ設ケ隔地拂資金ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第七十九條 歳出支拂未濟繰越金内譯帳ニハ年度、會計、所管廳、支出官別ノ口座ヲ設ケ歳出支拂未濟繰越金ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第八十條 預託金内譯帳ニハ所屬廳、出納官吏別ノ口座ヲ設ケ預託金ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第八十一條 預金部内譯帳ニハ左ノ種別及口座ヲ設ケ預金部ノ受拂額ヲ記入スヘシ

一 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ハ預ケ人ノ口座

二 會計規則第二百一十一條ノ規定ニ依ル預金ハ保管金、供託金ノ種別及預ケ人、取扱主任官別ノ口座

三 其ノ他ノ預金ハ大藏大臣ノ定ムル種別及口座

日本銀行本店ニ備フル預金部内譯帳ニハ前項ニ規定スルモノノ外大藏大臣ノ定ムル口座ヲ設ケ預金部資金ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第八十二條 第七十條第一號乃至第十三號ノ帳簿ニハ之ヲ備フル日本銀行ニ於テ左記各號ニ依リ受拂額ヲ記入スヘシ

一 第一號ノ帳簿ニハ各統轄店毎日ノ報告額但シ當座預金、別口預金及指定預金ノ計算科目ハ本店ニ於ケル受拂額

二 第二號ノ帳簿ニハ各統轄店毎日ノ報告額

三 第三號乃至第五號ノ帳簿ニハ本店ニ於ケル受拂額

四 第六號ノ帳簿ニハ統轄店自店及其ノ所屬代理店ニ於ケル毎日ノ受拂額

五 第七號ノ帳簿ニハ所屬特扱代理店毎日ノ報告額

六 第八號乃至第十三號ノ帳簿ニハ各店ニ於ケル受拂額

第八十三條 某年度一般會計支拂豫算帳及某年度某特別會計支拂豫算帳ニハ所管廳、支出官、經常又ハ臨時部、款項別ノ口座ヲ設ケ支拂豫算額及支拂濟額ヲ記入スヘシ

第八十四條 本章ニ規定スル帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

第八十五條 日本銀行各店間ノ振替受拂ヲ記入スヘキ帳簿ノ種類、様式及記入ノ方法ハ日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

第八章 計算報告

第八十六條 日本銀行ハ國庫金ノ出納ニ關シ左ノ計算報告表ヲ調製スヘシ

一 國庫金貸借對照表 第十號書式

二 國庫金受拂報告表 第十一號書式

三 當座預金受拂内譯表 第十二號書式

四 別口預金(指定預金)受拂内譯表 第十三號書式

五 歲入金月計突合表 第十四號書式

六 歲出金月計突合表 第十五號書式

七 歲出支拂未濟繰越金月計突合表 第十六號書式

八 預託金月計突合表 第十七號書式

九 預金部預金月計突合表 第十八號書式

第三號書式 政府所有有價證券利札請求書(用紙半寸法)

政府所有有價證券利札請求書

受託證書番號 下記證券何年何月渡利札交付相成度候也

受託證書日附 年 月 日 某廳取扱主任官官名氏印

日本銀行(何店)宛

下記利札領收候也

年 月 日 某廳取扱主任官官名氏印

日本銀行(何店)宛

證券種別	枚數	券面額	券面記番 號及回数別	備考

備考 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ

○政府保管有價證券取扱規程

●大藏省令第八號 大正十一年二月一日
改正 大正十五年第二號、昭和六年第九號

第一章 總則

- 第一條 政府ノ保管ニ係ル有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ
- 第二條 取扱官廳ハ政府保管有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行(本店、支店)又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ又其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ寄託スヘシ但シ數日內ニ拂渡ヲ爲ス必要アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 取扱官廳ハ取扱主任官ノ職務及氏名ヲ日本銀行ニ通知スヘシ
- 前項ノ取扱主任官ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ
- 第四條 本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ
- 第二章 保管有價證券ノ提出及寄託
- 第五條 保管有價證券ヲ提出スル者ハ第一號書式ノ政府保管有價證券提出書及其ノ印鑑ヲ添ヘ有價證券ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ
- 取扱官廳前項ノ提出書ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テ

ハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

- 第六條 取扱官廳ハ保管有價證券ヲ提出スル者ヲシテ豫メ有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行又其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ於ケル取扱官廳ノ保管有價證券口座ニ振込マシムルコトヲ得(昭和六年四月第(九號)ヲ以テ改正)
- 取扱官廳ハ其ノ保管有價證券口座ニ振込ム爲前項以外ノ日本銀行本店又ハ支店ニ豫メ有價證券ヲ提出セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ第三條ノ手續ヲ爲スノ外有價證券ヲ提出シタル日本銀行ニ取扱主任官ノ印鑑ヲ添ヘ其ノ職務及氏名ヲ通知スヘシ(昭和六年四月第(九號)ヲ以テ改正)
- 第七條 保管有價證券ヲ提出スル者前條第一項ノ振込ヲ爲サムトスルトキハ第二號書式ノ政府保管有價證券振込書ヲ、第二項ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ第二號ノ二書式ノ政府保管有價證券他店振込書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ提出シ政府保管有價證券振込濟通知書ノ交付ヲ受クヘシ(昭和六年四月第(九號)ヲ以テ改正)
- 保管有價證券ヲ提出スル者前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ交付ヲ受ケタル政府保管有價證券振込濟通知書及其ノ印鑑ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ
- 第八條 取扱官廳第五條又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ有價證券又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ヲ提出ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ政府保管有價證券受領證書ヲ提出者ニ交付スヘシ
- 第九條 取扱官廳第五條ノ規定ニ依リ提出ヲ受ケタル政府保管有價證券ヲ日本銀行ニ寄託セムトスルトキハ政府保

屬代理店ヲ經由スヘシ

附則

- 第二十五條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二十六條 本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管有價證券ハ當該金庫ノ政府有價證券取扱ノ事務ヲ引繼キタル日本銀行ニ寄託シタルモノト看做ス
- 前項ノ保管有價證券ハ從前ノ規定ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ
- 第一號書式 政府保管有價證券提出書(用紙寸法(半紙判半載))
- 政府保管有價證券提出書
- 何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也 何枚
- 何圓券 何第何番ヨリ何第何番迄 何枚
- 但シ何年何月渡以降利札附屬(利拂期ノ既ニ到來セラル利札ニシテ附屬シアル分ハ此ノ式ノ如ク記入スルコト)
- 何圓券 何第何番 何枚
- 但シ何年何月渡利札缺欠
- 保管ノ事由
- 右提出候也
- 年 月 日 住所 氏 名
- 某廳取扱主任官宛
- 右證券寄託候也
- 年 月 日 某廳取扱主任官官氏名圖
- 日本銀行(何店)宛

備考

- 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込濟額ヲ併セテ記入スヘシ
- 二 本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ
- 第二號書式 政府保管有價證券振込書(用紙寸法(半紙判半載))
- 政府保管有價證券振込書
- 何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也 何枚
- 何圓券 何第何番ヨリ何第何番迄 何枚
- 但シ何年何月渡以降利札附屬(利拂期ノ既ニ到來セラル利札ニシテ附屬シアル分ハ此ノ式ノ如ク記入スルコト)
- 何圓券 何第何番 何枚
- 但シ何年何月渡利札缺欠
- 右某官廳ノ保管有價證券トシテ振込候也
- 年 月 日 住所 氏 名
- 日本銀行(何店)宛
- 備考
- 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込濟額ヲ併セテ記入スヘシ
- 二 本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

第十章 預金及有價證券

第二號ノ二書式(昭和六年四月第九號ヲ以テ追加)

政府保管有價證券他店振込書(用紙寸法(半紙判半截)何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也 何枚

何圓券 何第何番ヨリ何第何番迄 何枚
但シ何年何月渡以降利札附屬(利拂期ノ既ニ到來セル利札ニシテ附屬シアル分ハ此ノ式ノ如ク記入スルコト)

何圓券 何第何番
但シ何年何月渡利札缺欠
右日本銀行某店某官廳ノ保管有價證券トシテ振込候也

日本銀行(何店)宛
年月日
氏名

日本銀行(何店)宛

日本銀行(何店)宛

備考

- 一、全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ
- 二、本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添付スルモ妨ケナシ

第三號書式

政府保管有價證券受領證書(用紙寸法(半紙判半截))

名

氏

住所

某廳取扱主任官宛

政府保管有價證券受領證書

下記證券領收候也
某廳取扱主任官氏名宛
何某宛

證券種別	枚數	券面額	券面記番 號及回数別	備考

上記證券拂渡ノ證書領收候也
年月日

備考

- 一、全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ
- 二、利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ
- 三、本書ヲ以テ有價證券ノ拂渡ヲ請求シタルトキハ式ノ如ク領收ノ旨ヲ記入スヘシ

第四號書式

政府保管有價證券内譯書(用紙寸法(半紙判半截))

政府保管有價證券内譯書

下記證券寄託候也
年月日

某廳取扱主任官氏名宛

日本銀行(何店)宛

證券種別	枚數	券面額	券面記番 號及回数別	備考

備考

- 一、全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ
- 二、利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第十章 預金及有價證券

○日本銀行政府有價證券取扱規程

●大藏省令第十一號 大正十一年二月一日
改正 大正一四年第七號、一五年第一三號、昭和六年第一〇號

第一章 總則

第一條 日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ受拂保管ヲ爲スヘシ
前項ノ代理店ハ日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ
第二條 日本銀行ハ地方ニ統轄店ヲ設ケ其ノ所屬店ニ於ケル政府ノ有價證券受拂ノ事務ヲ統轄スヘシ
日本銀行ハ前項ノ所屬店中特ニ必要アルモノヲ特扱店ト爲スコトヲ得
第一項ノ統轄店及其ノ所屬店並前項ノ特扱店ハ日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ
第三條 日本銀行ハ政府ノ有價證券ト其ノ他ノ有價證券トヲ混同シテ保管スルコトヲ得ス
第四條 日本銀行ハ政府ノ有價證券ヲ該證券ノ受拂ヲ爲スヘキ日本銀行當該店ニ於テ保管スヘシ但シ大藏大臣ノ特ニ指定シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第五條 日本銀行ハ政府ノ有價證券ヲ政府所有ノ有價證券ト政府保管ノ有價證券トニ區分シ政府保管ノ有價證券ハ更ニ之ヲ保管有價證券、供託有價證券及預金購入有價證券ノ區分ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第十章 預金及有價證券

第五條ノ二 日本銀行ノ取扱フ有價證券ニシテ各店間ニ振替受拂ヲ要スルモノノ取扱手續ニ付テハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ(昭和六年四月第一〇號ヲ以テ追加)

第二章 政府所有ノ有價證券

第六條 日本銀行各官廳ヨリ政府所有有價證券取扱規程第三條ノ規定ニ依リ政府所有有價證券寄託書ヲ添ヘ有價證券ノ送付ヲ受ケタルトキハ第一號書式ノ政府所有有價證券受託證書ヲ當該官廳ニ交付スヘシ
第七條 日本銀行政府所有有價證券利子又ハ償還金ノ受入ヲ要スルモノアルトキハ當該官廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
第八條 日本銀行各官廳ヨリ政府所有有價證券取扱規程第四條ノ規定ニ依リ政府所有有價證券拂渡請求書ヲ受ケタルトキハ有價證券ヲ拂渡スヘシ
第九條 日本銀行各官廳ヨリ政府所有有價證券取扱規程第五條ノ規定ニ依リ政府所有有價證券利札請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券附屬ノ利札ヲ交付スヘシ
第三節 政府保管ノ有價證券
第十條 日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第七條ノ規定ニ依リ政府保管有價證券振込書又ハ政府保管有價證券他店振込書ヲ添ヘ有價證券ノ提出ヲ受ケタルトキハ之ヲ領收シ第二號書式ノ政府保管有價證券振込濟通知書ヲ交付スヘシ(昭和六年四月第一〇號ヲ以テ改正)
日本銀行前項ノ場合ニ於テ自店カ當該取扱官廳ノ保管有價證券ノ受託店ナルトキハ之ヲ當該取扱官廳ノ保管有價

證券口座ニ受入レ、他店カ當該官廳ノ保管有價證券ノ受託店ナルトキハ政府保管有價證券他店振込書ニ受入ノ證

印ヲ爲シ當該受託店ニ送付スヘシ(昭和六年四月第一) 前項ノ受入證印アル政府保管有價證券他店振込書ノ送付

ヲ受ケタル日本銀行ハ當該取扱官廳ノ保管有價證券口座ニ受入レ第二號ノ三書式ノ政府保管有價證券振込受入濟

報告書ヲ當該取扱官廳ニ送付スヘシ(昭和六年四月第一) 第十一條 日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第九

條ノ規定ニ依リ取扱官廳ヨリ政府保管有價證券提出書又ハ政府保管有價證券内譯書ヲ添ヘ有價證券ノ送付ヲ受ケ

タルトキハ第三號書式ノ政府保管有價證券受託證書ヲ取扱官廳ニ交付スヘシ 第十二條 日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第十

條ノ規定ニ依リ取扱官廳ヨリ遺失物法ノ規定ニ依リ保管スルモノナル旨ノ通知ヲ受ケタル有價證券ニシテ時効ニ

依リ其ノ權利消滅セムトスルモノニ付テハ元利金受入ノ手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ當該取扱官廳ニ通知スヘシ 第十三條 日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第十

三條第三項ノ規定ニ依リ政府保管有價證券受託證書、政府保管有價證券振込濟通知書又ハ政府保管有價證券一部

拂渡書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券ヲ提出者ニ拂渡スヘシ 日本銀行前項ノ場合ニ於テ受託店カ他店ナルトキハ前項

ノ手續ヲ爲シタル上政府保管有價證券振込濟通知書又ハ政府保管有價證券一部拂渡書ニ拂渡ノ旨ヲ附記シ當該受託店ニ送付スヘシ(昭和六年四月第一)

第一號書式 政府保管有價證券振込濟通知書

備 考 振込人氏名 下記證券貴廳ノ有價證券トシテ振込相受候也

年 月 日 日本銀行(何店)宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番號及同數別	備考
某廳取扱主任官宛				

上記證券提出候也 保管ノ事由 年 月 日 住所 氏 名

某廳取扱主任官宛 年 月 日 住所 氏 名

上記證券拂渡相成度候也 某廳取扱主任官氏名 宛 日本銀行(何店)宛

上記證券領收候也 年 月 日 住所 氏 名

日本銀行(何店)宛

全額拂込ニテラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ

利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

振込ノ錯誤ナリシトキ又ハ其ノ必要ナキニ至リシトキハ振込人ハ官廳ヨリ其ノ旨ノ證明書ヲ受ケ之ヲ日本銀行ニ提出シ有價證券ノ返付ヲ請求スヘシ

第十四條 日本銀行前條ノ場合ニ於テ保管有價證券ノ一部拂渡ヲ爲シタルトキハ政府保管有價證券取扱規程第十三

條第二項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ一部拂渡

ヲ爲シタル旨ヲ記入シ之ヲ取扱官廳ニ返付スヘシ但シ保管有價證券振込濟通知書ニシテ受託店カ他店ナル場合ニ

於テハ其ノ受託店ヲ經由シテ之ヲ取扱官廳ニ返付スヘシ(昭和六年四月第一) 第十五條 日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第十

五條第一項ノ規定ニ依リ政府保管有價證券利札請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券附屬ノ利札ヲ提出者ニ交

付スヘシ 第十六條 日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第十

八條ノ規定ニ依リ寄託替ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ自店カ乙官廳ノ保管有價證券ノ受託店ナルトキハ寄託替ノ

手續ヲ爲シ政府保管有價證券受託證書ヲ乙官廳ニ送付シ、他店カ乙官廳ノ保管有價證券ノ受託店ナルトキハ乙

官廳ノ受託店ニ對シ其ノ旨ヲ通知スヘシ 前項ノ通知ヲ受ケタル日本銀行ハ乙官廳ノ保管有價證券口座ニ受入ノ手續ヲ爲シ政府保管有價證券受託證書ヲ乙

官廳ニ送付スヘシ 第二節 供託有價證券 第十七條 日本銀行ニ於テ供託有價證券取扱規程第二條ノ

規定ニ依リ供託有價證券寄託書及供託書ヲ添ヘ有價證券ノ提出ヲ受ケタルトキハ供託書ニ受領ノ旨ヲ記入シ之ヲ提出者ニ返付シ第四號書式ノ供託有價證券受託證書ヲ供託局ニ送付スヘシ

第二號ノ二書式 (昭和六年四月第一〇號ヲ以テ追加)

政府保管有價證券振込濟通知書原符

年 月 日 日本銀行(何店) 宛

證券種別	枚數	券面額	備考
日本銀行何店扱 某廳取扱主任官			

備考 原符ハ他店振込ノ場合ニ限リ調製ス

某廳取扱主任官宛

年 月 日

右實廳口座ニ受入済ニ付此段及御報告也

振込店 日本銀行何店

振込人氏名 何某

何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也 何枚

政府保管有價證券振込受入済報告書

用紙寸法(半紙判半裁)

第三號ノ三書式 (昭和六年四月第一號ヲ以テ追加)

備考

- 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ
- 二 利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ
- 三 遺失物法ニ依ルモノナルトキハ日本銀行カ拂渡ヲ爲スヘキ最終ノ期日ヲ餘白ニ記入スヘシ

政府保管有價證券受託證書

第 號

保管日 附 日

提出者氏名

下記證券受託候也

日本銀行(何店) 宛

某廳取扱主任官宛

證券種別

枚數

券面額

券面、記番號及同數別

備考

上記證券拂渡相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官氏名 宛

日本銀行(何店) 宛

上記證券領收候也

年 月 日

住 所

氏 名

日本銀行(何店) 宛

1冊目

第三號書式 政府保管有價證券受託證書(半紙判半裁)

供託有價證券受託證書

第 號

供託日 附 日

下記證券受託候也

年 月 日

供託者氏名

日本銀行(何店) 宛

某供託局長宛

證券種別

枚數

券面額

券面、記番號及同數別

備考

第四號書式 供託有價證券受託證書(半紙判半裁)

預金購入有價證券保管通知書

第 號

下記公債證書預金ヲ以テ購入保管候也

年 月 日

日本銀行 宛

某廳取扱主任官宛

證券種別

枚數

券面額

券面、記番號及同數別

第六號書式(削除) 預金購入有價證券保管通知書(半紙判半裁)

- 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ
- 二 利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

○臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法

律

●法律第三號 大正十年三月十五日

第一條 法律ノ全部又ハ一部ヲ臺灣ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ官廳又ハ公署ノ職權、法律上ノ期間其ノ他ノ事項ニ關シ臺灣特殊ノ事情ニ因リ特例ヲ設クル必要アルモノニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二條 臺灣ニ於テ法律ヲ要スル事項ニシテ施行スヘキ法律ナキモノ又ハ前條ノ規定ニ依リ難キモノニ關シテハ臺灣特殊ノ事情ニ因リ必要アル場合ニ限り臺灣總督ノ命令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得

第三條 前條ノ命令ハ主務大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ
第四條 臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ臺灣總督ハ前條ノ規定ニ依ラス直ニ第二條ノ命令ヲ發スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ發シタル命令ハ公布後直ニ勅裁ヲ請フヘシ勅裁ヲ得サルトキハ臺灣總督ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ

第五條 本法ニ依リ臺灣總督ノ發シタル命令ハ臺灣ニ行ハルル法律及勅令ニ違反スルコトヲ得ス

附則

本法ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二章 參考諸法規

明治二十九年法律第六十三號又ハ明治三十九年法律第三十一號ニ依リ臺灣總督ノ發シタル命令ニシテ本法施行ノ際現ニ效力ヲ有スルモノニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

○樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法

律

●法律第二十五號 明治四十年三月二十九日

法律ノ全部又ハ一部ヲ樺太ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ左ノ事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

- 一 土人ニ關スルコト
- 二 行政官廳又ハ公署ノ職權ニ關スルコト
- 三 法律上ノ期間ニ關スルコト
- 四 裁判所又ハ裁判長カ職權ヲ以テ選任シ又ハ選定スル辯護人、訴訟代理人又ハ訴訟承繼人ニ關スルコト

附則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東州ニ於ケル諸般ノ成規ニ關スル件

●勅令第二百三號 明治三十九年八月一日
關東州ニ於ケル諸般ノ成規ハ別段ノ規定ヲ設クル迄當分ノ内從前ノ例ニ依ル但シ租稅其ノ他ノ收入及其ノ支出ニ關シテハ會計検査院ノ検査ヲ經ルコトヲ要ス

附則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

○公式令 (抄録)

●勅令第六號 明治四十年二月一日

改正 大正一〇年第一四五號

第十一條 皇室令、勅令、閣令及省令ハ別段ノ施行時期アル場合ノ外公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス

第十二條 前數條ノ公文ヲ公布スルハ官報ヲ以テス

(參照)

朝鮮、臺灣、關東州及南洋群島ニ於テ適用スル法律命令ハ、夫夫勅令ノ規定ニ依リ別段ノ施行時期アル場合ノ外各官廳ニ到達シタル日ノ翌日ヨリ起算シ七日ヲ經テ之ヲ施行ス

朝鮮總督府令、臺灣總督府令、樺太廳令、關東廳令及南洋廳令ハ、夫夫公布式ノ規定ニ依リ朝鮮總督府官報、臺灣日日新報附錄府

製鐵所長官

海外駐節財務官

專賣局長官

内閣印刷局長

造幣局長

專賣局部長

千住製絨所長

臺灣總督府專賣局長

トヲ得

第四條 陸海軍將官ハ各其ノ部内ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第五條 奏任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一 高等試験行政科試験ニ合格シタル者
二 高等試験外交科試験ニ合格シ二年以上外交官又ハ領事官ノ職ニ在リタル者

三 二年以上判事又ハ檢事ノ職ニ在リタル者
四 裁判所構成法ニ依リ判事、檢事又ハ司法官試補タル資格ヲ有シ二年以上陸軍法務官若ハ海軍法務官、朝鮮總督府若ハ南洋廳ノ判事若ハ檢事又ハ臺灣總督府法院若ハ關東廳法院ノ判官若ハ檢察官ノ職ニ在リタル者

二年以上奏任教官ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ文部部内ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第六條 判任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

十二年 參考諸法規

報樺太廳公報、關東廳報及南洋廳公報ヲ以テ公布シ特ニ施行期日ヲ定ムルモノヲ除クノ外公布ノ日又ハ各官廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算シ七日乃至十日ヲ經テ施行ス

○文官任用令

●勅令第二百六十一號 大正二年八月一日

改正

大正七年第一〇號、九年第一五九號、第三五五號、一〇年第一一六號、一一年第一一六號、第四七三號、一二年第四二七號、一三年第二八號、第四〇二號、一五年第一六七號、昭和五年第四七號

第一條 文官ノ任用ハ親任式ヲ以テ任スル官及特別ノ規程ヲ設クルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 勅任文官ハ第五條第一項ノ資格ヲ有シ一年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者又ハ奏任文官トシテ二年以上高等官三等ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ任用ス

第三條 第五條第一項ノ資格ヲ有セス二年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者又ハ奏任文官トシテ二年以上高等官三等ノ職ニ在リタル者ハ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第三條ノ二 左ニ掲クル勅任文官ハ前二條ノ規定ニ依ル資格ヲ有セサルモ各其ノ職務ニ必要ナル學識、技能及經驗ヲ有スル者ヨリ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

一 中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者

二 高等試験令第七條ノ規定ニ依リ高等試験豫備試驗ヲ受クルコトヲ得ル者

三 專門學校令ニ依リ法律學、政治學、行政學又ハ經濟學ヲ教授スル學校ニ於テ三年ノ課程ヲ履修シ其ノ學校ヲ卒業シタル者

四 普通試験ニ合格シタル者

五 高等試験ニ合格シタル者

六 二年以上文官ノ職ニ在リタル者

七 四年以上雇員タル者

第七條 教官、技術官其ノ他特別ノ學術技藝ヲ要スル文官ハ高等官ニ在リテハ高等試験委員、判任官ニ在リテハ普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ文官タル資格ヲ有スル者ハ仍其ノ規定ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

附則 (大正七年一月十八日勅令第十號)

本令ハ大正七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

文官高等試験ニ合格シタル者ハ高等試験行政科試験、文官普通試験ニ合格シタル者ハ普通試験ニ合格シタルモノト看

做ス

他ノ勅令中文官高等試験委員トアルハ高等試験委員、文官普通試験委員トアルハ普通試験委員トス

附 則 (大正十一年三月三十一日勅令第百十六號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

理事又ハ主理ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ陸軍法務官又ハ海軍法務官ノ職ニ在リタル者ト看做ス

○文官分限令

●勅令第六十二號 明治三十二年三月二十八日

改正 明治三十六年第一五六號

第一條 本令ハ親任式ヲ以テ敘任スル官、公使、祕書官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外一般ノ文官ニ適用ス

第二條 官吏ハ刑法ノ宣告、懲戒ノ處分又ハ本令ニ依ルニ非サレハ其ノ官ヲ免セラルルコトナシ

第三條 官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官ヲ免ス

ルコトヲ得

一 不具、廢疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免官ヲ願出タルトキ

三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ前項第一號ニ依リ其ノ官ヲ免スルトキハ高等官ニ在テハ文官高等懲戒委員會、判任官ニ在テハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス

第四條 官吏ハ廢官若ハ廢廳ノ場合ニ於テハ當然退官者トス

第五條 第十一條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退官者トス

第六條 官吏ハ其ノ意ニ反シテ同等官以下ニ轉官セラルルコトナシ

第七條 文官高等懲戒委員會ニ顧問醫二人ヲ置ク審査上必要ノ場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第八條 文官普通懲戒委員會ニ臨時顧問醫ヲ置ク

第九條 懲戒委員會ハ本令ニ依ル審査ヲ爲ス前豫メ顧問醫ノ意見ヲ徵スヘシ

第十條 第三條第二項ニ依ル懲戒委員會ノ審査ニ關シテハ文官懲戒令第十二條第十三條第二十四條第二十五條第二十九條乃至第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第五條 大藏大臣ハ各廳ノ歳入概算書及歳出概算書ヲ檢案シ歳入出ヲ對照調理シ歳入出總概算書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第六條 歳入出總概算書ハ歳入出共ニ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第七條 内閣ニ於テハ前年度七月十五日マテニ歳入出總概算書ヲ決定スヘシ

第八條 各省大臣ハ内閣ニ於テ決定シタル各省所管經費毎項ノ概算額以内ニ於テ節約ヲ旨トシ毎年度ノ各省豫定經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 歳入概算書及歳出概算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十條 明治二十三年度豫算ニ限り前各條ノ期限ヲ一箇月間延スコトヲ得

第二條 經費中其給與ニ屬スルモノハ一人當リノ給額ヨリ積算シ又其物件ニ屬スルモノハ一箇當リノ費用ヨリ積算スヘシ

第三條 一人當リノ給額ヲ算出スルニハ規定ノ給額アルモノハ其規定ノ額ヲ基トシ又規定ノ給額ナキモノハ各、其據ル所ヲ示スヘシ

第四條 一箇當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ價格アルモノハ其價格ヲ基トシ又規定ノ價格ナキモノハ時々ノ相場ニ據リ其據ル所ヲ示スヘシ

第五條 給與ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ定員アルモノハ定員ヲ限度トシ定員ナキモノハ前年度四月一日ノ現員ヲ標準トスヘシ但事務ノ繁閑ニ隨ヒ臨時傭入及解傭ヲナス人員ハ前々年度以前三箇年度ノ人員ノ平均ヲ標準トスヘシ

第六條 物件ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ規定ノ箇數アルモノハ規定ノ箇數ヲ限度トシ規定ノ箇數ナキモノハ前々年度以前三箇年度間ニ實際使用ニ供シタル箇數ノ平均ヲ標準トスヘシ

第七條 國債償還ノ金額(定期アルモノヲ除ク)ハ財政ノ都合ニ依リ其利子及手数料ハ定規ニ據リ之ヲ豫算スヘシ

第八條 常例ノ旅行ニ屬スル旅費ハ各用務毎ニ人員、旅費等級、里程及滞在日數ヲ概定シテ豫算スヘシ

第九條 法律命令契約ニ據リ支出スヘキ總金額ノ定リタルモノハ其總金額ヲ以テ豫算額トスヘシ

○豫定經費算出概則

●閣令第十九號 明治二十二年六月十日

第一條 經費ヲ算出スルニハ其必要ヲ生スル法律命令契約其他經費ヲ請求スル確實ノ理由ヲ示スヘシ

第十條 前各條ニ據ルヘカラサル經費ハ最モ適實ノ方法ヲ以テ豫算シ其計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

○市町村義務教育費國庫負擔法

法律第二十號 大正十二年三月二十八日

改正 大正一五年第四三號 昭和二年第三〇號 五年第五號

第一條 市町村立尋常小學校教員ノ俸給ニ要スル經費ノ一部ハ國庫之ヲ負擔ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ國庫ノ負擔トシテ支出スヘキ金額ハ毎年度八千五百萬圓ヲ下ラサルモノトス(昭和二年三月第一月第五號ヲ以テ改正)

第三條 國庫支出金ハ第五條ノ交付金額ヲ除キ其ノ三分ノ二ハ市町村ニ、三分ノ一ハ第四條ノ交付金額ヲ除キ町村ニ、各其ノ半額ヲ前年六月一日ニ於ケル市町村立尋常小學校ノ教員數ニ、他ノ半額ヲ前年六月一日ニ於ケル市町村ノ就學兒童數ニ比例シテ交付ス

第四條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ資力其ノ他ノ事情ニ依リ必要アリト認メタル市ニ對シ前條ノ規定ニ依リ當該市ノ受クル金額ノ二分ノ一ヲ超エサル範圍内ニ於テ特ニ交付金額ヲ増加スルコトヲ得
前項ノ増加交付金ノ總額ハ前條ノ規定ニ依リ市ニ交付スル金額ノ十五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ資力其ノ他ノ事情ニ依リ必要アリト認メタル町村ニ對シ國庫支出金ノ十分ノ一ヲ超エサル範圍内ニ於テ特ニ交付金額ヲ増加スルコトヲ得

第六條 本法ニ定ムル市町村立尋常小學校教員中ニ算入スヘキ代用教員ノ範圍ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 本法ノ適用ニ付テハ市町村組合ハ之ヲ市、町村組合及町村制ヲ施行セサル地域ニ於ケル町村ニ準スヘキ公共團體、其ノ組合又ハ小學校設置區域ハ之ヲ町村ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ市町村立尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ハ之ヲ市町村立尋常小學校ト看做ス

附 則

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和五年五月十七日法律第五號)
本法ハ昭和五年度分國庫支出金ヨリ之ヲ適用ス

○教育基金令

勅令第二百五十九號 大正三年十二月十二日

第一條 教育基金ハ本令ニ依リ之ヲ使用ス

第二條 教育基金ハ文部大臣ニ於テ其ノ一部ヲ前前年度末現在ノ學齡兒童數ニ應シテ北海道及府縣ニ配付シ他ノ一部ヲ普通教育ノ普及改善ニ關シ必要ト認ムル費用ニ使用

ス

第三條 北海道及府縣ハ前條ノ配付金ヲ以テ教育資金ト爲シ特別會計ヲ設置スヘシ

教育資金ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第四條 教育資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第五條 教育資金ハ左ノ各號ノ用途ニ之ヲ用ウルモノトス

- 一 公立小學校設備費ノ貸付又ハ補助
- 二 公立小學校教員ノ疾病療治料
- 三 公立小學校教員ノ獎勵其ノ他地方長官ニ於テ普通教育ノ普及改善ニ關シ必要ト認ムル費用

第六條 前條第一號ノ規定ニ依リ使用スル教育資金ハ特別ノ必要アル場合ニ於テ公立尋常小學校ノ校地校舍ノ設備費ニ充ツル爲之ヲ市町村又ハ之ニ準スヘキ公共團體ニ貸付シ市制又ハ町村制若ハ之ニ代ハルヘキ制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ之ヲ小學校設置區域ニ補助ス

公立高等小學校ノ校地校舍ニシテ變災ニ罹リ設備ノ復舊ヲ要スル場合ニ在リテハ前項ノ規定ヲ準用ス
前二項ノ貸付金ニ對シテハ一年百分ノ五ノ利子ヲ附セシムヘシ

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル補助金額ハ設備ニ要スル費用ノ十分ノ五以内トス

第七條 地方長官ハ教育資金使用ニ關スル規程ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一條 樺太ニ於ケル事業費支辨ノ爲政府ハ三千三百五十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之ヲ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附 則

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臨時國庫證券法

●法律第七號 大正六年七月二十一日

改正 大正七年第一號、八年第一八號、一〇年第四五號

第一條 政府ハ輸出爲替資金ノ疏通ヲ圖リ又ハ【聯合國】ニ對スル輸出軍需品代金ノ決済ヲ便ニシ其ノ他【聯合國】ノ財政ヲ援助スル爲運用資金ノ必要アリト認ムルトキハ五年内ノ期限ヲ以テ臨時國庫證券ヲ發行スルコトヲ得其ノ借換ノ爲必要アルトキ亦同シ

第二條 臨時國庫證券ノ最高發行額ハ八億圓トス但シ借換ノ爲發行スルモノハ此ノ制限ヲ超過スルコトヲ得

第三條 (削除)

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二章 參考諸法規

附 則 (大正十年四月八日法律第四十五號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年三月十三日勅令第三十二號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行)

○米穀法

●法律第三十六號 大正十年四月四日

改正 大正一四年第三六號、昭和六年第二號

第一條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲必要アリト認ムルトキハ米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得

第二條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀ノ輸入稅ヲ増減若ハ免除シ又ハ其ノ輸入又ハ免除スルコトヲ得
(昭和六年三月第三號ヲ以テ改正)

第三條 米穀ノ輸入又ハ輸出ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
(昭和六年三月第三號ヲ以テ改正)

第四條 政府ガ帝國內ニ於テ第一條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲スハ米價ガ政府ノ告示シタル最低價格又ハ最高價格ヲ超エ低落又ハ騰貴シタル場合ニ限ル但シ米穀ノ買換、貯藏米穀整理ノ爲ニスル賣渡、輸入ヲ目的トスル米穀ノ買入及輸出ヲ目的トスル米穀ノ賣渡ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ
(昭和六年三月第三號ヲ以テ追加)

前項ノ米價ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ指定スル市場ノ相場ニ依リ之ヲ定ム(昭和六年三月第三號ヲ以テ追加)

第一項ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定メ

同項但書ノ場合ヲ除ク外之ヲ告示ス(昭和六年三月第三號ヲ以テ追加)

第五條 前條ノ最低價格又ハ最高價格ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル事項ヲ基礎トシ之ヲ定ム(昭和六年三月第三號ヲ以テ追加)

米穀生産費

家計費

米價指數ノ物價指數ニ對スル割合ノ趨勢ニ依リ算出シタル價格

第六條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價調節上米穀現在高調査ノ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ生産者、取引業者、倉庫業者其ノ他占有者ニ對シ調査ニ必要ナル事項ノ報告ヲ命シ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ其ノ營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ檢査セシムルコトヲ得(昭和六年三月第三號ヲ以テ追加)

第七條 第三條ノ規定ニ違反シテ米穀ヲ輸入又ハ輸出シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ米穀ヲ沒收ス若シ其ノ米穀ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス(昭和六年三月第三號ヲ以テ追加)

營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ前項ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ(昭和六年三月第三號ヲ以テ追加)

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ

〇米穀法施行令

勅令第七十號 昭和六年六月三十日

第一條 米穀法第三條ノ規定ニ依リ米穀ノ輸入又ハ輸出ノ許可ハ内地ニ於テハ農林大臣、朝鮮ニ於テハ朝鮮總督、臺灣ニ於テハ臺灣總督、樺太ニ於テハ樺太廳長官之ヲ行フ

朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官ハ豫メ農林大臣ト議シ毎年許可ニ依リ輸入セラルベキ米穀ノ數量ヲ定ム其ノ數量ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ米穀法第三條ノ規定ニ依リ許可ハ之ヲ受クルコトヲ要セズ

一 通商航海條約ニ別段ノ定アルトキ

二 政府ガ米穀法ニ依リ米穀ヲ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ委託ヲ受ケ米穀ヲ輸入又ハ輸出スルトキ

三 船用品タル米穀、標本米其ノ他之ニ準ズベキ米穀ヲ輸入又ハ輸出スルトキ

前項第三號ニ規定スル米穀ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 米穀法第四條ノ最低價格ハ米穀生産費ト米價指數ノ物價指數ニ對スル割合ノ趨勢ニ依リ算出シタル價格(率勢米價)ノ下値ニ割ニ相當スル價格トノ範圍内ニ於テ適當ト認ムル價格ニ依リ之ヲ定ム

第四條 米穀法第四條ノ最高價格ハ家計費ヲ基礎トシテ算出シタル價格(家計米價)ト率勢米價ノ上値ニ割ニ相當スル價格トノ範圍内ニ於テ適當ト認ムル價格ニ依リ之ヲ定

其ノ業務ニ關シ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ(昭和六年三月第三號ヲ以テ追加)

法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス(昭和六年三月第三號ヲ以テ追加)

第八條 六條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ職務ヲ執行ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス(昭和六年三月第三號ヲ以テ改正)

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和六年六月三十日勅令第六十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内第四條ノ最低價格又ハ最高價格ハ第五條ノ規定ニ拘ラズ米價指數ノ物價指數ニ對スル割合ノ趨勢ニ依リ算出シタル價格ヲ基礎トシ之ヲ定ム(參照)

朝鮮(本法第二條ハ昭和三年二月二十二日勅令第十八號第三條及第七條ハ六年六月三十日勅令第六十九號ヲ以テ施行)

臺灣(本法第二條ハ大正十五年七月十五日勅令第二百五十九號第三條及第七條ハ昭和六年六月三十日勅令第六十九號ヲ以テ施行)

樺太(本法第二條ハ昭和五年十月三十日勅令第二百五號第三條及第七條ハ六年六月三十日勅令第六十九號ヲ以テ施行)

第五條 米穀法第五條ノ米穀生産費ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年調査シタル各農家ノ玄米一石當生産費(例外ト認ムルモノヲ除ク)ヲ平均シテ之ヲ算出ス

前項ノ玄米一石當生産費ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ掲グル費用ノ合計額ヨリ副収入ノ金額ヲ控除シタルモノヲ米穀收量ヲ以テ除シテ之ヲ算出ス

一 種粳代

二 肥料代

三 勞賃

四 畜力費

五 諸材料費

六 農舍費

七 農具費

八 租稅其ノ他ノ公課

九 土地資本利子

十 小作料

前項各號ニ掲グル事項、副収入及米穀收量ノ調査方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 第四條ノ家計米價ハ命令ノ定ムル所ニ依リ白米一石當價格ヲ玄米一石當價格ニ換算シテ之ヲ定ム

前項ノ白米一石當價格ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ毎年調査シタル各世帯ノ家計費(例外ト認ムルモノヲ除ク)ニ依リ算定スル平均家計費中ノ米代ト平均家計費中ノ副食物

費、嗜好品費、交際費、修養娛樂費、旅行費及貯金額ノ合計額ニ別ニ告示スル割合ヲ乗ジタル額トノ合計額ヲ平均一世帶當白米消費量ヲ以テ除シテ之ヲ算出ス

第七條 率勢米價ノ算出ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 米穀法第四條ノ最低價格及最高價格ハ毎年十二月ニ之ヲ決定ス

第九條 經濟狀況ノ異常ナル變動ニ因リ物價ノ變動著シキ場合ニ於テハ最低價格及最高價格ハ第三條及第四條ノ規定ニ準ジテ之ヲ改定スルコトヲ得

九月一日以後米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジタル場合又ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テハ最低價格ハ率勢米價ノ下値二割ニ相當スル價格ヲ以テ之ヲ改定スルコトヲ得

第十條 最低價格又ハ最高價格ヲ決定又ハ改定シタル場合ニ於テハ之ヲ告示ス

第十一條 主務大臣ハ米穀法第五條ノ米穀生産費及家計費ヲ調査スル爲道府縣、市町村及市町村長ニ對シ調査上必要ナル事務ヲ行フベキコトヲ命ジ並ニ適當ト認ムル者ニ對シ記帳及報告ヲ命ズルコトヲ得

第十二條 米穀法第四條第二項ノ市場ハ農林大臣之ヲ指定ス

米穀法第四條第一項ノ米價ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ニ該當スル内地米ニシテ前項ノ市場ニ於テ毎日取引セラレタルモノノ相場ニ依リ之ヲ

○米穀法施行規則

●農林省令第十三號 昭和六年七月一日

第一條 米穀法第三條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

一 生産地

二 種類別數量

三 用途

四 輸入ノ場合ニ在リテハ積出港及輸入港、輸出ノ場合ニ在リテハ輸出港及陸揚港

五 輸入又ハ輸出ノ時期

前項第二號ノ種類別數量ハ銘柄別、年産別、粳又ハ糯ノ別、粳、玄米又ハ白米ノ別及丸粒又ハ碎米ノ別毎ニ重量ヲ記載スベシ

第二條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ米穀輸入許可申請書ノ提出時期ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

自家用其ノ他特別ノ事由ニ依リ米穀ヲ輸入セントスル者ハ第一項ノ指定ニ拘ラズ隨時米穀輸入許可申請書ヲ提出スルコトヲ得

第三條 米穀ノ輸入又ハ輸出ノ許可ヲ受ケタル者第一條第一項各號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ農林大臣ノ許可ヲ受クベシ

第四條 米穀法施行令第二條第一項第一號ノ場合ニ於テ米

定ム

第十三條 前條第一項ノ規定ニ依リ指定シタル市場ノ開設者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ市場ニ於テ取引セラレタル米穀ノ相場及數量ヲ農林大臣ニ報告スベシ

第十四條 日本銀行ハ卸賣物價ニ關スル調査ノ結果ヲ毎月農林大臣ニ報告スベシ

第十五條 米穀ノ買換ヲ行フ場合ニ於ケル賣渡及買入ハ同時期ニ於テ之ヲ行フ但シ八月ヨリ十月迄ノ間ニ於テ賣渡ヲ行ヒ新米ノ出廻期ニ於テ買入ヲ行フ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本令ハ昭和六年法律第三十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和三年勅令第二十二號（米穀法第二條ノ規定ニ依ル米穀ノ輸入制限ニ關スル件）ハ之ヲ廢止ス

本令施行前昭和三年勅令第二十二號ノ規定ニ依リ爲シタル許可ハ米穀法第三條ノ規定ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

當分ノ内第三條及第四條ノ規定ニ拘ラズ米穀法第四條ノ最低價格ハ率勢米價ノ下値二割ニ相當スル價格ニ依リ、同條ノ最高價格ハ率勢米價ノ上値二割ニ相當スル價格ニ依リ之ヲ定ム

米穀法第四條ノ最低價格及最高價格ハ昭和六年ニ限り七月及十二月ニ之ヲ決定ス

穀ヲ輸入又ハ輸出スル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ其ノ輸入又ハ輸出ノ手續ヲ爲スベキ稅關ニ提出スベシ

一 輸入ノ場合ニ在リテハ生産地、輸出ノ場合ニ在リテハ陸揚港

二 種類別數量

米穀ヲ輸入スル者ノ提出スル前項ノ書面ニハ生産地又ハ輸出地ノ帝國領事館、帝國領事館ナキトキハ其ノ地ノ官廳公署又ハ商工會議所ノ證明アルコトヲ要ス

米穀ヲ輸出スル者ハ契約書其ノ他ノ書類ニ依リ第一項各號ニ掲グル事項ノ眞實ナルコトヲ證明スベシ

第一項第二號ノ種類別數量ハ第一條第二項ノ規定ニ準ジ之ヲ記載スベシ

米穀法施行令第二條第一項第二號ノ場合ニ於テ米穀ヲ輸入又ハ輸出スル者ハ其ノ輸入又ハ輸出ノ手續ヲ爲スベキ稅關ニ契約書其ノ他ノ書類ヲ示シ其ノ米穀ガ政府ノ委託ニ依リ輸入又ハ輸出セラレルモノナルコトヲ證明スベシ

第五條 米穀法施行令第二條第一項第三號ニ規定スル米穀ノ範圍左ノ如シ

一 外國貿易船ガ沿海通航船ト爲リ又ハ沿海通航船ガ外國貿易船ト爲リタル場合ニ於テ輸入又ハ輸出セララル船用品タル米穀

二 帝國內ニ於テ外國貿易船ニ積込マルル船用品タル米穀

三 標本米又ハ見本米ニシテ郵便物タルモノ
 四 旅客ノ携帶品タル米穀ニシテ百斤ヲ超エザルモノ
 第六條 米穀生産費ノ調査ハ水稻ニ付之ヲ行フ
 第七條 米穀生産費ノ調査ハ各府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ於ケル左ニ掲グル要件ヲ具備スル自作農又ハ小作農ニシテ毎年府縣知事ノ推薦ニ基キ農林大臣ニ於テ選定シタルモノニ付之ヲ行フ

一 主要米産地ニ於テ其ノ地方ニ普及セル品種ノ水稻作ヲ主要トスルコト
 二 段當收量中位ナルコト
 三 經營ノ規模中位ナルコト
 四 中庸ナル生産費ヲ得ルニ不適當ナル事情ナキコト
 第八條 米穀法施行令第五條第二項第一號ノ種籾代ハ選種當時ニ於ケル種籾原料ノ農家ノ庭先相場ニ依リ之ヲ算定ス

第九條 米穀法施行令第五條第二項第二號ノ肥料代ハ購入シタル肥料ニ付テハ其ノ購入代金其ノ他購入ニ要シタル費用ニ依リ、購入セザル肥料ニ付テハ市價アルモノハ施肥當時ニ於ケル市價ニ依リ、市價ナキモノハ別ニ定ムル肥料成分ノ價格ニ依リ之ヲ算定ス

第十條 米穀法施行令第五條第二項第三號ノ勞賃ハ日雇勞働及季節雇勞働ニ付テハ賃銀及實物給與ノ評價額ノ合計金額ニ依リ、自家勞働及之ニ準ズル勞働竝ニ年雇勞働ニ付テハ作業當時ニ於ケル當該地方ノ通常ノ日雇勞賃ニ依

リ之ヲ算定ス

第十一條 米穀法施行令第五條第二項第四號ノ畜力費ハ使役當時ニ於ケル當該地方ノ同種類ノ家畜ノ通常ノ賃借料ニ依リ之ヲ算定ス但シ賃借シタル家畜ニ付テハ其ノ賃借料(實物給與ノ評價額ヲ含ム)ニ依ル

第十二條 米穀法施行令第五條第二項第五號ノ諸材料費ハ左ニ掲グル材料ニ付購入シタルモノニ在リテハ其ノ購入代金其ノ他購入ニ要シタル費用ニ依リ、購入セザルモノニ在リテハ市價アルモノハ市價ニ依リ、市價ナキモノハ其ノ評價額(原料費、勞賃等ニ依リ評價ス)ニ依リ之ヲ算定ス

一 選種用材料
 二 病蟲害驅除豫防用材料
 三 器具機械用材料
 四 包装用材料
 五 前各號ニ準ズル用途ニ使用セラレタル材料

第十三條 米穀法施行令第五條第六號ノ農舍費ハ農舍(住宅、納屋、作業場、肥料舍、倉庫其ノ他ノ工作物ヲ謂フ以下同ジ)ニ付テハ其ノ減價額及修繕費ノ合計金額ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノニ依リ、農舍敷地(乾場其ノ他農舍ノ附屬地ヲ含ム以下同ジ)ニ付テハ其ノ地代(類地ノ賃借料ニ依リ評價ス)ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノニ依リ之ヲ算定ス但シ賃借シタル農舍又ハ農舍敷地ニ付テハ其ノ賃借料ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノニ依

ル 前項ノ減價額ハ各農舍ニ付當該年ニ於テ行ヒタル評價額ヲ維持見込年數ヲ以テ除シタルモノトシ前項ノ修繕費ハ通常ノ年當修繕費トス

第一項ノ米作負擔割合ハ各農舍又ハ農舍敷地ガ米ノ生産ニ供セラレタル割合ニ依リ之ヲ定ム

第十四條 米穀法施行令第五條第二項第七號ノ農具費ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ算定ス

- 一 農林大臣ノ指定スル農具ニ付テハ其ノ減價額及修繕費ノ合計金額ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノニ依ル但シ賃借シタルモノニ付テハ其ノ賃借料ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノトス
 - 二 前號以外ノ農具ニ付テハ當該年ニ於テ新調シタルモノニ在リテハ其ノ新調ニ要スル費用及當該年ニ於ケル修繕費ノ合計金額ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノニ依リ當該年前ニ於テ新調シタルモノニ在リテハ當該年ニ於ケル修繕費ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノニ依ル
- 前項第一號ノ減價額ハ當該年ニ於テ新調シタル農具ニ在リテハ其ノ新調ニ要スル費用ヲ其ノ農具ノ維持見込年數ヲ以テ、當該年前ニ於テ新調シタルモノニ在リテハ當該年ニ於テ其ノ新調ニ要スル費用見込金額ヲ新調農具ノ維持見込年數ヲ以テ除シタルモノトシ同項同號ノ修繕費ハ通常ノ年當修繕費トス

第一項ノ米作負擔割合ハ各農具ノ米ノ生産ニ供セラレタル割合ニ依リ之ヲ定ム

第十五條 米穀法施行令第五條第八號ノ租稅其ノ他ノ公課ハ當該年ニ於テ徵收セラルル左ニ掲グル租稅其ノ他ノ公課ノ金額ニ米作負擔割合ヲ乗ジテ之ヲ算定ス

- 一 田租及其ノ附加稅竝ニ田ニ對スル段別割、特別地稅及其ノ附加稅
- 二 家屋稅及其ノ附加稅
- 三 雜種稅
- 四 水利組合費
- 五 農會費

前項ノ米作負擔割合ハ前項第一號ノ租稅及第五號ノ農會費中地租割又ハ段別割ニ依リ賦課セラルルモノニ在リテハ米作粗收入ノ米作及裏作粗收入ニ對スル割合ニ依リ、同項第二號乃至第四號ノ租稅其ノ他ノ公課ニ在リテハ家屋其ノ他ノ課稅物件(水利組合費ニ在リテハ組合費賦課ノ標準ト爲リタル物件)ガ米ノ生産ニ供セラレタル割合ニ依リ、同項第五號ノ農會費中會員割ニ依リ賦課セラルルモノニ在リテハ米作粗收入ノ農業經營ニ基ク粗收入ニ對スル割合ニ依リ之ヲ定ム

第十六條 米穀法施行令第五條第九號ノ土地資本利子ハ類地ノ通常小作料ノ評價額ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノヨリ前條ノ規定ニ依リ算定セラルル租稅其ノ他ノ公課(同條第一項第二號及第三號ノ租稅竝ニ第五號ノ農

會費中會員割ニ依リ賦課セラルルモノヲ除クノ金額ヲ控除シテ之ヲ算定ス

前項ノ米作負擔割合ハ米作粗收入ノ米作及裏作粗收入ニ對スル割合ニ依リ之ヲ定ム

第一項ノ通常小作料ノ評價ハ當該地方ニ於ケル米穀ノ收穫終了當時ノ農家ノ庭先相場ニ依リ之ヲ行フ

第十七條 米穀法施行令第五條第二項第十號ノ小作料ハ實納小作料ノ評價額(納入費用ヲ含ム)ヨリ獎勵金額又ハ獎勵米ノ評價額ヲ控除シタルモノニ米作負擔割合ヲ乘ジテ之ヲ算定ス

前項ノ實納小作料及獎勵米ノ評價ハ收穫終了當時ノ農家ノ庭先相場ニ依リ之ヲ行フ

第一項ノ米作負擔割合ハ米作粗收入ノ米作及裏作粗收入ニ對スル割合ニ依リ之ヲ定ム

第十八條 米穀法施行令第五條第二項ノ副收入ハ收穫終了當時ノ農家ノ庭先相場ニ依リ之ヲ算定ス

第十九條 米穀法施行令第五條第二項ノ米穀收量ハ包裝シタル玄米ノ容量ニ依リ之ヲ算定ス

第二十條 第七條ノ規定ニ依リ選定セラレタル者ハ別ニ配布スル帳簿又ハ用紙ニ依リ米穀法施行令第五條第二項各號ニ掲グル事項並ニ副收入及米穀收量ニ關シ記帳ヲ爲シ府縣知事ヲ經由シ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

第二十一條 府縣知事ハ農林大臣ノ命ヲ承ケ府縣内ノ米穀生産費調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第二十二條 米穀生産費調査ノ爲實地指導監督ノ事務ニ從事スル者ニハ別ニ定ムル徽章ヲ交付シ職務執行ノ際之ヲ佩用セシム

第二十三條 米穀生産費調査ノ事務ニ從事シタル者ハ其ノ職務執行中知得シタル個人ニ關スル事項ヲ故ナク他ニ漏洩スベカラズ

第二十四條 米穀法施行令第六條第一項ノ規定ニ依リ白米一石當價格ヲ玄米一石當價格ニ換算スル場合ニ於テハ其ノ換算ハ家計調査施行規則第一條ノ家計費ノ調査期間内ニ於ケル玄米價格ノ白米價格ニ對スル割合ヲ白米一石當價格ニ乘ジテ之ヲ行フ

第二十五條 率勢米價ハ明治三十三年十一月一日以後各米穀年度ニ於ケル米價指數ノ物價指數ニ對スル割合(米價率)ヨリ附録ニ定ムル算式ニ依リ算出シタル當該米穀年度ニ於ケル米價率ノ趨勢値ヲ當該米穀年度ノ十一月ノ物價指數ニ乘ジタルモノヲ十一圓八十一錢ニ乘ジテ之ヲ算出ス但シ米穀法施行令第九條ノ規定ニ依リ最低價格又ハ最高價格ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ基礎ト爲ルベキ率勢米價ニ付テハ米價率ノ趨勢値ヲ乘ズベキ物價指數ハ改定ノ月ノ前月ノ物價指數トス

前項ノ米價指數及物價指數ハ日本銀行ノ行ヒタル卸賣物價ニ關スル調査ニ依リ之ヲ算定ス

第一項ノ米穀年度ハ前年ノ十一月一日ヨリ其ノ年ノ十月三十一日迄トス

第二十六條 米穀法第四條第一項ノ米價ハ農林大臣ノ指定シタル各銘柄及等級ニ該當スル内地米ニシテ農林大臣ノ當平均取引價格ノ總和ヲ平均シテ之ヲ定ム

前項ノ一石當平均取引價格ハ各銘柄及等級別ニ其ノ取引總金額ヲ取引總數量ヲ以テ除シテ之ヲ算出ス

第二十七條 農林大臣ノ指定シタル市場ノ開設者ハ毎日其ノ市場ニ於テ取引セラレタル内地米ニシテ農林大臣ノ指定スル各銘柄及等級ニ該當スルモノノ各銘柄及等級別ノ取引總金額及取引總數量ヲ農林大臣ニ報告スベシ

第二十八條 第二十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十九條 第二十條ノ規定ニ依リ記帳及報告ヲ爲スベキ者故意ニ記帳若ハ報告ヲ爲サズ又ハ不實ノ記帳若ハ報告ヲ爲シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ者ヲシテ記帳若ハ報告ヲ爲サズ又ハ不實ノ記帳若ハ報告ヲ爲シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

第三十條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計若ハ威力ヲ用ヒテ米穀生産費ノ調査ヲ妨ゲタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第二十七條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキ者故意ニ報告ヲ爲サズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ者ヲシテ報告ヲ爲スコトヲ得ザラシメ又ハ不實ノ報告ヲ爲サシメタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

第三十二條 本則中府縣又ハ府縣知事トアルハ北海道又ハ北海道廳長官ヲ包含スルモノトス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和三年農林省令第一號(米穀法第二條ノ規定ニ依ル米及穀ノ輸入制限ニ關スル勅令)ノ施行ニ關スル件)ハ之ヲ廢止ス

附錄

$$Y = \frac{V_1 V_2 V_3 \dots V_n}{V_1 V_2 V_3 \dots V_n} + \frac{V_1 V_2 V_3 \dots V_n}{V_1 V_2 V_3 \dots V_n} X$$

ハ率勢米價ノ算定セララルル年度(年度トハ米穀年度トス以下同ジ)ニ於ケル米價率ノ趨勢値

ハ明治三十四年度ヲ第一年度トシ率勢米價ノ算定セララルル年度ノ前年度ニ至ル各年度ノ年次ヲ表ス數

ハ明治三十四年度ヨリ率勢米價ノ算定セララルル年度ノ前年度ニ至ル各年度ニ於ケル米價率

ハ明治三十四年度ヨリ率勢米價ノ算定セララルル年度ノ前年度ニ至ル各年度ノ數

ハ明治三十四年度ヨリ率勢米價ノ算定セララルル年度ニ至ル各年度ノ數

○米穀證券發行規程

大正一〇年第一七號 改正大正一一年第四四號

大藏省令第八號 昭和六年四月一日

第一條 米穀供給調節特別會計法第三條及第四條ノ二ニ依リ發行スル證券ハ米穀證券トス

第二條 米穀需給調節特別會計法第三條ニ依り發行スル米穀證券ノ額面金額ハ之ヲ一定セス

第三條 米穀需給調節特別會計法第三條ニ依り發行スル米穀證券ノ發行及交付ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ル

一本證券ハ買入米穀ノ受渡ヲ爲シタル日ヲ以テ之ヲ發行ス

二本證券ハ其ノ發行日ノ屬スル年度ノ翌年度四月一日ニ額面金額ヲ以テ之ヲ支拂フ

三本證券ニハ利子ヲ附セス

四米穀需給調節特別會計法第四條ノ割引歩合ハ別ニ之ヲ告示ス

五米穀賣渡人本證券ノ交付ヲ受ケントスルトキハ額面金額、枚數、發行日、交付ヲ受クヘキ國債事務取扱店及住所氏名(商號其ノ他ノ名稱)ヲ記載シタル請求書ニ米穀賣買契約ニ使用シタル印章ヲ捺捺シ之ヲ農林省ニ提出スヘシ

六本證券ヲ交付スルトキハ農林省ハ別紙書式ノ米穀證券交付通知書ヲ米穀賣渡人ニ交付ス

七米穀賣渡人ハ前條ノ米穀證券交付通知書ノ領收證欄内ニ式ノ如ク署名シ米穀賣買契約ニ使用シタル印章ヲ捺捺シ指定ノ取扱店ニ差出シ之ヲ引換ニ本證券ヲ受領スヘシ

第四條 米穀證券ヲ割引歩合入札ノ方法ニ依り發行セント

第四條 米穀證券ヲ割引歩合入札ノ方法ニ依り發行セント

米穀證券交付通知書領收證

第 號	日本銀行	受 取 人
指 定 取 扱 店	「何 店」	「氏 名」
米穀證券額面「何」圓也		
發行日	昭和 年 月 日	
支拂期日	昭和 年 月 日	
右證券ハ前記指定ノ取扱店ニテ之ヲ受取ルヘシ	農林省農務局長 「氏 名 印」	
前記ノ證券正ニ領收候也		受取人「氏 名 印」
昭和 年 月 日		
住 所		

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別紙書式

(表面)

スルトキハ大藏省證券入札發行規程ノ各條項ヲ準用ス但シ同規程第二條ニ規定スル應募額ノ制限ニ付テハ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(表面)

(裏面)

(注意事項)

一、受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印シ證券領收ノ證トシテ之ヲ指定ノ取扱店ニ差出シ證券ノ交付ヲ受クヘシ

一、受取人カ代人ヲ以テ證券ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ本人ニ於テ本書委任欄内ニ適宜ノ事項ヲ記載シ記名捺印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此場合ニ於テ代人ハ本書ニ代人タルノ肩書ヲ附シ記名捺印スヘシ

一、受取人ノ印章ハ賣買契約ニ使用シタル印鑑ト同一ノモノニ限ル

印 紙	委 任 欄
表書證券ノ受取方ヲ	ニ委任仕候也
昭和 年 月 日	

○健康保險積立金運用規則

●勅令第三十四號 昭和五年二月二十七日

第一條 健康保險特別會計法ニ依ル積立金ハ内務大臣之ヲ管理スベシ

第二條 積立金ハ國債ヲ以テ之ヲ保有シ又ハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルルコトヲ得

第十二章 參考諸法規

第三條 所管大臣ハ部下ノ官吏ニ命ジテ積立金ノ出納ヲ執行セシムルコトヲ得

第四條 積立金ノ出納ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○簡易生命保險積立金運用規則

●勅令第六十八號 大正六年七月十七日

改正 大正九年第四六九號

第一條 簡易生命保險特別會計法ニ依ル積立金ハ遞信大臣之ヲ管理スヘシ

第二條 積立金ハ簡易生命保險法第二十六條ノ規定ニ依リ保險契約者ニ貸付ヲ爲ス場合ヲ除クノ外簡易生命保險積立金運用委員會ニ諮問シ公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用スヘシ

第三條 所管大臣ハ毎年度積立金ノ運用ニ關シ必要ナル計畫ヲ定メ豫メ簡易生命保險積立金運用委員會ニ付議スヘシ其ノ豫定ノ計畫ヲ變更スルトキ亦同シ

第四條 積立金ニシテ放資ニ至ラサルモノハ一時之ヲ大藏省預金部又ハ銀行ニ預入シ其ノ他有利且確實ナル有價證券ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得

第五條 所管大臣ハ部下ノ官吏ニ命ジテ積立金ノ出納ヲ執行セシムルコトヲ得

第六條 積立金ノ出納ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第七條 簡易生命保險積立金運用委員會ハ逓信大臣ノ監督ニ屬シ會長一人委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第八條 會長ハ逓信大臣ヲ以テ之ニ充ツ

會長ハ會務ヲ總理ス

委員ハ逓信大臣ノ奏請ニ依リ各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第九條 簡易生命保險積立金運用委員會ニ幹事ヲ置ク逓信大臣ノ奏請ニ依リ逓信部内ノ高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條 簡易生命保險積立金運用委員會ニ書記ヲ置ク逓信部内ノ判任官ノ中ヨリ逓信大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○簡易生命保險積立金貸付規則

逓信省令第七十四號 大正八年八月十九日

改正 大正九年第一〇五號、第二四號、一五年第二號、

第一條 簡易生命保險特別會計法ニ依リ積立金ハ簡易生命保險積立金運用規則第二條ノ規定ニ基キ公共團體又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ組合ニ對シ本規則ノ定ムル所ニ依リ貸付ヲ爲ス

第二條 積立金ノ貸付ハ年賦償還貸付、半年賦償還貸付及定期償還貸付トス

第三條 年賦償還貸付及半年賦償還貸付ニ在リテハ元金ト利息トヲ併セテ之ヲ計算シ毎期同一ノ金額ヲ償還セシム
貸付金ノ年賦及半年賦償還ニ付テハ五年内ノ据置期間ヲ設ケルコトヲ得但シ其ノ期間内ノ利息ハ此ノ限ニ在ラス
年賦償還貸付及半年賦償還貸付ノ貸付期間ハ前項ノ据置期間ヲ除キ二十五年内トス

第四條 定期償還貸付ニ在リテハ一回又ハ數回ニ元金ヲ償還セシム

定期償還貸付ノ貸付期間ハ五年内トス

第五條 年賦償還貸付及半年賦償還貸付ニシテ据置期間ヲ設ケタルモノニ在リテハ契約ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間中ニ於テ貸付後一年内ヲ限り貸付金ノ分割交付ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ定期償還貸付ニ付之ヲ準用ス

第六條 地方自治團體ニ非サル者ニ積立金ノ貸付ヲ爲ス場合ニハ借主ヲシテ擔保ヲ提供シ又ハ保證人ヲ立テシムルコトアルヘシ

第七條 積立金ヲ借入レムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル簡易生命保險積立金借入申込書正副二通ニ記名調印ノ上其ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル逓信局ヲ經由シテ之ヲ逓信大臣ニ提出スヘシ

- 一 金額
- 二 目的
- 三 償還方法
- 四 完済期限

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
小額紙幣ハ講和條約調印ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ發行セス

○小額紙幣發行期限ニ關スル法律

●法律第六號 大正九年七月二十七日

大正六年勅令第二百二號ニ依ル小額紙幣ハ當分ノ内之ヲ發行スルコトヲ得但シ二十錢及十錢ノ小額紙幣ハ損傷紙幣引換ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外大正十年四月一日以後之ヲ發行セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○産業組合中央金庫法

●法律第四十二號 大正十二年四月六日

改正 昭和六年第六三號

第一章 總則

第一條 産業組合中央金庫ハ法人トシ其ノ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

産業組合中央金庫ノ組織ハ有責任トス

第二條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ從タル事務所ヲ必要ナリトスルトキハ産業組合中央金庫ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

第三條 産業組合中央金庫ノ存立期間ハ設立許可ノ日ヨリ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ經テ存立期間ヲ延長スルコトヲ得

第四條 産業組合中央金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬圓ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス

第五條 政府、産業組合聯合會又ハ産業組合ノ外産業組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得ス

第六條 政府ハ千五百萬圓ヲ限リ産業組合中央金庫ニ出資スヘシ政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於テ五百萬圓ヲ拂込ミ爾後毎年五百萬圓宛拂込ムモノトス政府以外ノ出資者ハ其ノ出資ニ對シ設立當初ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十箇年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス

第七條 産業組合法中産業組合ニ關スル規定ハ本法ニ別段

ノ規定アルモノヲ除クノ外産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第八條 産業組合中央金庫ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス登錄稅法及印紙稅法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第九條 産業組合中央金庫ニ理事長、副理事長各一人理事、監事各三人以上ヲ置ク

第十條 理事長ハ産業組合中央金庫ヲ代表シテ其ノ事務ヲ總理ス

第十一條 理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ任命ス

第十二條 産業組合中央金庫ニ評議員二十名以内ヲ置キ主務大臣之ヲ任命ス但シ其ノ半數以上ハ産業組合關係者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

評議員ハ名譽職トシ定款ノ定ムル所ニ依リ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ就キ理事長ノ諮問ニ應スルモノトス

評議員ノ任期ハ三箇年トス

第三章 業 務

第十三條 産業組合中央金庫ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス

- 一 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ擔保ヲ徵セシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト
- 二 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ擔保ヲ徵セシテ三十箇年以内ノ年賦償還貸付ヲ爲スコト但シ其ノ金額ハ拂込出資金及産業債券發行額ノ二分ノ一ヲ超エサルモノトス(昭和六年五月第六號ヲ以テ追加)
- 三 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト
- 四 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ爲替業務ヲ爲スコト
- 五 産業組合聯合會、産業組合、公共團體其ノ他營利ヲ目的トセサル法人ヨリ預リ金ヲ爲スコト
- 六 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ有價證券ノ保護預リヲ爲スコト(昭和六年五月第六號ヲ以テ追加)
- 七 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ有價證券ノ委託賣買ヲ爲スコト(昭和六年五月第六號ヲ以テ追加)
- 第十四條 産業組合中央金庫ハ必要アリト認メタル場合ニ於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得
- 第十五條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二 産業組合聯合會又ハ産業組合ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第十六條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第四章 産業債券

第十七條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十八條 産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十九條 産業組合中央金庫ハ産業債券借換ノ爲一時第十條ノ制限ニ依ラス低利ノ産業債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ産業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊産業債券ヲ償還スヘシ

第二十條 産業組合中央金庫ニ於テ産業債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 産業債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五箇年、利子ニ在リテハ五箇年ヲ以テ完成ス

第二十二條 産業債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第五章 計算

第二十三條 産業組合中央金庫ノ事業年度ハ一箇年トス

第二十四條 産業組合中央金庫ハ毎事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第六章 監督及補助

第二十五條 主務大臣ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監督ス

本法中主務大臣トアルハ【農商務大臣】及大藏大臣トス

第二十六條 産業組合中央金庫ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ業務ニ關スル諸般ノ狀況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十九條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ産業組合中央金庫ノ貸付又ハ割引ノ金額若ハ方法ヲ制限スルコトヲ得

第三十條 産業組合中央金庫ノ貸付金利子ノ最高歩合ハ毎事業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

其ノ事業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十一條 主務大臣ハ特ニ産業組合中央金庫監理官ヲ置キ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監視セシム

第三十二條 産業組合中央金庫監理官ハ何時ニテモ産業組合中央金庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ産業組合中央金庫ニ命シテ業務上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ出資者總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十三條 産業組合中央金庫ハ創立初期ヨリ十五箇年間政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第七章 罰則

第三十四條 左ノ場合ニ於テハ産業組合中央金庫ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千圓以下ノ料科ニ處ス

一 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二 主務大臣ノ命令ニ反シタルトキ

三 第十五條ノ規定ニ反シ業務上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第十六條ノ規定ニ反シ本法ニ規定セサル業務ヲ營ミ

○臺灣ノ金融機關ニ對スル資金融通ニ關スル法律

●法律第五十六號 昭和二年五月九日

第一條 政府ハ臺灣統治ノ必要上臺灣ニ於ケル金融機關ヲシテ其ノ機能ヲ維持セシムル爲メ又ハ海外ニ於ケル帝國ノ信用ヲ維持スル爲メ必要アリト認ムルトキハ日本銀行ヲシテ臺灣ニ於ケル金融機關ニ對シ手形割引ノ方法ニ依リ二億圓ヲ限リ資金ノ融通ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條 日本銀行ヲシテ前條ノ融通ノ爲ニスル手形割引ヲ爲サシムル期間ハ本法施行ノ日ヨリ一年トス

第三條 政府ハ本法ニ依ル融通ニ因リテ日本銀行ガ損失ヲ受ケタルトキハ同行ニ對シ二億圓ヲ限リ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第四條 本法ニ依ル融通ニ因リテ日本銀行ノ受ケタル損失及其ノ額ハ日本銀行特別融通及損失補償法第五條ノ特別融通損失審査會之ヲ決定ス

第五條 日本銀行特別融通及損失補償法第三條、第四條第二項及第六條乃至第八條ノ規定ハ本法ニ依ル融通、之ニ因ル日本銀行ノ損失及其ノ補償ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○絲價安定融資補償法

●法律第十四號 昭和四年三月二十八日

第一條 生絲ノ價格ガ一般經濟狀況ニ照シ異常ナル低落ヲ爲シ蠶絲業ノ基礎ヲ危クスル虞アル場合ニ於テ其ノ價格ノ安定ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ政府ハ銀行ガ生絲ノ製造又ハ加工ヲ爲ス者ニ對シ主務大臣ノ定ムル條件ニ從ヒ生絲ヲ擔保トシ手形割引ノ方法ニ依リ資金ノ融通ヲ爲ス場合ニ於テ之ニ因リ損失ヲ受クルトキ銀行ニ對シ其ノ損失ニ付補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ生絲ノ製造又ハ加工ヲ爲ス者ニ對シ資金ノ融通ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ者ニ對シ銀行ガ前項ノ條件ニ從ヒ生絲ヲ擔保トシ手形割引ノ方法ニ依リ資金ノ融通ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

一 生絲ノ問屋

二 主務大臣ガ絲價委員會ノ議ヲ經テ適當ト認ムル者

前二項ノ規定ニ依リ政府ガ損失補償ノ契約ヲ爲スニ付テハ絲價委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス

絲價委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 損失補償ノ契約ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日ヨリ五年トス

第三條 損失補償ノ契約ニ基キ政府ノ支拂フベキ損失補償金ノ總額ハ三千萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四條 第一條ノ損失ハ銀行ガ擔保トシテ受取リタル生絲ニ付債權ノ辨濟ヲ受ケ尙不足アルトキ其ノ不足分トス前項ノ損失ニ付政府ノ補償スベキ額ハ損失補償ノ契約ニ定ムル金額ノ制限其ノ他ノ條件ニ從ヒ絲價安定融資補償審査會之ヲ決定ス

第五條 銀行ガ擔保トシテ受取リタル生絲ヲ債權ノ辨濟ヲ受クル爲處分セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條 政府ガ銀行ニ對シテ支拂フベキ損失補償金ハ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第七條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第八條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ主務大臣之ヲ定ム

第九條 損失ノ補償ヲ受ケタル銀行ハ命令ノ定ムル所ニ依リ債權ノ取立ヲ爲シ其ノ取立金ヲ政府ニ納付スベシ
銀行ハ命令ノ定ムル所ニ依リ生絲ノ問屋其ノ他生絲ノ製造又ハ加工ヲ爲ス者ノ爲ニ生絲ノ販賣ヲ爲ス者ヲシテ其ノ取扱ニ係ル生絲ノ販賣代金中ヨリ前項ノ債權ノ取立ヲ爲シムルコトヲ得

第十條 損失ノ補償ヲ受クルノ契約ヲ爲シタル銀行ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ損失補償ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ契約ヲ解除シ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ損失補償金ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 主務大臣本法施行ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ生絲ノ製造又ハ加工ヲ爲ス者及第一條第二項各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ其ノ事業又ハ財產ニ關スル報告ヲ爲サシメ、其ノ事業又ハ財產ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條 本法ノ適用ニ付テハ産業組合中央金庫ハ之ヲ銀行ト看做ス
附則
本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年八月十三日勅令第二百五十六號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

○絲價安定融資補償法施行規則

●農林省令第二十號 昭和四年八月三十一日

第一條 農林大臣絲價安定融資補償法第一條ノ規定ニ依リ損失補償ノ契約ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ絲價委員會ノ議ヲ經テ左ノ事項ヲ定メ之ヲ告示ス

一 損失補償ノ條件

二 銀行（産業組合中央金庫ヲ含ム以下同ジ）ノ爲ス資金融通ノ條件

三 絲價安定融資補償法第一條第二項各號ノ一ニ該當スル者ノ爲ス資金融通ノ條件

四 其ノ他必要ナル事項

農林大臣前項各號ノ事項ヲ變更スルトキハ絲價委員會ノ議ヲ經テ之ヲ告示ス

第二條 銀行損失ノ補償ヲ受クルノ契約ヲ爲サントスルトキハ申請書ニ融通セントスル資金ノ總額、補償ヲ受ケントスル總金額並ニ資金ノ融通ヲ爲スベキ營業所ノ名稱及所在地ヲ記載シ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ
農林大臣ハ前項ノ申請ヲ爲シタル銀行ヲシテ損失補償ノ契約ヲ爲スニ付必要ト認ムル書類ヲ提出セシムルコトアルベシ

第三條 農林大臣損失補償ノ契約ヲ爲シタルトキハ契約ヲ爲シタル銀行ノ資金ノ融通ヲ爲スベキ營業所ノ名稱及所在地ヲ告示ス

第四條 銀行絲價安定融資補償法第五條第一項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

一 處分セントスル事由

二 處分セントスル生絲ノ數量、品質及保管ノ場所

三 處分ノ時期、場所及方法

第五條 銀行損失ノ補償ヲ受ケントスルトキハ請求書ニ損失ニ關スル計算書及必要ナル證據書類ヲ添ヘ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

第六條 銀行損失ノ補償ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク債權ノ取立ヲ爲スベシ但シ生絲ノ製造又ハ加工ヲ爲ス者ノ事業ノ經營ヲ困難ナラシムルノ虞アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ銀行ハ其ノ債權ニ付絲價安定融資補償法第九條第二項ノ規定ニ依リ取立ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ銀行ハ別ニ債權ノ取立方法ヲ定ムベシ

前二項ノ場合ニ於テハ銀行ハ其ノ取立方法ニ付農林大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第七條 農林大臣ハ銀行ニ對シ債權ノ取立方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他取立ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第八條 銀行絲價安定融資補償法第九條第二項ノ規定ニ依リ債權ノ取立ヲ爲サントスルトキハ生絲ノ問屋其ノ他債務者ノ爲ニ生絲ノ販賣ヲ爲ス者ニ債務者ノ氏名又ハ名

稱、債權ノ金額、取立ヲ爲サシメントスル金額其ノ他取立ニ關シ必要ナル事項ヲ通知スベシ

第九條 銀行債權ノ取立ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク取立金ヲ政府ニ納付スベシ但シ銀行補償ヲ受ケザル損失アル場合ニ於テハ政府ニ納付スベキ額ハ補償ヲ受ケタル額トシテ受ケザル額トノ割合ニ應ジ之ヲ定ム

銀行農林大臣ノ認可ヲ受ケテ手数料其ノ他取立ニ必要ナル費用ヲ支拂ヒタルトキハ取立金ヨリ先ヅ之ヲ控除スルコトヲ得

附則

本令ハ絲價安定融資補償法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○輸出補償法

●法律第六號 昭和五年五月十七日

第一條 政府ハ本法施行地内ニ住所又ハ營業所ヲ有スル者ガ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ生産、製造又ハ加工セラレタル商品ヲ本法施行地ヨリ主務大臣ノ指定スル地域ニ輸出スル爲メ振出シタル荷爲替手形ヲ銀行ガ買取り之ニ因リテ損失ヲ受ケタル場合ニ於テ當該銀行ニ對シ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ノ範圍内ニ於テ其ノ損失ノ百分ノ七十ヲ限度トシ之ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ契約ヲ爲シタル銀行ガ其ノ契約ニ基キ荷爲

ノ處分ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 荷爲替手形ノ振出人及支拂人ガ命令ヲ以テ定ムル資格ヲ有シ其ノ手形ガ注文ニ依リ商品ヲ輸出スル爲メ振出サレタル場合ニ限り損失補償ヲ爲スコト

二 損失補償ノ割合ガ百分ノ六十ヲ超エザルコト

三 銀行ガ損失補償金ニ相當スル金額ニ付償還ノ請求ヲ爲サザルコト

第六條 第一條ノ契約ヲ爲シタル銀行ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ契約ヲ解除シ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ損失補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

第七條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ政府ハ商品ヲ輸出シタル爲メ受取リタル約束手形ヲ銀行ガ買取り之ニ因リテ損失ヲ受ケタル場合ニ於テ當該銀行ニ對シ之ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和五年七月三十一日勅令第四百四十四號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

○輸出補償法施行規則

●商工省令第七號 昭和五年七月三十一日

第一章 荷爲替手形ニ關スル補償契約

第十二章 參考諸法規

替手形ヲ買取りタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ補償料ヲ政府ニ納付スベシ

第三條 第一條ノ損失ハ銀行ガ荷爲替手形ノ満期日ニ支拂ヲ受クルコト能ハザリシ金額ヨリ左ノ各號ニ掲グル金額ヲ控除シタルモノトス

一 荷爲替手形ニ付擔保アルトキハ其ノ處分ニ依リテ得タル金額(第五條ノ場合ニ於テハ其ノ手形ノ附屬荷物ノミノ處分ニ依リテ得タル金額)ヨリ其ノ處分ノ爲メ支出シタル費用ヲ控除シタル殘額

二 満期日ニ支拂ヲ受クルコト能ハザリシ金額ニ付補償前ニ全部又ハ一部ノ償還又ハ支拂ヲ受ケタルトキハ其ノ金額

第四條 銀行ハ補償ヲ受ケタルトキハ其ノ手形ニ付遲滞ナク償還請求權其ノ他ノ手形上ノ權利ヲ行使スベシ但シ其ノ權利ノ行使ニ要スル費用ガ其ノ行使ニ依リテ得ベキ金額ヲ超ユルモノト認メラルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ權利ノ全部又ハ一部ヲ行使セザルコトヲ得

銀行ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ權利ノ行使ニ依リテ得タル金額ヨリ満期日以後ノ利息及銀行ガ其ノ權利ノ行使ノ爲メ支出シタル費用ヲ控除シタル殘額ヲ政府ニ納付スベシ

第五條 第一條ノ契約ニ於テ左ノ各號ニ該當スル定ヲ爲シタルトキハ前條ノ規定ハ之ヲ適用セズ但シ償還請求權以外ノ手形上ノ權利ノ行使及其ノ行使ニ依リテ得タル金額

第一節 總則

第一條 輸出補償法第一條ノ契約ハ甲種補償契約及乙種補償契約ノ二種トス

第二條 政府ト補償契約ヲ爲スコトヲ得ル銀行ハ内地ニ本店ヲ有スルモノ又ハ朝鮮、臺灣若ハ樺太ニ本店ヲ有シ且内地ニ支店ヲ有スルモノトス

第三條 政府ト補償契約ヲ爲サントスル銀行ハ毎年商工大臣ノ指定スル期日マデニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一 補償契約ノ種類
二 補償契約ノ各種類ニ付テノ損失補償金額ノ限度
三 補償ヲ受クルコトヲ得ベキ荷爲替手形(以下補償手形ト稱ス)ヲ買取ルベキ營業所ノ名稱及位置

第四條 政府ガ銀行ト補償契約ヲ爲シタルトキハ商工大臣ハ其ノ銀行ガ補償手形ヲ買取ルベキ營業所ノ名稱及位置並ニ補償契約ノ種類ヲ告示ス告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同ジ

第五條 銀行ガ補償手形ヲ買取ルコトヲ得ル期間ハ補償契約ヲ爲シタル日ノ屬スル會計年度内トス

第六條 銀行ハ商工大臣ノ承認ヲ受ケ補償契約ノ種類、損失補償金額ノ限度又ハ補償手形ヲ買取ルベキ營業所ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第七條 銀行ハ左ノ荷爲替手形ヲ補償手形トシテ買取ルコトヲ得ズ

- 一 一覽後定期拂ノ手形ニ在リテハ滿期日ガ一覽後四月ヲ超ユルモノ
- 二 一覽拂及一覽後定期拂ノ手形以外ノ手形ニ在リテハ滿期日ガ振出ノ日ヨリ六月ヲ超ユルモノ
- 三 額面金額ガ附屬荷物ノ發送ノ地及時ニ於ケル其ノ價額ニ到達地マデノ運賃、保險料其ノ他ノ費用ヲ加算シタル金額又ハ附屬荷物ノ契約價額ヲ超ユルモノ
- 四 附屬荷物ノ保險價額ノ全部ヲ保險ニ付セザルモノ但シ荷受人ニ於テ其ノ金額ヲ保險ニ付スベキ旨ノ契約アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第八條 銀行ハ補償手形ヲ買取ラントスル場合ニ於テ振出人ノ住所若ハ營業所又ハ附屬荷物ノ生産、製造若ハ加工セラレタル地域ニ付輸出補償法第一條ニ該當セザル疑アルトキハ其ノ手形ヲ買取ヲ求ムル者ヲシテ之ニ關スル證明書ヲ提出セシムベシ
- 第九條 銀行ガ補償契約ニ基キ補償手形ヲ買取リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル届書ニ其ノ手形、之ニ附隨セル船荷證券(小包郵便ニ依ル場合ニハ其ノ受領證)及送狀ノ各寫、補償料ニ關スル計算書並ニ前條ノ證明書ヲ添付シ七日以内(休日ヲ算入セズ以下同ジ)ニ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ
- 一 補償契約ノ種類
- 二 手形ノ番號
- 三 銀行ガ手形ヲ買取リタル年月日及營業所ノ名稱

- 四 手形ノ額面金額
- 五 手形ノ振出人ノ氏名又ハ商號及住所又ハ營業所
- 六 手形ノ支拂人ノ氏名又ハ商號及住所又ハ營業所
- 七 附屬荷物ノ生産、製造又ハ加工セラレタル地域
- 八 附屬荷物以外ノ擔保アルトキハ其ノ種類及種類別ニ依ル價額
- 九 滿期日以後ノ利息ニ付特別ノ約款アルトキハ其ノ約款
- 第十條 補償手形ヲ買取リタル銀行ハ補償料ヲ歳入徵收官ノ指定スル期日マデニ其ノ指定スル日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ納付スベシ
- 第十一條 銀行ハ補償手形ガ引受アリタルトキ附屬荷物ヲ引渡スベキコトヲ條件トスル手形(以下引受渡條件ノ手形ト稱ス)ノ場合ニ於テハ引受前ニ、支拂アリタルトキ附屬荷物ヲ引渡スベキコトヲ條件トスル手形(以下支拂渡條件ノ手形ト稱ス)ノ場合ニ於テハ支拂前ニ附屬荷物ヲ引渡スコトヲ得ズ
- 第十二條 補償手形ヲ買取リタル銀行ハ其ノ手形ニ付左ノ事項ヲ其ノ都度遲滞ナク商工大臣ニ届出ヅベシ
- 一 引受又ハ引受拒絶アリタルトキハ其ノ事實及年月日
- 二 滿期日前ニ全部又ハ一部ノ支拂アリタルトキハ其ノ事實、金額及年月日
- 三 支拂人ノ信用狀態著シク變化シ支拂ニ支障ヲ生ズル虞アリト認メラルトキハ其ノ事實

第十三條 補償手形ヲ買取リタル銀行ハ其ノ手形ヲ讓渡スルコトヲ得ズ

第十四條 銀行ノ政府ニ對スル損失補償ノ滿期日後四月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ商工大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 政府ノ銀行ニ對スル損失ノ補償ハ補償契約ニ定ムル損失補償金額ノ限度内ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第十六條 政府ハ補償手形ノ滿期日ニ支拂ヲ受クルコト能ハザルニ至リタル事由ガ銀行ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生ジタル場合ニ於テハ補償ノ責ニ任ゼズ

第十七條 輸出補償法第一條ニ依リ指定スル地域ノ中戰亂、恐慌等ノ爲取引上ノ危険特ニ大ナリト認メラルルモノアルトキハ商工大臣ハ銀行ニ對シ其ノ地域ニ商品ヲ輸出スル爲振出サレタル補償手形ヲ買取ヲ一定ノ期間停止スベキコトヲ命ズルコトアルベシ

第十八條 補償契約ヲ爲シタル銀行ガ第九條ノ手續ヲ爲シタル後補償手形ニ關シ本則ニ依リ申請、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ其ノ書類ニ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 補償契約ノ種類
- 二 手形ノ番號
- 三 振出人ノ氏名又ハ商號
- 四 支拂人ノ氏名又ハ商號

第十九條 甲種補償契約トハ損失補償ノ割合ガ百分ノ七十ナルモノヲ謂フ

第二十條 甲種補償契約ニ依ル補償料ノ金額ハ補償手形ノ額面金額(利附手形ニ在リテハ滿期日マデノ利息ヲ加算シタルモノトス)及銀行ガ其ノ手形ヲ買取リタル日ヨリ滿期日マデノ期間ニ付左ノ率ニ依リ算出スルモノトス

一 引受渡條件ノ手形ニ在リテハ年二分

二 支拂渡條件ノ手形ニ在リテハ年五厘

第二十一條 前條ノ期間ハ一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形ニ在リテハ銀行ガ商工大臣ノ承認ヲ受ケテ定ムル日數又ハ其ノ日數ニ一覽後ノ期間ヲ加算シタルモノトス

第二十二條 第二十條ノ補償料ヲ算出スル場合ニ於テ補償手形ノ額面金額ガ外國ノ通貨ヲ以テ表示セラルトキハ銀行ガ其ノ手形ヲ買取リタル時ノ電信爲替賣相場ニ依リ其ノ金額ヲ日本ノ通貨ニ換算スルモノトス

第二十三條 銀行ガ甲種補償契約ニ基キテ買取リタル補償手形ニ付支拂渡條件ヲ引受渡條件ニ變更シタルトキハ其ノ事實及年月日ヲ記載シタル届書ニ追納スベキ補償料ニ關スル計算書ヲ添付シ七日以内ニ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第二十四條 銀行ガ甲種補償契約ニ基キテ買取リタル補償

手形ニ付支拂渡條件ヲ引受渡條件ニ變更シタルトキハ其ノ手形ノ満期日ニ支拂ヲ受クベキ金額及銀行ガ其ノ手形ヲ買リタル日ヨリ満期日マデノ期間ニ付第二十條第一號ノ率ニ依リ算出シタル金額ト同條第二號ノ率ニ依リ算出シタル金額トノ差額ヲ補償料トシテ政府ニ追納スベシ

二十九條 第二十七條ニ依リ政府ニ對シ損失補償ノ請求ヲ爲シタル後銀行ガ補償前ニ其ノ手形ニ付全部又ハ一部ノ償還又ハ支拂ヲ受ケタルトキハ其ノ金額及年月日ヲ遲滞ナク商工大臣ニ届出ヅベシ

第二十五條 甲種補償契約ニ基キ補償手形ヲ買取リタル銀行ハ其ノ手形ニ付遲滞ナク償還請求權其ノ他ノ手形上ノ權利ノ保全ノ爲必要ナル手續ヲ爲スベシ

第三十條 甲種補償契約ニ依リ補償ヲ受ケタル銀行ガ輸出補償法第四條第一項但書ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ權利ノ行使ニ要スル費用及其ノ内譯竝ニ其ノ行使ニ依リテ得ベキ金額及全部又ハ一部ノ償還又ハ支拂ヲ受クルノ見込ナキトキハ其ノ事由ヲ記載シ商工大臣ニ之ヲ提出スベシ

第二十六條 甲種補償契約ニ依リ損失補償ノ請求ハ其ノ手形ニ付附屬荷物其ノ他ノ擔保アルトキハ之ヲ處分シタル後ニ於テ之ヲ爲スベキモノトス

第三十一條 甲種補償契約ニ依リ補償ヲ受ケタル銀行ガ其ノ手形ニ付全部又ハ一部ノ償還又ハ支拂ヲ受ケタルトキハ其ノ金額及年月日ヲ記載シタル届書ニ第三十二條ニ依リ政府ニ納付スベキ金額ニ關スル計算書ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第二十七條 甲種補償契約ニ依リ銀行ガ政府ニ對シ損失補償ノ請求ヲ爲サントスルトキハ補償ヲ受ケントスル金額及満期日ニ支拂ヲ受クルコト能ハザリシ事由ヲ記載シタル請求書ニ損失ニ關スル計算書及支拂拒絶證書ノ謄本其ノ他ノ支拂ヲ受クルコト能ハザリシコトヲ證スル書面ヲ添附シテ商工大臣ニ之ヲ提出スベシ

第三十二條 甲種補償契約ニ依リ補償ヲ受ケタル銀行ガ其ノ手形ニ付全部又ハ一部ノ償還又ハ支拂ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ヨリ左ノ各號ニ掲グル金額ヲ控除シタル殘額ノ百分ノ七十ヲ政府ニ納付スベシ

第二十八條 補償手形ノ額面金額ガ外國ノ通貨ヲ以テ表示セラルル場合ニ於テハ前條ノ補償ヲ受ケントスル金額ハ満期日ノ電信爲替賣相場ニ依リ之ヲ日本ノ通貨ニ換算スルモノトス

一 満期日ニ支拂ヲ受クルコト能ハザリシ金額ニ對スル満期日以後補償日ノ前日マデノ利息(補償前ニ其ノ金額ニ付一部ノ償還又ハ支拂アリタルトキハ其ノ日以後ノ期間ニ付テハ其ノ殘額ニ對スル利息)

第二十二條第二項ノ規定ハ前項ニ依ル換算ニ付之ヲ準用ス

ヲ商工大臣ニ提出スベシ

二 銀行ガ償還請求權其ノ他ノ手形上ノ權利ノ行使ノ爲支出シタル費用

前項ノ二年以上引續キ輸出ヲ業トスル者ナルコトヲ證スル書面ハ既ニ他ノ手形ニ付之ヲ提出シタル場合ニ於テハ其ノ事項ニ變更ナキ限り其ノ旨ヲ表示シ之ヲ省略スルコトヲ得

第十條ノ規定ハ前項ノ金額ノ納付ニ付之ヲ準用ス

第三十八條 乙種補償契約ニ依ル補償料ノ金額ハ補償手形ノ額面金額(利付手形ニ在リテハ満期日マデノ利息ヲ加算シタルモノトス)及銀行ガ其ノ手形ヲ買取リタル日ヨリ満期日マデノ期間ニ付左ノ率ニ依リ算出スルモノトス

第三十三條 補償手形ノ額面金額ガ外國ノ通貨ヲ以テ表示セラルル場合ニ於テハ前條ノ支拂ヲ受ケタル金額ハ支拂ヲ受ケタル時ノ電信爲替賣相場ニ依リ之ヲ日本ノ通貨ニ換算スルモノトス

一 引受渡條件ノ手形ニ在リテハ最初ノ一月ニ付月三分二厘トシ其ノ後ノ期間ニ付月四厘ヲ之ニ加算シタル率

第三十二條ノ場合ニ於テ銀行ノ取得スベキ金額又ハ政府ニ納付スベキ金額ノ中既ニ取得シ又ハ納付シタルモノアルトキハ其ノ殘額ニ付計算スルモノトス

二 支拂渡條件ノ手形ニ在リテハ最初ノ一月ニ付月八厘トシ其ノ後ノ期間ニ付月一厘ヲ之ニ加算シタル率

第三十五條 乙種補償契約トハ損失補償ノ割合ガ百分ノ六十ニシテ輸出補償法第五條第一號及第三號ニ該當スル定アルモノヲ謂フ

第三十九條 銀行ガ乙種補償契約ニ基キテ買取リタル補償手形ニ付支拂渡條件ヲ引受渡條件ニ變更シタルトキハ其ノ手形ノ満期日ニ支拂ヲ受クベキ金額及銀行ガ其ノ手形ヲ買取リタル日ヨリ満期日マデノ期間ニ付前條第一號ノ率ニ依リ算出シタル金額ト同條第二號ノ率ニ依リ算出シタル金額トノ差額ヲ補償料トシテ政府ニ追納スベシ

第三十六條 輸出補償法第五條第一號ノ手形ノ振出人ハ輸出組合若ハ其ノ組合員又ハ二年以上引續キ輸出ヲ業トシ信用確實ナル者ナルコト、其ノ支拂人ハ銀行ガ豫メ商工大臣ノ承認ヲ受ケタル者ナルコトヲ要ス

第二十條及第二十二條ノ規定ハ前項ノ補償料ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第三十七條 銀行ガ乙種補償契約ニ基キ補償手形ヲ買取リタルトキハ第九條ノ書類ノ外注文アリタルコトヲ證スル書面及振出人ガ輸出組合又ハ其ノ組合員ニ非ザルトキハ二年以上引續キ輸出ヲ業トスル者ナルコトヲ證スル書面

第四十條 乙種補償契約ニ依ル損失補償ノ請求ハ其ノ手形ニ付附屬荷物アルトキハ之ヲ處分シタル後ニ於テ之ヲ爲

第十二章 參考諸法規

スベキモノトス

第四十一條 乙種補償契約ニ於テ補償手形ノ満期日ニ支拂ヲ受ケルコト能ハザルニ至リタル事由ガ振出人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ銀行ガ政府ヨリ補償ヲ受ケタルトキハ銀行ハ損失補償金ニ相當スル金額及之ニ對スル補償日以後ノ利息ニ付遲滞ナク償還請求權ヲ行使スベシ但シ償還請求權ノ行使ニ要スル費用ガ其ノ行使ニ依リテ得ベキ金額ヲ超ユルモノト認メラルルトキハ商工大臣ノ承認ヲ受ケ其ノ權利ノ全部又ハ一部ヲ行使セザルコトヲ得

銀行ハ前項ノ權利ノ行使ニ依リテ得タル金額ヨリ銀行ガ其ノ權利ノ行使ノ爲支出シタル費用ヲ控除シタル殘額ヲ政府ニ納付スベシ

第三十條ノ規定ハ第一項但書ノ場合ニ、第十條ノ規定ハ前項ノ金額ノ納付ニ付之ヲ準用ス

第四十二條 乙種補償契約ニ依リ補償ヲ受ケタル銀行ガ其ノ手形ニ付全部又ハ一部ノ支拂ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ヨリ第三十二條第一項各號ニ掲グル金額ヲ控除シタル殘額ノ百分ノ六十ヲ政府ニ納付シ、百分ノ四十ヲ銀行ニ於テ取得スベシ但シ銀行ガ其ノ損失ニ付既ニ全部ノ償還ヲ受ケ居リタルトキハ其ノ取得スベキ金額ヲ、一部ノ償還ヲ受ケ居リタルトキハ其ノ取得スベキ金額ノ中ヨリ殘餘ノ損失ヲ填補シ尙殘額アルトキハ之ヲ償還ヲシタル者ニ返還スルモノトス

第十條ノ規定ハ前項ノ金額ノ納付ニ付之ヲ準用ス

第四十三條 第二十一條乃至第二十三條、第二十五條、第二十七條乃至第三十一條、第三十三條及第三十四條ノ規定ハ乙種補償契約ニ關シ之ヲ準用ス

第二章 約束手形ニ關スル補償契約

第四十四條 輸出補償法第七條ノ約束手形ハ「ソヴィエト」聯邦ニ商品ヲ輸出シタル爲受取リタルモノトス

前項ノ約束手形ノ振出人ハ内地ニ駐在スル「ソヴィエト」聯邦通商代表ナルコトヲ要ス

第四十五條 約束手形ニ關スル乙種補償契約ノ場合ニ於テハ其ノ手形ノ受取人ハ輸出組合又ハ其ノ組合員ナルコトヲ要ス

第四十六條 銀行ガ約束手形ニ關スル補償契約ニ基キ補償手形ヲ買取リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル届書ニ其ノ手形、商品ノ輸出ニ關スル船荷證券及送狀ノ各寫、補償料ニ關スル計算書並ニ第五十二條ノ規定ニ依リ準用スル第八條ノ證明書ヲ添附シ七日以内（休日ヲ算入セズ以下同ジ）ニ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

- 一 補償契約ノ種類
- 二 手形ノ番號
- 三 銀行ガ手形ヲ買取リタル年月日及其ノ營業所ノ名稱
- 四 手形ノ額面金額
- 五 手形ノ受取人ノ氏名又ハ商號及住所又ハ營業所
- 六 商品ノ生産、製造又ハ加工セラレタル地域

七 手形ニ付擔保アルトキハ其ノ種類及種類別ニ依ル價額

八 満期日以後ノ利息ニ付特別ノ約款アルトキハ其ノ約款

前項ノ船荷證券及送狀ノ各寫ハ其ノ商品ヲ「ソヴィエト」聯邦ニ輸出シタルコトヲ證スル書面ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ書面ニハ其ノ商品ノ名稱、數量、輸出港、仕向先及輸出ノ年月日ノ記載アルコトヲ要ス

第四十七條 銀行ガ約束手形ニ關スル補償契約ニ基キテ買取リタル補償手形ノ書換アリタル場合ニ於テ新し手形ノ満期日カ最初ノ手形ノ振出ノ日ヨリ六月ヲ超エザルトキハ其ノ新し手形ヲ補償手形ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ新し手形ノ満期日ガ最初ノ手形ノ振出ノ日ヨリ六月ヲ超ユルトキハ商工大臣ノ承認ヲ受ケタルトキニ限り其ノ新し手形ヲ補償手形ト爲スコトヲ得

第四十八條 銀行ガ前條ニ依リ新し手形ヲ補償手形ト爲シタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル届書ヲ書換ノ日ヨリ七日以内ニ商工大臣ニ提出スベシ

- 一 新し手形ノ番號
- 二 書換ノ年月日
- 三 新し手形ノ満期日
- 四 手形ノ額面金額

第四十九條 約束手形ニ關スル補償契約ニ依ル補償料ノ金額

額ハ補償手形ノ額面金額及銀行ガ其ノ手形ヲ買取リタル日ヨリ満期日マデノ期間ニ付左ノ率ニ依リ算出スルモノトス

- 一 甲種補償契約ニ於テハ年一分二厘五毛
- 二 乙種補償契約ニ於テハ最初ノ一月ニ付月二分トシ其ノ後ノ期間ニ付月二厘五毛ヲ之ニ加算シタル率

第五十條 銀行ガ第四十七條ニ依リ新し手形ヲ補償手形ト爲シタルトキハ其ノ額面金額及書換ノ日ヨリ満期日マデノ期間ニ付左ノ率ニ依リ算出シタル金額ヲ補償料トシテ政府ニ納付スベシ

- 一 甲種補償契約ニ於テハ年一分二厘五毛
- 二 乙種補償契約ニ於テハ月二厘五毛

第五十一條 約束手形ニ關スル甲種補償契約ニ依ル損失補償ノ請求ハ其ノ手形ニ付擔保アルトキハ之ヲ處分シタル後ニ於テ之ヲ爲スベキモノトス

第五十二條 第一條乃至第六條、第七條第二號、第八條、第十條、第十二條乃至第十九條、第二十五條、第二十七條、第二十九條乃至第三十二條、第三十四條、第三十五條、第四十一條及第四十二條並ニ第四十三條ノ規定ニ依リ準用ス

第三十四條ノ規定ハ約束手形ニ關スル補償契約ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本則ハ輸出補償法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三章 震災ニ關スル法令

○高等諸學校震災復舊諸費ニ屬スル豫算ノ施行ニ關スル法律

●法律第十號 大正十三年七月二十二日

改正 大正一五年第四八號、昭和四年第二五號

大正十二年九月ノ震災ニ基ク復舊諸費ニシテ東京帝國大學、東京商科大學、千葉醫科大學及東京工業大學ニ關スルモノハ大學特別會計法第一條ノ規定ニ拘ラス之ヲ一般會計ノ所屬トス(昭和四年三月第二五號ヲ以テ改正)
帝國大學特別會計ノ資金中東京帝國大學農學部及航空研究所ノ用ニ供スル土地及建造物、官立大學特別會計ノ資金中東京商科大學ノ用ニ供スル土地及建造物並學校及圖書館特別會計ノ資金中東京女子高等師範學校、東京高等蠶糸學校及東京外國語學校ノ用ニ供スル土地及建造物ニシテ此等諸學校ノ震災復舊諸費ニ屬スル豫算ノ施行ノ結果不用ニ歸スヘキモノハ當該資金ヨリ之ヲ拂出スコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○會計規則其ノ他ノ收入支出ニ關スル命令ノ規定ニ對シ特例ヲ設クル件

●勅令第四百六號 大正十二年九月七日

震災ニ基ク特別ノ事情ニ因リ必要アル場合ニ於テハ大藏大臣ハ會計規則其ノ他ノ收入支出ニ關スル命令ノ規定ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災被害者ニ對スル租税ノ免除猶豫等ニ關スル法律

●法律第十七號 昭和二年三月三十日

第一條 政府ハ震災(昭和二年三月七日ノ震災及之ニ伴フ火災ヲ含ム以下同ジ)ニ因ル被害者ノ震災地ニ於テ納付スベキ大正十五年(昭和元年)分第三種所得税第四期分ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除スルコトヲ得
第二條 政府ハ震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ゲラレタル土地ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得

第十三章 震災ニ關スル法令

第三條 政府ハ震災地ニ於テ納付スヘキ昭和二年分ノ第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及乙種資本利子稅ニ限リ課稅ニ關スル申告及申請並課稅標準ノ決定ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第四條 政府ハ震災地ニ於テ昭和二年三月七日以後ニ納付スベキ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第五條 第一條、第三條及前條ノ震災地ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ免除セラルル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ免除セラレザルモノト看做ス

前項ノ規定ハ前項ノ國稅ノ附加稅タル市町村稅、震災ニ因リ免除セラルル直接府縣稅ノ附加稅タル市町村稅及其ノ他ノ直接市町村稅ニシテ震災ニ因リ免除セラルルモノニ付之ヲ準用ス

第七條 土地賃賃價格調査委員會法第二十二條ノ期限ハ峰山稅務署所轄内ニ限リ之ヲ昭和二年十二月二十日トス

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災被害者ニ對スル租稅ノ減免猶豫等ニ關スル法律

●法律第四十六號 昭和六年四月一日

第一條 政府ハ震災(昭和五年十一月二十六日ノ震災及之ニ伴フ火災ヲ含ム以下同ジ)ニ因ル被害者ノ震災地ニ於テ納付スベキ昭和五年分ノ第三種所得稅第三期分、同第四期分、個人ノ營業收益稅第二期分及乙種資本利子稅第二期分ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第二條 政府ハ震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ゲラレタル土地ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得

第三條 政府ハ震災地ニ於テ納付スベキ昭和六年分ノ第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及乙種資本利子稅ニ限リ課稅ニ關スル申告及申請並課稅標準ノ決定ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第四條 政府ハ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除セララルル租稅ニ付其ノ處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第五條 第一條及第三條ノ震災地ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除セララルル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレザルモノト看做ス

前項ノ規定ハ直接縣稅ニシテ震災ニ因リ輕減又ハ免除セ

第十三章 震災ニ關スル法令

ニ提出スヘシ
前項ノ申請書ニハ稅目、被害ノ狀況及左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 第一種所得稅ニ在リテハ當該事業年度ノ期間及稅額
二 相續稅ニ在リテハ相續開始ノ日、被相續人ノ氏名及稅額

第十四條 震災地ニ於テ納付スヘキ第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及乙種資本利子稅ニ關シ昭和二年三月十五日迄ニ爲スヘキ申告及申請ニ付テハ其ノ提出期限ヲ官津稅務署所轄内ニ在リテハ昭和二年四月三十日、峰山稅務署所轄内ニ在リテハ昭和二年五月十五日トス

震災地ニ於テ納付スヘキ昭和二年分ノ第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及乙種資本利子稅ニ關シ本令施行前ニ爲シタル申告及申請ニ付本令ニ依リ變更ヲ來シタル場合ニ於テハ前項ノ期限迄ニ之ヲ更正ノ申告及申請ヲ爲スヘシ

第六條又ハ第八條ノ規定ニ依リ控除ヲ受クヘキ損害見積金額ハ所得ノ申告又ハ純益ノ申告ニ之ヲ附記シテ申告スヘシ

第十五條 峰山稅務署所轄内所得調査委員會ニ付テハ所得稅法第五十一條ノ期限ヲ昭和二年ニ限リ六月三十日トス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ラルモノニ付之ヲ準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

税法第二十三條ノ規定ニ準ジテ算出シタル金額ト震災地ニ於テ納付スベキ昭和五年分第三種所得税額トノ差額ニ相當スル所得税ヲ免除ス但シ免除スベキ税額ハ震災地ニ於テ納付スベキ昭和五年分第三種所得税ノ第三期分及第四期分ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ昭和五年分第三種所得税ノ所得金額ニ付所得税法第六十五條ノ規定ヲ適用シタルモノニ付テハ商品又ハ原料品ニ對スル損害見積金額ハ之ヲ控除セズ前二項ノ場合ニ於テ同居者一人毎ノ控除額ハ各其ノ所得金額ニ案分シテ之ヲ計算ス

同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先ヅ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及ブ

第三條 震災ニ因リ所得額著シク減損スベシト認めラルル者ノ震災地ニ於テ納付スベキ昭和六年分第三種所得税ニ付テハ所得税法第十四條第一項第六號ノ所得ハ豫算ヲ以テ之ヲ算定ス

第四條 震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ゲラレタル土地(荒地ト爲リタル土地ヲ除ク)ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルモノニ付テハ被害ノ實況ニ應ジ宅地ニ在リテハ昭和六年ヨリ一年内、其ノ他ノ土地ニ在リテハ昭和六年ヨリ四年内其ノ地租ヲ免除ス

一 水路若ハ溜池ノ破壊又ハ井戸ノ湧水濁濁等ニ因リ灌漑又ハ排水ノ便ヲ失シ收穫ヲ減損スルニ至リタル田畑

○昭和六年法律第四十六號(震災被害者ニ對スル租税ノ減免猶豫等ニ關スル件)施行方

●大藏省令第十一號 昭和六年四月一日

第一條 昭和六年法律第四十六號第五條ノ規定ニ依リ震災地ヲ左ノ如ク定ム

神奈川縣 足柄下郡溫泉村、箱根町、元箱根村、蘆ノ湯村、靜岡縣 沼津市、田方郡(戸田村、土肥村、西豆村、對島村、小室村、宇佐美村ヲ除ク)駿

東郡鷹根村、金岡村、大岡村、靜浦村、大平村、清水村、長泉村、泉村、深良村

第二條 自己(同居ノ戸主又ハ家族ヲ含ム)ノ所有ニ係ル其ノ住宅、家財又ハ所得ノ基因タル家屋其ノ他ノ築造物、機械、器具、商品、原料品等ガ震災(昭和五年十一月二十六日ノ震災及之ニ伴フ火災ヲ含ム以下同ジ)ニ因リ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ損害見積金額ヲ震災地ニ於テ納付スベキ昭和五年分第三種所得税ノ所得金額(同居ノ戸主又ハ家族ノ分トノ合算額)ヨリ控除シ其ノ殘額ニ付所得

二 地下ノ變動等ニ因リ水持ヲ害シ又ハ濕地ト爲リ收穫ヲ減損スルニ至リタル田畑

三 建物ノ過半ガ滅失又ハ倒壊シタル宅地

四 其ノ他震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ゲラレタル土地

第五條 震災ニ因リ荒地ト爲リタル爲昭和六年五月三十一日迄ニ免租年許可ノ申請ヲ爲シ其ノ許可ヲ受ケタル土地又ハ前條ノ規定ノ適用ヲ受クル土地ノ昭和五年分ノ地租ニ付テハ昭和五年十一月一日以後ニ開始スル納期分ヨリ之ヲ徴收セズ

第六條 營業ノ用ニ供スル自己所有ノ家屋其ノ他ノ築造物、機械、器具、商品、原料品等ガ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ損害見積金額ヲ震災地ニ於テ納付スベキ昭和五年分個人ノ營業收益税ノ純益金額ヨリ控除シ其ノ殘額ニ百分ノ二・八ヲ乗ジタル金額ト震災地ニ於テ納付スベキ昭和五年分營業收益税額(營業收益税法第十條第三項ノ規定ニ依リ控除シタル地租額ヲ加算シタルモノ)トノ差額ニ相當スル營業收益税ヲ免除ス但シ免除スベキ税額ハ震災地ニ於テ納付スベキ昭和五年分營業收益税ノ第二期分ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ昭和五年分個人ノ營業收益税ノ純益金額ニ付營業收益税法第二十條ノ規定ヲ適用シタルモノニ付テハ商品又ハ原料品ニ對スル損害見積金額ハ之ヲ控除セズ

第七條 震災ニ因リ營業ノ純益著シク減損スベシト認めラ

ルル者ノ震災地ニ於テ納付スベキ昭和六年分個人ノ營業收益税ノ純益金額ハ豫算ヲ以テ之ヲ算定ス

第八條 震災地ニ於テ納付スベキ昭和五年分乙種資本利子税ノ資本利子金額ガ昭和五年分第三種所得税ノ山林以外ノ所得金額ヨリ第二條ノ規定ニ依リ損害見積金額ヲ控除シタル殘額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ資本利子金額ヨリ控除シ其ノ殘額ニ付資本利子税法第六條ノ規定ニ準ジテ算出シタル金額ト震災地ニ於テ納付スベキ乙種資本利子税額トノ差額ニ相當スル乙種資本利子税ヲ免除ス但シ免除スベキ税額ハ震災地ニ於テ納付スベキ昭和五年分乙種資本利子税ノ第二期分ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第九條 第二條又ハ第六條ノ規定ニ依リ所得税又ハ營業收益税ノ輕減若ハ免除ヲ受ケントスル者ハ被害ノ狀況及損害見積金額ヲ記載シタル申請書ヲ昭和六年四月三十日迄ニ所轄稅務署ニ提出スベシ

第十條 第四條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ土地一筆毎ニ被害ノ狀況ヲ記載シタル申請書ヲ昭和六年五月三十一日迄ニ納稅地ノ市町村ヲ經由シテ所轄稅務署ニ提出スベシ

第十一條 第三條又ハ第七條ノ規定ノ適用ヲ受クベキ者ノ第三種所得税、個人ノ營業收益税及乙種資本利子税ニ關シ昭和六年三月十五日迄ニ爲スベキ申告及申請ニ付テハ其ノ提出期限ヲ昭和六年四月三十日トス

震災地ニ於テ納付スベキ昭和六年分ノ第三種所得税、個

人ノ營業收益税及乙種資本利子税ニ關シ本令施行前ニ爲シタル申告及申請ニ付本令ニ依リ變更ヲ來シタル場合ニ於テハ前項ノ期限迄ニ更正シタル申告書及申請書ヲ提出スベシ

第十二條 第九條又ハ第十條ノ申請アリタルトキ又ハ震災ニ因リ荒地ト爲リタル土地ニ付昭和六年五月三十一日迄ニ免租年許可ノ申請アリタルトキハ其ノ處分ノ確定スルニ至ル迄昭和五年十一月一日以後ニ開始スル納期ヨリ税金ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災善後公債法

●法律第五十六號 大正十二年十二月二十四日

改正 大正十二年第一三號

第一條 震災ニ伴フ復興事業其ノ他震災善後ノ爲ニ要スル經費支辨ノ爲政府ハ十億七千三百萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得
第二條 前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

アル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件

(參照 本令ハ憲法第七十條ニ依リタルモノニシテ大正十三年七月帝國議會承認濟)

●勅令第四十六號 大正十三年三月一日
震災善後ニ關シ必要ナル經費支辨ノ爲政府ハ二千四百二十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要

第十三章 震災ニ關スル法令

○復興事業ノ施行ニ伴ヒ支拂フヘキ金額ヲ國債證券ヲ以テ交付スル等ニ關スル法律

●法律第五十五號 大正十二年十二月二十四日
第一條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ復興事業ノ施行ニ伴

ヒ土地所有者其ノ他ノ利害關係人ニ支拂フヘキ補償金其ノ他ノ金額ヲ五分利附國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得

第二條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ總額ハ震災善後公債法ニ依リ發行スル公債又ハ借入金ト通シテ同法ノ規定スル制限額ヲ超ユルコトヲ得ス

震災善後公債法第二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行ニ付之ヲ準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○復興事業ノ施行ニ伴ヒ交付スヘキ國債證券ニ關スル件

勅令第三百三十七號 大正十三年六月二日

第一條 復興事業ノ施行ニ伴ヒ政府カ土地所有者其ノ他ノ利害關係人ニ對シ支拂フヘキ補償金其ノ他ノ金額ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但シ國債ノ最小額面ノ交付價格ニ滿タサル額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 特別都市計畫法第八條第一項ノ規定ニ依リ交付スヘキ補償金ヲ支拂フトキ

直接自己ノ用ニ供セサル土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ヲ收用又ハ買收シタル場合ニ於テ其ノ所有者ニ補償金又ハ對價ヲ支拂フトキ

三 直接自己ノ用ニ供セサル借地又ハ其ノ上ニ存スル借地權ヲ收用又ハ買收シタル場合ニ於テ其ノ借地權者ニ補償金又ハ對價ヲ支拂フトキ

四 收用又ハ買收シタル土地ノ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供シ得ル場合ニ於テ當該土地ノ所有者又ハ借地權者ニ對シ補償金又ハ對價ヲ支拂フトキ

五 現金ヲ以テ補償金又ハ對價ヲ交付スヘキ場合ト雖之ヲ受クヘキ者カ同意シタルトキ

第二條 左ニ掲クル場合ニ於テ支拂フヘキ補償金又ハ對價ハ之ヲ受クヘキ者ノ請求ニ因リ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

一 前條第一號ノ場合ニ於テ直接自己ノ用ニ供スル土地ニ付其ノ所有者又ハ借地權者カ換地ノ交付ヲ受ケザリシトキ又ハ換地ノ交付ヲ受ケ若ハ換地ノ交付ト共ニ借地權ニ付換地ノ指定ヲ受ケタルモ之ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキ

二 前條第二號乃至第四號ノ場合ニ於テ對價ノ目的タル土地又ハ借地權カ對價ヲ受クヘキ者ノ債務ノ擔保タルトキ但シ當該債務ノ元利支拂ニ要スル金額ヲ限度トス

第三條 第一條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ支拂フヘキ

補償金又ハ對價ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル金額ノ外之ヲ受クヘキ者ノ請求ニ因リ一人ニ付五千圓ヲ限り現金ヲ以テ之ヲ交付ス

第四條 本令ニ於テ借地權トハ地上權、永小作權、賃借權及國有財産法第二十四條ノ規定ニ依リ土地ノ貸付ヲ受クル者ノ權利ヲ謂フ

第五條 國債ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○米貨公債及英貨公債ノ發行ニ關スル件

勅令第十七號 大正十三年二月十三日

第一條 政府ハ震災善後公債法第一條及國債整理基金特別會計法第五條ノ規定ニ依リ北米合衆國紐育ニ於テ米貨公債一億五千萬弗及英國倫敦ニ於テ英貨公債二千五百萬磅ヲ發行ス

○日本銀行ノ手形ノ割引ニ因ル損失ノ補償ニ關スル財政上必要處分ノ件

(參照) 本件ハ憲法第七十條ニ依リタルモノニシテ大正十二年十二月帝國議會承認諸濟

●勅令第四百二十四號 大正十二年九月二十七日 政府ハ日本銀行カ左ノ各號ノ一ニ該當スル手形ニシテ大正十四年九月三十日以前ノ滿期日ヲ有スルモノノ割引ヲ爲シ

之ニ因リテ損失ヲ受ケタル場合ニ於テ壹億圓ヲ限リ同行ニ對シ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得但シ第一號乃至第三號ニ規定スル手形ノ割引ハ大正十三年三月三十一日迄ニ爲シタルモノニ限ル

- 一 震災地(東京府、神奈川縣、埼玉縣、千葉縣及靜岡縣ヲ謂フ以下同シ)ヲ支拂地トスル手形又ハ震災地ニ震災ノ當時營業所ヲ有シタル者ノ振出シタル手形若ハ之ヲ支拂人トスル手形ニシテ大正十二年九月一日以前ニ前ニ銀行ノ割引シタルモノ
- 二 前號ニ規定スル手形ノ書換ノ爲ニ振出シタル手形
- 三 前二號ニ規定スル手形又ハ震災地ニ營業所ヲ有スル銀行カ他ノ銀行ニ對シ大正十二年九月一日以前ニ發行シタル預金證書若ハ「コールローン」ノ證書ヲ擔保トシテ銀行ノ振出シタル手形

四 前三號ニ規定スル手形ニシテ日本銀行ノ割引シタルモノノ書換ノ爲ニ振出シタル手形 日本銀行ハ本令ニ依リテ爲ス手形ノ割引ニ付政府ノ監督ヲ受クヘシ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○日本銀行ノ手形割引ニ因ル損失ノ補償ニ關スル法律

●法律第三十五號 大正十四年三月三十一日 改正 大正一五年第三三號

政府ハ日本銀行カ大正十二年勅令第四百二十四號第一項第四號ニ該當スル手形ニシテ大正十四年十月一日ヨリ大正十六年九月三十日迄ノ間ニ於ケル滿期日ヲ有スルモノノ割引ヲ爲シ之ニ因リテ損失ヲ受ケタル場合ニ於テ同行ニ對シ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得 前項補償金額ハ大正十二年勅令第四百二十四號ニ依ル補償金額ト合シテ一億圓ヲ超ユルコトヲ得ス 日本銀行ハ本法ニ依リテ爲ス手形ノ割引ニ付政府ノ監督ヲ受クヘシ

○各會計名及收支整理期間一覽

所管別	會計名	法令	小切手振出		日本銀行		取扱	備考
			支出	國庫内移換支出	定額戻入	受入		
外務省所管	一般會計	大正一〇、四、八 法律一〇、四、八	四月三十日迄	五月三十一日迄	四月三十日迄	四月三十日迄	五月三十一日迄	
	特別會計	大正一、三、三二 法律一、三、三二			四月三十日迄	四月三十日迄		
	對支文化事業	大正一、五、三、二九 法律一、五、三、二九			四月三十日迄	四月三十日迄		
	健康保險	昭和六、四、五 法律六、四、五						
	勞働者災害扶助責任保險	昭和六、四、五 法律六、四、五						
	造幣局(資金部)	大正四、六、二、一 法律四、六、二、一	當該年度 三月三十一日限	四月三十日迄	當該年度 三月三十一日限	當該年度 三月三十一日限		
	印刷局	明治三、三、一、八 法律三、三、一、八	當該年度 三月三十一日限	四月三十日迄	當該年度 三月三十一日限	當該年度 三月三十一日限		
	專賣局	明治三、三、一、八 法律三、三、一、八	當該年度 三月三十一日限	四月三十日迄	當該年度 三月三十一日限	當該年度 三月三十一日限		
	大藏省預金部	大正一、四、三、三〇 法律一、四、三、三〇	當該年度 三月三十一日限	四月三十日迄	當該年度 三月三十一日限	當該年度 三月三十一日限		
	教育基金	明治三、三、一、八 法律三、三、一、八	當該年度 三月三十一日限	四月三十日迄	當該年度 三月三十一日限	當該年度 三月三十一日限		
大藏省所管	國債整理基金	明治三、三、一、八 法律三、三、一、八			四月三十日迄	四月三十日迄		
	公債金	大正八、三、二、五 法律八、三、二、五			四月三十日迄	四月三十日迄		
	國有財産整理資金	大正一、三、二、八 法律一、三、二、八			四月三十日迄	四月三十日迄		
	教育改善及農村振興基金	大正一、四、三、三〇 法律一、四、三、三〇			四月三十日迄	四月三十日迄		
	大藏省預金部	大正一、四、三、三〇 法律一、四、三、三〇	當該年度 三月三十一日限	四月三十日迄	當該年度 三月三十一日限	當該年度 三月三十一日限		
	教育基金	明治三、三、一、八 法律三、三、一、八	當該年度 三月三十一日限	四月三十日迄	當該年度 三月三十一日限	當該年度 三月三十一日限		
	國債整理基金	明治三、三、一、八 法律三、三、一、八	當該年度 三月三十一日限	四月三十日迄	當該年度 三月三十一日限	當該年度 三月三十一日限		
	公債金	大正八、三、二、五 法律八、三、二、五	當該年度 三月三十一日限	四月三十日迄	當該年度 三月三十一日限	當該年度 三月三十一日限		
	國有財産整理資金	大正一、三、二、八 法律一、三、二、八	當該年度 三月三十一日限	四月三十日迄	當該年度 三月三十一日限	當該年度 三月三十一日限		
	教育改善及農村振興基金	大正一、四、三、三〇 法律一、四、三、三〇	當該年度 三月三十一日限	四月三十日迄	當該年度 三月三十一日限	當該年度 三月三十一日限		

明治三、三、一、八、法律三、三、一、八ヲ以テ新設

陸軍省所管	陸軍造兵廠	明治三三、三一八	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	大正二、三、二七、 陸軍第七號ヲ以テ東 京大藏省兵工廠ヲ陸 軍造兵廠ニ改ム
	千住製絨所	明治三三、一八八	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
	海軍工廠資金	明治三八、一五六	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	大正八、三、二五、法 律第八號ヲ以テ新設
	海軍火藥廠	明治三三、一七八	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	明治三九、三、二二、 海軍第一號ヲ以テ 海軍火藥所ヲ改ム大 正一〇、三、二〇、法 律第八號ヲ以テ海軍 造兵廠ト改ム
	海軍燃料廠	明治三三、一七八	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
海軍省所管	帝國大學 (資金部)	大正一〇、三、一〇	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
	官立大學 (資金部)	大正一〇、三、一〇	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
文部省所管	學校及圖書館 (資金部)	明治四〇、三、二七	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
農林省所管	米穀需給調節	大正一〇、四、三七	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
	家畜再保險	昭和四、三、二八	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
商工省所管	製鐵所 (資本勘定 用品勘定 作業勘定)	大正一五、三、三一 四六	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	明治三二、二、二八、法 律第一二號ヲ以テ新 設シ大正一五、三、三 一、法律第五二號ヲ 以テ廢止シ特別會計 法ヲ公布
	簡易生命保險	大正一五、七、一〇	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
逓信省所管	郵便年金	大正一五、三、三〇	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
鐵道省所管	帝國鐵道 (資本勘定 用品勘定 收益勘定)	明治四二、三、二二 六	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
	朝鮮總督府 朝鮮鐵道用品 資金	明治四三、九、三〇 緊要勅令、四〇六	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	

拓務省所管	朝鮮簡易生命 保險	昭和四、五、四 五六	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
	臺灣總督府 臺灣官設鐵道 用品資金	明治三〇、三、二六 明治三五、三、一八	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
	關東廳	明治四〇、三、一七	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
	樺太廳	明治四〇、三、一八	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	
	南洋廳	大正一、三、二五	當該年度	四月三十日迄	當該年度	三月三十一日限	當該年度	三月三十一日限	

- 一 特別會計ニシテ整理期間ノ記載ナキモノハ一般會計ニ準據ス
- 一 作業益金及資金ノ過剰金ニ關シテハ大正十一年三月大藏大臣達藏第三五五〇號國庫内移換手續ニ依リ小切手ヲ振出サス移換請求書ヲ日本銀行ニ送付スル取扱アリ
- 一 出納官吏及出納員ノ歳入金收納ハ翌年度四月三十日限
- 一 出納官吏ノ支拂ハ翌年度四月三十日限
- 一 製鐵所用品勘定又ハ作業勘定ノ益金ヲ資本勘定ニ繰入ルル場合ハ翌年度五月三十一日迄之カ出納ヲ爲スコトヲ得
- 一 帝國鐵道會計歳入歳出金出納ニシテ左記ノ場合ハ翌年度五月三十一日迄之カ出納ヲ爲スコトヲ得
 - 一 出納官吏ノ領收シタル歳入金ヲ日本銀行ニ拂込ムトキ
 - 二 繰替拂ヲ爲シタル金額ニ對シ小切手ヲ振出ストキ
 - 三 鐵道益金若ハ用品勘定過剰金ヲ資本勘定ニ繰入ルルトキ又ハ用品資金補足金ヲ用品勘定ニ繰入ルルトキ
- 一 日本銀行受入ニシテ左記ノ場合ハ翌年度五月三十一日迄之カ受入ヲ爲スコトヲ得
 - 一 出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歳入金ノ拂込アリタルトキ
 - 二 市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歳入金ノ送付アリタルトキ
 - 三 國庫内ニ於テ移換ニ依ル歳入金ノ受入ヲ爲ストキ

○廢止規程件名一覽

舊會計検査法規所掲ノモノニシテ大正十二年一月一日以降廢止ニ係ルモノヲ掲ク

○太政官布告

- 一 預金規則(明治十八年五月三十日) 太政官布告第十三號
- 大正十四年三月三十日法律第二十五號(預金部預金法)附則ヲ以テ大正十四年四月一日ヨリ廢止

○法律

- 一 【預金局】預金、郵便貯金、郵便爲替金、郵便取立金特別會計(明治二十三年三月十八日) 法律第二十一號
- 大正十四年三月三十日法律第十三號(大藏省預金部特別會計法)附則ヲ以テ大正十四年度ヨリ廢止
- 一 官吏恩給法(明治二十三年六月二十一日) 法律第四十三號
- 一 官吏遺族扶助法(明治二十三年六月二十一日) 法律第四十四號
- 一 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則(明治二十九年三月三日) 法律第三十六號
- 大正十二年四月十四日法律第四十八號(恩給法)附則ヲ以テ大正十二年十月一日ヨリ廢止
- 一 在外國帝國專管居留地特別會計法(明治三十三年三月一日) 日法律第二十二號
- 大正十四年三月三十日法律第二十號ヲ以テ大正十三年度限

附錄

リ廢止

- 一 陸軍營繕費補充資金特別會計法(明治四十一年三月三十日) 法律第四十號
- 大正十四年三月三十日法律第十六號ヲ以テ大正十三年度限

リ廢止

- 一 朝鮮醫院及濟生院特別會計法(明治四十五年三月二十八日) 法律第六號
- 大正十四年三月三十日法律第十九號ヲ以テ大正十三年度限

リ廢止

- 一 臨時國庫證券收入金特別會計法(大正六年七月二十一日) 法律第八號
- 大正十四年三月三十日法律第十五號ヲ以テ大正十三年度限

リ廢止

- 一 東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律(大正八年三月二十五日) 法律第十二號
- 大正十四年三月三十日法律第十七號(大學特別會計法中改正ノ件)附則ヲ以テ大正十四年度ヨリ廢止

○勅令

- 一 文官判任以上ノ者退官賜金ノ件(明治二十三年六月二十日) 勅令第九十八號
- 大正十二年四月十四日法律第四十八號(恩給法)附則ヲ以テ大正十二年十月一日ヨリ廢止

○勅令

- 一 官吏遺族扶助法納金收入規則(明治二十三年七月十四日) 勅令第二百二十五號
- 大正十二年十月九日勅令第四百三十九號(恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則)附則ヲ以テ大正十二年十月九日

ヨリ廢止
一 臘虎及臘肭獸ノ獸皮賣却隨意契約ノ件(大正二年九月二十號)

一 大正十二年六月七日勅令第二百九十九號(政府ニ於テ物品ノ販賣ヲ問屋業者ニ委託スルコトヲ得ル場合ニ關スル件)附則ヲ以テ大正十二年六月七日ヨリ廢止

一 種細羊ノ賣買及貸渡隨意契約並無償付與ノ件(大正六年十月勅令第二百三十三號)

一 大正十四年一月十二日勅令第一號(種牡牛、種牡馬及種細羊並種細羊ノ果實讓與ノ件)附則ヲ以テ大正十四年一月十二日ヨリ廢止

一 特殊財産管理局ノ管理財産中現金ノ取扱ニ關スル件(大正九年七月十五日勅令第二百十四號)

一 大正十二年八月二十九日勅令第三百八十九號(特殊財産ノ現金ニ對シ利子ヲ附スルノ件)附則ヲ以テ大正十二年八月二十九日ヨリ廢止

一 非常徵發令(大正十二年九月二日勅令第三百九十六號)

一 臨時震災救護事務局官制(大正十二年九月二日勅令第三百九十七號)附則ヲ以テ大正十三年七月八日ヨリ廢止

大正十三年三月二十九日勅令第五十五號ヲ以テ大正十三年三月三十一日限り廢止

一 帝都復興審議會官制(大正十二年九月十九日勅令第四百十八號)

一 大正十三年二月二十五日勅令第二百四號ヲ以テ大正十三年二月二十五日ヨリ廢止

一 臨時物資供給令(大正十二年九月二十二日勅令第四百二十號)

一 臨時物資供給特別會計令(大正十二年九月二十二日勅令第四百二十一號)

一 大正十二年十二月二十四日勅令第五百九號勅令第五百十號ヲ以テ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フ

一 帝都復興院官制(大正十二年九月二十七日勅令第四百二十五號)

一 臨時營繕局官制(大正十二年十月一日勅令第四百三十四號)

一 臨時物資供給令第一條第二項ノ規定ニ依ル物資ノ品目指定ノ件(大正十二年十一月七日勅令第四百九號)

一 大正十二年十二月二十四日勅令第十一號ヲ以テ臨時物資供給令失效ノ日限り之ヲ廢止

一 臨時物資供給令ノ規定ニ依ル物資ノ品目指定ノ件

(大正十二年九月二十二日農商務省令臨時第二號)

一 大正十二年十一月七日閣令第九號(臨時物資供給令第一條第二項ノ規定ニ依ル物資品目指定ノ件)附則ヲ以テ大正十二年十一月七日ヨリ廢止

一 大正十二年勅令第四百六號ニ依リ會計規則ニ對スル特例(契約方法、契約書作成及代價部分拂ニ關シ會計規則ノ規定ニ對スル特例)(大正十二年十月二十日大藏省令第二十四號)

一 大正十三年十月二日大藏省令第二十三號ヲ以テ大正十三年十月十五日ヨリ廢止

○會計検査院内達

一 物價取調規程(明治三十三年六月十八日院内達第十二號)

一 大正十三年七月二十五日院内達第七號(院長官房事務分掌規程)附則ヲ以テ大正十三年八月一日ヨリ廢止

○會計検査院長決裁

一 證憑書類廢棄手續(明治三十三年五月八日院長決裁)

一 大正十三年七月二十五日院内達第六號(文書取扱規程)附則ヲ以テ大正十三年八月一日ヨリ廢止

大正十五年七月二十一日初版印刷
 大正十五年七月二十四日初版發行
 昭和二年十月十五日加除篇第一號印刷
 昭和二年十月二十三日加除篇第一號發行
 昭和三年十月一日加除篇第二號印刷
 昭和三年十月三日加除篇第二號發行
 昭和四年十月二十六日加除篇第三號印刷
 昭和四年十月二十八日加除篇第三號發行
 昭和六年八月二十七日加除篇第四號印刷
 昭和六年八月三十一日加除篇第四號發行

定價金七拾五錢

編纂者	會計検査院長官房
發行者	朝陽會長
印刷者	杉精三
發行所	內閣印刷局內
發賣所	株會 三省堂
販賣所	株會 三省堂大阪支店

株會 三省堂
 東京市神田區通神保町一番地
 (振替東京三一五五五)
 株會 三省堂大阪支店
 大阪市南區順慶町一丁目四十一番地
 (振替大阪八一三〇〇)

會計檢查法規集加除篇

第五號

會計檢查法規集加除篇
第五號

會計検査法規集ノ追録

第一集

凡 例

- 一 本書ハ會計検査法規集ノ追録トシテ昭和六年七月二日ヨリ昭和七年七月一日迄ニ公布セラレタル新法又ハ改廢ニ係ルモノヲ追加補正スル爲ニ發行セリ
- 一 加除ハ左記整理表ニ依リ差替ヲ爲スモノトス

昭和七年七月

會計検査院長官房調査科

加除整理表

章別	目次	頁	枚數	加	除	頁	枚數	章別	除	頁	枚數	加	頁	枚數
同	自一至六	三〇	三	自一至六	三〇	三	三	第七章	除頁ナシ	三三〇ノ二	一	三三〇ノ二	一	
第二章	四〇ノ二、四〇ノ三	七一、七二	一	四〇ノ二、四〇ノ三	七一、七二	一	一	第九章	三三七、三三八	三五三、三五四	一	三三七、三三八	一	
第三章	自九三ノ三 至九四ノ三	九四ノ二九	二	自九三ノ三 至九四ノ三	九四ノ二九	二	二	同	自三五七 至三六〇	自三六〇 至四〇七	二	自三五七 至三六〇	二	
同	自九四ノ三 至九四ノ四	自九四ノ三 至九四ノ四	一	自九四ノ三 至九四ノ四	自九四ノ三 至九四ノ四	一	一	同	自四一〇 至四一七	自四一七 至四一八	二	自四一〇 至四一七	二	
同	自九四ノ四 至九四ノ五	自九四ノ四 至九四ノ五	一	自九四ノ四 至九四ノ五	自九四ノ四 至九四ノ五	一	一	同	除頁ナシ	四一八ノ一、二	一	四一八ノ一、二	一	
同	自一〇六ノ四 至一一〇ノ三	自一一〇ノ三 至一一一ノ三	三	自一〇六ノ四 至一一〇ノ三	自一一〇ノ三 至一一一ノ三	三	三	第十章	自四三三 至四三六	自四三六 至四三七	四	自四三三 至四三六	四	
同	自一一一ノ三 至一一三ノ三	自一一三ノ三 至一一四ノ三	二	自一一一ノ三 至一一三ノ三	自一一三ノ三 至一一四ノ三	二	二	同	自四三七 至四三八	自四三八 至四三九	四	自四三七 至四三八	四	
同	自一四〇 至一五三	自一五三 至一五四	三	自一四〇 至一五三	自一五三 至一五四	三	三	第十一章	四六六ノ四	四六六ノ四、四六六ノ五	一	四六六ノ四	一	
同	自一五三 至一五四	自一五四 至一五五	一	自一五三 至一五四	自一五四 至一五五	一	一	第十二章	自四八五 至四八七	自四八七 至四八八	二	自四八五 至四八七	二	
第五章	一九〇ノ二、一九〇ノ三	一九〇ノ二、一九〇ノ三	一	一九〇ノ二、一九〇ノ三	一九〇ノ二、一九〇ノ三	一	一	同	四八九、四九〇	四八九、四九〇	一	四八九、四九〇	一	
第七章	二八三、二八四	二八三、二八四	一	二八三、二八四	二八三、二八四	一	一	同	四九七、四九八	四九七、四九八	一	四九七、四九八	一	
同	自二八七 至二九〇	自二九〇 至二九一	二	自二八七 至二九〇	自二九〇 至二九一	二	二	同	五〇〇ノ二、五〇〇ノ三	五〇〇ノ二、五〇〇ノ三	一	五〇〇ノ二、五〇〇ノ三	一	
同	三〇三、三〇四	三〇三、三〇四	一	三〇三、三〇四	三〇三、三〇四	一	一	同	五〇一、五〇二	五〇一、五〇二	一	五〇一、五〇二	一	
同			三			三	三	同	五〇五、五〇六	五〇五、五〇六	一	五〇五、五〇六	一	
同			一			一	一	同	自五〇六 至五〇七	自五〇七 至五〇八	五	自五〇六 至五〇七	五	

會計検査法規集

目次

第一章 憲法及皇室典範

大日本帝國憲法(明治二二)……………一頁
 皇室典範(明治二二)……………八

第二章 會計検査院諸法規

會計検査院法(明治二二、法律一五)……………一五
 會計検査院事務章程(明治三二、勅令四五七)……………一七
 會計検査院事務章程第三十三條ニ依ル亡失、辨償、私訴ニ關シ報告方各省大臣ニ要求ノ件(明治三三、送三七八通牒)……………二〇
 經費仕拂上被詐取ノ事實發見ノトキ報告方各省大臣ニ照會ノ件(明治三五、送六一四照會)……………二〇
 會計検査院事務章程第三十三條及委託検査取扱順序第三號ニ依ル報告若ハ出納官吏保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損ノ事實アルトキノ處理方ノ件(昭和四、院長決裁)……………二〇ノ二
 有責任判決追調簿ニ登記方ノ件(昭和四、院長決裁)……………二〇ノ二
 會計検査院各部課管理事務(昭和三、院內達一)……………二一
 國有財産整理資金各部課管理事務(大正一一、院長決裁)……………二一

目次

- 院長官房事務分掌規程(大正一三、院內達七).....二二
- 検査報告及検査成績書取調規程(大正一一、院內達五).....二二
- 検査事務規程(大正一一、院內達四).....二二
- 委託検査取扱順序(明治三五、送二六四通牒).....二六
- 検査事務規程第十七條ニ依ル朝鮮臺灣關東州及樺太等ニ於ケル出納官吏計算書ノ判決報告書中所管廳ノ記載方ニ關スル件(大正一三、第三部長決裁).....四〇ノ二
- 検査事務規程第十八條解釋ノ件(昭和四、協二).....四〇ノ二
- 検査事務規程第二十一條ニ依リ再審ヲ開始セサル報告書作製ノ場合取扱方ノ件(昭和三、院長決裁).....四〇ノ三
- 再審判決決定後ニ於ケル處理方ノ件(昭和四、院長決裁).....四〇ノ三
- 検査事務規程第二十四條ニ依ル通牒書案ノ處理方ニ關スル件(大正一一、院長決裁).....四〇ノ三
- 検査事務規程第二十四條中所管大臣解釋ノ件(大正一四、院長決裁).....四〇ノ三
- 検査事務規程第二十九條ニ依ル委託検査成績報告書ニ對スル調査報告書ニ關スル件(大正一三、院長決裁).....四〇ノ三
- 震火災ノ爲認可狀交付未済ノ場合ニ於ケル處理ニ關スル件(大正一三、院長決裁).....四〇ノ三
- 震火災ノ爲計算證明ヲ爲スコト能ハサル出納官吏ニ對スル検査及判決据置報告書ニ關スル件(大正一三、院長決裁).....四〇ノ四
- 震火災ノ爲計算證明ヲ爲スコト能ハサル出納官吏ノ検査及判決据置ニ伴フ通牒書ニ關スル件(大正一三、院長決裁).....四〇ノ五
- 判決報告書中改元ニ基ク會計年度ノ記載方ノ件(昭和二、院長決裁).....四〇ノ六
- 昭和三年勅令第二百七十六號出納官吏ノ辨償責任免除ニ關スル取扱方ノ件(昭和三、略總一五).....四〇ノ六
- 昭和三年勅令第二百七十六號恩赦ニ依ル判決報告書取扱方ノ件(昭和三、院長決裁).....四一
- 部會議議決事項(大正一一、院內達七).....四二
- 議事細則(大正一一、院內達八).....四二
- 行務監督規程(大正一一、院內達六).....四二
- 文書取扱規程(大正一三、院內達六).....四五

- 會計検査院勅任検査官及書記定員ノ件(明治四三、勅令一一三).....六三
- 會計検査官任用資格ノ件(明治二二、勅令八〇).....六三
- 會計検査官退官ニ關スル法律(明治二九、法律九一).....六三
- 會計検査官懲戒法(明治三三、法律二一).....六四
- 職員休暇規程(大正一三、院內達五).....六六ノ二
- 旅費減給ニ關スル件(昭和五、院內達二).....六六ノ二

第二章 會計法及會計規則

第一節 一般會計

- 會計法(大正一〇、法律四二).....六七
- 會計規則(大正一一、勅令一).....七一
- 國產獎勵ノ爲メ會計法ノ特例ニ關スル法律(昭和二、法律四一).....九三ノ二
- 昭和二年法律第四十一號國產獎勵ノ爲メ會計法ノ特例ニ關スル法律施行ニ關スル件(昭和二、勅令三七三).....九三ノ二
- 大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得サル費途ノ件(大正三、勅令三〇五).....九三ノ三
- 會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式(大正一一、大藏省令二〇).....九四
- 會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件(大正一一、大藏省令四三).....九五
- 歳入年度等誤謬ノ場合訂正手續(大正一一、大藏省令三八).....九五
- 借入金整理ニ關スル法律(昭和四、法律二七).....九六
- 入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件(明治四三、勅令三四〇).....九六
- 政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件(明治四一、勅令二八七).....九七
- 國庫出納金端數計算法(大正五、法律二).....九七
- 國庫出納金端數計算法第五條第二項ニ依ル命令ノ件(大正五、勅令五六).....九八

一 國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定(大正五、大藏省令二)……………九八

一 政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受クル場合會計上ノ規程(明治二六、勅令二六一)……………九八

第二節 特別會計

第一款 通則

一 作業會計法(明治二三、法律一七)……………一〇一

一 作業會計規則(大正一一、勅令三四)……………一〇二

一 特別會計ノ第一豫備金支出ニ關スル件(明治三〇、勅令一一八)……………一〇四ノ二

一 特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律(昭和六、法律八)……………一〇四ノ二

一 特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律ノ施行ニ關スル件(昭和六、勅令二〇三)……………一〇四ノ二

一 特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律施行事務取扱細則(昭和六、大藏省令二七)……………一〇四ノ四

一 特別會計ニ於ケル營繕費ニ關スル法律(昭和六、法律九)……………一〇四ノ五

第二款 外務省所管

一 對支文化事業特別會計法(大正一一、法律三六)……………一〇五

第三款 內務省所管

一 健康保險特別會計法(大正一五、法律二六)……………一〇六

一 健康保險特別會計規則(昭和元、勅令四)……………一〇六ノ二

一 勞働者災害扶助責任保險特別會計法(昭和六、法律五六)……………一〇六ノ四

一 勞働者災害扶助責任保險特別會計規則(昭和六、勅令二二二)……………一〇六ノ四

第四款 大藏省所管

一 造幣局特別會計法(大正四、法律九)……………一〇七

一 造幣局特別會計規則(大正五、勅令七五)……………一〇八

一 造幣局据置運轉資本増加及設備擴張費ニ關スル法律(大正八、法律九)……………一〇九

一 造幣局資金拂出ニ關スル法律(昭和七、法律一二)……………一〇九

一 專賣局作業會計規則(明治三三、勅令二〇)……………一一〇

一 專賣局据置運轉資本補足ニ關スル法律(明治三八、法律一七)……………一一二

一 大藏省預金部特別會計法(大正一四、法律一三)……………一一三

一 大藏省預金部特別會計規則(大正一四、勅令五四)……………一一三

一 教育基金特別會計法(明治三二、法律八〇)……………一一四

一 國債整理基金特別會計法(明治三九、法律六)……………一一五

一 昭和六年度ニ於ケル國債償還資金ノ繰入一部停止ニ關スル件(昭和七、勅令七)……………一一六

一 昭和七年度以降國債償還資金ノ繰入一部停止ニ關スル法律(昭和七、法律八)……………一一六

一 公債金特別會計法(大正八、法律一五)……………一一六ノ二

一 賠償金特別會計法廢止法律(昭和六、法律七)……………一一六ノ二

一 國有財産整理資金特別會計法(大正一一、法律六)……………一一六ノ三

一 國有財産整理資金特別會計法ノ特例ニ關スル法律(昭和二、法律一五)……………一一七

一 教育改善及農村振興基金特別會計法(大正一四、法律一四)……………一一八(自一九缺至二八缺)

第五款 陸軍省所管

一 陸軍作業會計法(明治二三、法律一八)……………一三〇

一 東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ各特別會計合併ニ關スル法律(大正一一、法律七)……………一三〇

一 東京大阪兩砲兵工廠ノ据置運轉資本増加ニ關スル法律(大正五、法律二三)……………一三一

一 千住製絨所据置運轉資本増加ニ關スル法律(明治三〇、法律四)……………一三一

一 千住製絨所据置運轉資本増加ニ關スル法律(明治四〇、法律一六)……………一三一

第六款 海軍省所管

- 一 海軍工廠資金會計法(明治三八、法律一五)……………一三二
- 一 海軍工廠資金會計規則(明治三八、勅令五一)……………一三二

第七款 文部省所管

- 一 大學特別會計法(大正一〇、法律一一)……………一三三
- 一 大學特別會計規則(大正一〇、勅令八一)……………一三五
- 一 學校及圖書館特別會計法(明治四〇、法律二二)……………一三七
- 一 學校及圖書館特別會計規則(明治四〇、勅令六〇)……………一三八

第八款 農林省所管

- 一 米穀需給調節特別會計法(大正一〇、法律三七)……………一四〇
- 一 米穀需給調節特別會計規則(大正一〇、勅令二二四)……………一四〇ノ二
- 一 家畜再保險特別會計法(昭和四、法律一一)……………一四〇ノ三
- 一 家畜再保險特別會計規則(昭和四、勅令三三)……………一四一

第九款 商工省所管

- 一 製鐵所特別會計法(大正一五、法律四六)……………一四二
- 一 製鐵所特別會計規則(大正一五、勅令三五)……………一四二ノ三
- 一 製鐵所特別會計ニ於テ大藏省預金部ノ横濱正金銀行ニ對スル債權ノ讓渡ヲ受クルコトニ關スル法律(昭和

- 一 森林收入未納金延納許可方(明治三八、農商務省令二八)……………三〇二
- 一 製鐵所製品賣拂代金延納ニ關スル件(大正一一、農商務省令二)……………三〇二
- 一 物件賣拂代金延納規則(大正一一、朝鮮總督府令一)……………三〇二
- 一 物件賣拂代金延納ニ關スル件(大正一〇、臺灣總督府令一五五)……………三〇三
- 一 樺太廳ニ屬スル生産物賣拂代金延納ニ關スル件(大正一〇、樺太廳令四五)……………三〇四
- 一 物件賣拂代金延納規則(大正一一、南洋廳令一〇)……………三〇四
- 一 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則(大正一一、勅令四三九)……………三〇五
- 一 政府ト私人トノ債務ノ相殺アリタル場合ニ於ケル歳入徵收官ノ事務取扱方(大正一一、大藏省訓令一五)……………三〇七
- 一 國債償還費途ノ趣旨ニ依ル國民獻金收入方ノ件(昭和四、大藏省訓令一一)……………三〇八

第二節 支出

- 一 支出官事務規程(大正一一、大藏省令一)……………三〇九
- 一 公共團體ニ對スル工事補助費繰越使用ニ關スル法律(明治四四、法律二)……………三一三
- 一 特別都市計畫事業ニ伴フ建物其ノ他ノ工作物ノ移轉ニ因リ支拂フヘキ補償金等ヲ前金拂ト爲スノ件(大正一一、勅令三〇二)……………三一三
- 一 北海道拓殖鐵道建設費利子支出ニ關スル法律(大正六、法律一〇)……………三一三
- 一 陸軍給與ニ關スル委任經理ノ法律(明治二三、法律二七)……………三一四
- 一 帝國學士院學術研究獎勵金委任經理ニ關スル法律(大正四、法律一三)……………三一四
- 一 帝國美術院美術研究獎勵金委任經理ニ關スル法律(大正一四、法律四〇)……………三一五
- 一 大學並直轄諸學校ニ於ケル獎學寄附金委任經理規程(明治四〇、文部省訓令四)……………三一五
- 一 郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱ハシムルノ件(大正四、勅令六)……………三一六ノ三
- 一 郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程(大正四、大藏省令一)……………三一六ノ三
- 一 郵便官署ニ於ケル各廳歳入金及歳出金取扱規則(大正四、遞信省令八)……………三一九

一 郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入ヲ爲サシムルノ特例ニ關スル件(昭和六、大藏省令)……………三二〇ノ二

一 第三節 出納官吏

一 出納官吏事務規程(大正一一、大藏省令一)……………三二一

一 出納官吏等ノ辨償責任ノ免除ニ關スル件(昭和三、勅令二七六)……………三二八ノ八

第八章 契約

第一節 一般競争契約

一 會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件(大正一一、大藏省令三三)……………三二七

一 朝鮮ニ於テ一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件(大正一一、朝鮮總督府令九〇)……………三三〇ノ三

一 臺灣ニ於テ一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件(大正一一、臺灣總督府令九九)……………三三一

一 關東州ニ於テ一般競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件(大正一一、關東廳令三五)……………三三一

一 樺太ニ於テ一般競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件(大正一一、樺太廳告示六四)……………三三二

一 南洋群島ニ於テ一般競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件(大正一二、南洋廳令二六)……………三三三

第二節 隨意契約

一 政府ニ於テ物品ノ販賣ヲ問屋業者ニ委託スルコトヲ得ル場合ニ關スル件(大正一二、勅令二九九)……………三三五

一 陸軍ニ於ケル豫備馬ノ無償貸渡及無償付與ノ件(大正一〇、勅令四一五)……………三三五

一 種牡牛、種牡馬及種緬羊並種緬羊ノ果實讓與ノ件(大正一四、勅令一)……………三三五

一 各省大臣ニ於テ一般競争ヲ不利ト認メ指名競争又ハ隨意契約ニ依リタル場合會計検査院ニ對スル通知事項ニ……………三三五

關スル件(大正一一、送七三二照會)……………三三六

第九章 俸給及諸給與

第一節 俸 給

一 高等官官等俸給令(明治四三、勅令一三四)……………三三七

一 判任官俸給令(明治四三、勅令一三五)……………三四四ノ三

一 文官俸給支給細則(明治二五、大藏省令一一)……………三四七

一 文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレタル者ノ俸給ニ關スル件(明治三七、勅令二〇六)……………三四八

一 陸海軍准士官以下ノ受恩給者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル俸給支給方(明治三三、勅令一三六)……………三四八

一 道廳府縣立師範學校長ノ俸給ニ關スル件(大正一一、勅令四三〇)……………三四八

第二節 諸 給

一 傭員俸給及傭員其他ニ給スル諸手当支給方ノ件(明治二六、勅令七)……………三四九

一 年額又ハ月額ノ手当金支給方(明治二二、大藏省令一)……………三四九

一 雇員扶助令(昭和三、勅令一〇九)……………三四九

一 雇員扶助令第十條第二項ノ規定ニ依リ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在勤スル内地人タル雇員及外國ニ在勤スル雇員ニ付同條第一項ニ規定スル俸給中ヨリ控除スヘキ金額ノ件(昭和三、大藏省告示一一二)……………三五〇ノ三

一 傭人扶助令(大正七、勅令三八二)……………三五〇ノ三

一 官吏療治料給與ノ件(明治二五、勅令八〇)……………三五三

一 勤勉手当給與令(大正九、勅令五四五)……………三五三

一 交通至難ノ場所ニ在勤スル職員ニ手当給與ノ件(大正九、勅令四〇五)……………三五五

一 貴族院及衆議院ノ議事速記ニ從事スル職員ニ特別手當ヲ給スルコトヲ得ルノ件(大正一二、勅令六一)……………三五六

第三節 行政及軍備整理ニ依ル賜金

一 行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等ニ交付スル公債發行ニ關スル法律(昭和七、法律七)……………三五七

一 行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等ニ支給スル特別ノ賜金又ハ手當ニ關スル件(昭和七、勅令八八)……………三五七

一 行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等ニ交付スル公債ノ發行交付ニ關スル規程(昭和七、大藏省令九)……………三五八

一 「ロンドン」海軍條約實施ニ伴フ海軍職工整理ニ關スル法律(昭和六、法律四五)……………三五九

一 「ロンドン」海軍條約ノ實施ニ伴ヒ解備セラレタル海軍職工ニ特別手當支給ノ件(昭和六、勅令四四)……………三五九

第四節 旅 費

一 內國旅費規則(明治四三、勅令二七四)……………三六一

一 內國旅費規則別表ニ定ムル甲地方指定ノ件(大正一三、大藏省令二八)……………三六五

一 內國旅費規則第二條ニ依ル鐵道賃及船賃(大正九、大藏省令一六)……………三六五

一 大藏省所管旅費支給規則(明治四三、大藏省令三三)……………三六六

一 大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳員朝鮮臺灣及樺太內旅費支給規則(明治四三、大藏省令三五)……………三六九

一 外國旅費規則(大正一〇、勅令四〇一)……………三七一

一 外國旅費規則施行細則(大正一〇、大藏省令三一)……………三七六ノ二

一 南洋群島關東州南滿洲旅費規則(大正一〇、勅令四〇二)……………三七七

一 南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則(大正一〇、大藏省令三三)……………三八二ノ二

一 在外研究員規程(大正一一、勅令六)……………三八三

第五節 恩給及救助

一 恩給法(大正一一、法律四八)……………三八七

一 恩給法施行令(大正一一、勅令三六七)……………四〇七

一 理蕃加算ニ關スル件(昭和七、內閣告示三)……………四一八ノ一

一 恩給ノ減額補給及停止ニ關スル法律(昭和七、法律一三)……………四一八ノ一

一 現業員ノ共濟組合ニ對スル政府給與金ニ關スル件(大正九、勅令八〇)……………四一八ノ二

一 現業員ノ共濟組合ニ對スル政府給與金ノ増額ニ關スル件(昭和元、勅令五)……………四一八ノ二

一 鐵道部内ノ現業員ノ共濟組合ニ關スル件(明治四〇、勅令一二七)……………四一八ノ三

一 警部補巡查消防手共濟組合ニ關スル件(大正九、勅令四四)……………四一九

一 印刷局現業員ノ共濟組合ニ關スル件(明治四二、勅令二二)……………四一九

一 內務省直轄土木事業ニ從事スル現業員ノ共濟組合ニ關スル件(大正一二、勅令三三二)……………四一九

一 專賣局現業員ノ共濟組合ニ關スル件(明治四一、勅令一五七)……………四一九

一 造幣局現業員ノ共濟組合ニ關スル件(大正一二、勅令一九)……………四二〇

一 陸軍作業廳現業員ノ共濟組合ニ關スル件(大正八、勅令八〇)……………四二〇

一 海軍作業廳所屬雇員以下現業員ノ共濟組合ニ關スル件(大正一一、勅令六〇)……………四二〇

一 林野現業員共濟組合令(大正八、勅令三〇六)……………四二一

一 製鐵所現業員共濟組合ニ關スル件(大正一一、勅令四九五)……………四二一

一 遞信部内ノ現業員共濟組合ニ關スル件(明治四二、勅令一五一)……………四二一

一 朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合ニ關スル件(大正一〇、勅令二三六)……………四二二

一 朝鮮總督府遞信官署現業員共濟組合ニ關スル件(大正九、勅令五七四)……………四二二

一 朝鮮總督府鐵道局現業員ノ共濟組合ニ關スル件(大正一四、勅令一一六)……………四二二

一 臺灣總督府專賣局共濟組合ニ關スル件(大正一四、勅令二一四)……………四二二

- 臺灣總督府營林現業員共濟組合(昭和五、勅令五九).....四二三
- 臺灣總督府遞信局及臺灣總督府郵便局現業員共濟組合ニ關スル件(大正二、勅令二七九).....四二三
- 臺灣總督府鐵道部現業員ノ共濟組合ニ關スル件(明治四二、勅令四九).....四二三
- 關東廳警察共濟組合ニ關スル件(昭和二、勅令一五九).....四二四
- 關東廳遞信官署現業員ノ共濟組合ニ關スル件(大正九、勅令五一〇).....四二四
- 樺太廳鐵道事務所及樺太廳郵便局現業員ノ共濟組合ニ關スル件(大正八、勅令三六一).....四二四
- (四二五、四二六缺)
- 罹災救助基金法(明治三三、法律七七).....四二七
- 罹災救助基金法施行手續(大正七、大藏省令八).....四二九

第十章 預金及有價證券

第一節 預金

- 預金部預金法(大正一四、法律二五).....四三一
- 預金部資金運用規則(大正一四、勅令五五).....四三一
- 大藏省預金部ニ預入ルル資金ニ關スル件(大正一四、勅令一八).....四三三
- 預金部預金取扱規程(大正一一、大藏省令六).....四三三
- 預金部普通地方資金貸付規程(昭和三、大藏省達二).....四三七
- 日本銀行國庫金取扱規程(大正一一、大藏省令一〇).....四三八
- 第二節 有價證券
- 政府所有有價證券取扱規程(大正一一、大藏省令七).....四五三

- 政府保管有價證券取扱規程(大正一一、大藏省令八).....四五四ノ三
- 日本銀行政府有價證券取扱規程(大正一一、大藏省令一一).....四五七

第十一章 保管及供託

第一節 保管

- 保管金規則(明治三三、法律一).....四六三
- 救恤又ハ學藝技術獎勵寄附金ノ保管出納ニ關スル件(明治三三、勅令三二九).....四六三
- 保管金取扱規程(大正一一、大藏省令五).....四六三
- 出納官吏等ノ現金及有價證券ノ保管ニ關スル特例ノ件(昭和六、大藏省令三五).....四六六ノ五

第二節 供託

- 供託法(明治三二、法律一五).....四六七
- 供託物ノ還付又ハ取戻ヲ請求スル場合ニ關スル件(大正一一、勅令七五).....四六八
- 供託物取扱規程(大正一一、司法省令二).....四六九
- 供託有價證券取扱規程(大正一一、大藏省令九).....四七一
- 供託金受入ヲ東京供託局ニテ取扱フ件(大正一二、司法省告示九).....四七一
- 供託法第三條ニ依ル供託金ノ利息(大正一一、司法省令三).....四七二

第十二章 參考諸法規

- 法令形式ノ改善ニ關スル件(大正一五、內閣訓令號外).....四七三

法例抄録(明治三一、法律一〇).....四七四

朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律(明治四四、法律三〇).....四七四

臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律(大正一〇、法律三).....四七五

樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律(明治四〇、法律二五).....四七五

關東州ニ於ケル諸般ノ成規ニ關スル件(明治三九、勅令二〇三).....四七六

公式令抄録(明治四〇、勅令六).....四七六

文官任用令(大正二、勅令二六一).....四七六

文官分限令(明治三二、勅令六二).....四七八

文官懲戒令(明治三二、勅令六三).....四七九

官吏服務紀律(明治二〇、勅令三九).....四八二

官廳ノ執務時間ニ關スル件(大正一一、閣令六).....四八三

歳入歳出豫算概定順序(明治二二、閣令二).....四八三

豫定經費算出概則(明治二二、閣令一九).....四八四

市町村義務教育費國庫負擔法(大正一一、法律二〇).....四八五

市町村義務教育費國庫負擔法第三條ノ特例ニ關スル法律(昭和七、法律二).....四八六

教育基金令(大正三、勅令二五九).....四八七

土地收用法(明治三三、法律二九).....四八九

特別都市計畫法(大正一一、法律五三).....四九七

電信事業公債法(大正九、法律四二).....四九九

電話事業公債法(大正六、法律一一).....四九九

道路公債法(大正九、法律五九).....四九九

朝鮮事業公債法(昭和二、法律一一).....四九九

臺灣事業公債法(大正一一、法律一三).....四九九

關東州事業公債法(大正一一、法律一五).....五〇〇

樺太事業公債法(大正七、法律二).....五〇〇

臨時國庫證券法(大正六、法律七).....五〇〇

滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件(昭和七、勅令六、一四、一九).....五〇〇

滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律(昭和七、法律一).....五〇〇

昭和七年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律(昭和七、法律六).....五〇〇

米穀法(大正一〇、法律三六).....五〇〇

米穀法施行令(昭和六、勅令一七〇).....五〇〇

米穀法施行規則(昭和六、農林省令一三).....五〇〇

米穀證券發行規程(昭和六、大藏省令八).....五〇〇

健康保險積立金運用規則(昭和五、勅令三四).....五〇〇

簡易生命保險積立金運用規則(大正六、勅令六八).....五〇〇

簡易生命保險積立金貸付規則(大正八、遞信省令七四).....五〇〇

郵便年金積立金運用規則(昭和三、勅令二一八).....五〇〇

郵便年金積立金貸付ニ關スル件(昭和三、遞信省令六〇).....五〇〇

朝鮮簡易生命保險積立金運用規則(昭和七、勅令一五).....五〇〇

貨幣法(明治三〇、法律一六).....五〇〇

小額紙幣發行ニ關スル件(大正六、勅令二〇二).....五〇〇

小額紙幣發行期限ニ關スル法律(大正九、法律六).....五〇〇

金貨幣又ハ金地金輸出、販賣取締ニ關スル件(昭和六、大藏省令三六).....五〇〇

金ヲ主タル材料トスル製品又ハ金ノ合金輸出許可方ニ關スル件(昭和六、大藏省令三八).....五〇〇

銀行券ノ金貨兌換ニ關スル件(昭和七、勅令四).....五〇〇

産業組合中央金庫法(大正一一、法律四二).....五〇〇

日本興業銀行外二銀行ノ對支借款關係債務ノ整理ニ關スル法律(大正一五、法律四二).....五〇〇

日本銀行特別融通及損失補償法(昭和二、法律五五).....五〇〇

日本銀行特別融通及損失補償法第一條ニ依ル特別融通ニ關スル規程(昭和二、大藏省令二二)..... 五一〇ノ二

臺灣ノ金融機關ニ對スル資金融通ニ關スル法律(昭和二、法律五六)..... 五一〇ノ四

絲價安定融資補償法(昭和四、法律一四)..... 五一〇ノ四

絲價安定融資補償法施行規則(昭和四、農林省令二〇)..... 五一〇ノ五ノ二

絲價安定融資擔保生絲買收法(昭和七、法律一八)..... 五一〇ノ五ノ三

絲價安定融資擔保生絲買收法ニ依リ買入レタル生絲ノ讓與ニ關スル件(昭和七、勅令一〇六)..... 五一〇ノ五ノ四

絲價安定融資擔保生絲買收法施行規則(昭和七、農林省令)..... 五一〇ノ五ノ五

絲價安定融資損失善後處理法(昭和七、法律一九)..... 五一〇ノ五ノ六

絲價安定融資損失善後處理法施行規則(昭和七、農林省令六)..... 五一〇ノ五ノ六

輸出補償法(昭和五、法律六)..... 五一〇ノ五ノ七

輸出補償法施行規則(昭和五、商工省令七)..... 五一〇ノ五ノ八

海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ伴フ損害ノ補償ニ關スル法律(大正一五、法律五一)..... 五一〇ノ六

獨逸國等ニ屬スル財産管理ノ件(大正九、勅令四八)..... 五一〇ノ七

特殊財産管理ニ關スル勅令施行ニ關スル件(大正九、內務省令三)..... 五一〇ノ七

同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ依ル財産處理ニ關スル件(大正九、勅令七一)..... 五一〇ノ七

第十三章 震災ニ關スル法令

高等諸學校震災復舊諸費ニ屬スル豫算ノ施行ニ關スル法律(大正一三、法律一〇)..... 五一五

會計規則其ノ他ノ收入支出ニ關スル命令ノ規定ニ對シ特例ヲ設クル件(大正一一、勅令四〇六)..... 五一五

震災被害者ニ對スル租税ノ免除猶豫等ニ關スル法律(昭和二、法律一七)..... 五一五

昭和二年法律第十七號(震災被害者ニ對スル租税ノ免除猶豫等ニ關スル件)施行方(昭和二、大藏省令六)..... 五一五

(自五一七至五二六缺)

震災被害者ニ對スル租税ノ減免猶豫等ニ關スル法律(昭和六、法律四六)..... 五二六ノ四

昭和六年法律第四十六號(震災被害者ニ對スル租税ノ減免猶豫等ニ關スル件)施行方(昭和六、大藏省令一一)..... 五二六ノ五

震災善後公債法(大正一一、法律五六)..... 五二七

震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件(大正一一、勅令四六)..... 五二七

復興事業ノ施行ニ伴ヒ支拂フヘキ金額ヲ國債證券ヲ以テ交付スル等ニ關スル法律(大正一一、法律五五)..... 五二七

復興事業ノ施行ニ伴ヒ交付スヘキ國債證券ニ關スル件(大正一一、勅令一三七)..... 五二八

米貨公債及英貨公債ノ發行ニ關スル件(大正一一、勅令一七)..... 五二九

日本銀行ノ手形ノ割引ニ因ル損失ノ補償ニ關スル財政上必要處分ノ件(大正一一、勅令四二四)..... 五三〇

日本銀行ノ手形割引ニ因ル損失ノ補償ニ關スル法律(大正一四、法律三五)..... 五三〇

震災手形損失補償公債法(昭和二、法律一九)..... 五三〇ノ二

震災手形善後處理法(昭和二、法律二〇)..... 五三〇ノ二

震災手形善後處理法ニ依リ震災手形所持銀行ニ對シ貸付ヲ爲ス手續(昭和二、大藏省令二八)..... 五三〇ノ三

附 錄

會計検査院恒例報告書類提出期限要覽..... 五三一

會計検査院用字例..... 五三三

度量衡換算表..... 五三七

各會計名及收支整理期間一覽..... 五三九

通知案

會計検査院法第十六條委託検査ニ係ル計算ノ検査及責任解除ニ關シ其検査取扱順序別紙ノ通改定候條明治三十四年度分ヨリ施行相成度此段及通知候也

年 月 日 院 長

委託廳長官宛

遞信大臣へハ左ノ追書ヲ加フ

追テ郵便爲替貯金ニ關スル成績報告書式ハ従前ノ通ト御承知相成度此段申添候也

○検査事務規程第十七條ニ依ル朝鮮臺灣關東州及樺太等ニ於ケル出納官吏計算書ノ判決報告書中所管廳ノ記載方ニ關スル件

●第三部長決裁 大正十三年七月二十日

- 一 出納官吏(朝鮮臺灣關東州及樺太等各特別會計所屬ノ)ニ對スル判決報告書ノ所管廳ノ欄ニハ省名即チ大藏省名ヲ記入スルコト(認可狀ニモ大藏省所管何年度ト記スルコト一般ノ例ニ同シ)
- 但シ認可狀ハ直接ニ所管地ノ長官ヲ經由スルコトヲ表示スル爲判決報告書ノ所管廳ノ欄省名ノ下ニ經由官廳名ヲ括弧内ニ併記スルコト(例示大藏省(朝鮮總督府)ニ省略)

○検査事務規程第十八條解釋ノ件

●協第二號 昭和四年十月五日

検査事務規程第十八條ニ依レハ出納官吏ニ對スル辨償責任ノ判決ニ關シ無責任ノ場合ニ於テハ會計法第三十六條ニ依リ特ニ證明シタルトキニ限り通牒書案ヲ作り判決報告書ニ添付スヘントアリ右特ニ證明シタルトキトハ左ニ限ルモノト解釋ス

- 一 出納官吏又ハ出納員カ各省大臣ノ辨償命令ニ對シ免責ノ理由アリトシ會計検査院ノ判決ヲ求メタルトキ
- 二 出納官吏又ハ出納員カ現金又ハ物品ノ亡失毀損ニ對シ一應任意辨償シ置キタルモ會計法上辨償ノ責ナキモノナリトノ理由ヲ以テ會計検査院ノ判決ヲ求メタルトキ(理由省略)

○検査事務規程第二十一條ニ依リ再審ヲ開始セサル報告書作製ノ場合取扱方ノ件

●院長決裁 昭和三年十月二十三日
検査事務規程第二十一條ニ依リ再審ヲ開始セサル理由ヲ具シタル報告書ヲ作製スル場合ニ於テ(恩赦ニ依ル場合ヲモ含ム)其ノ再審事項カ所屬長官又ハ受託廳長官ノ申報ニ係ルモノナルトキハ再審ヲ開始セサル理由ヲ具シタル通牒書ヲ併セ提出スルコト(所屬長官又ハ受託長官ノ申報ニ係ルモノニ非スト雖特別ノ必要アリト認ムルトキ同斷)

○再審判決決定後ニ於ケル處理方ノ件

●院長決裁 昭和四年九月九日
再審事項ニ對スル判決決定後ニ於テハ該事項關係書類ハ總テ當該初審擔當課ニ引繼キ爾後同課ニ於テ該事項ニ關スル處理ヲ爲スヘキコトニ取扱方一定ス

○検査事務規程第二十四條ニ依ル通牒書案ノ處理方ニ關スルノ件

●院長決裁 大正十二年十一月十七日
一 改正検査事務規程第二十四條ニ依ル通牒書案ハ決定報告書ニ添付スヘキモノナルモ検査ノ結果總テ正當ト決定シ他ニ何等ノ事故ナク單ニ正當ノ旨ヲ通知スル場合ノ通牒書案ハ便宜決定報告書ニ「要通牒書發遣」ノ旨ヲ記載シテ通牒書案ノ添付ヲ省略スルコトヲ得
二 前項ノ通牒書案ノ様式ハ別紙ノ如ク定メ決定報告書ニ通牒書案ノ添付ヲ省略セル場合ニ於テハ院長官房文書掛ニ於テ別紙様式ニ依ル通牒書ヲ調製スヘシ
三 決定報告書ニ通牒書案ノ添付ヲ省略スルト否トニ拘ラズ通牒書發送ヲ要スヘキ決定報告書ニハ「要通牒書發遣」ノ旨記載スヘシ
(別紙)
年 月 日
所管大臣宛
院 長
何職官某ノ證明ニ係ル何年度何計算書ノ検査ヲ遂ケテ正當ト決定候條此段及通牒候也

十九日勅令第四百八十六號ヲ以テ十一年四月一日ヨリ施行)

明治二十七年法律第十六號(國庫金出納上一時貸借ニ關スル件)、明治三十三年法律第五十號(鐵道郵便電信電話官署現金出納ニ關スル件)及明治四十四年法律第二十四號(朝鮮總督府鐵道及通信官署ニ於テ取扱フ現金ノ出納ニ關スル件)ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ爲シタル第二豫備金ノ支出並本法施行ノ日ノ屬スル年度ノ前年度及前々年度ノ決算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前ニ期滿免除ト爲ラサル權利ニ付テハ本法其ノ他ノ法律中時効ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ期間ノ起算點ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

本法施行前ニ進行ヲ始メタル期間滿免除ノ期間カ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ從前ノ規定ニ依ル但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ本法其ノ他ノ法律ヲ適用ス
前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

朝鮮(明治四十三年九月三十日勅令第四百十二號)ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行
臺灣(明治二十九年五月四日勅令第六十七號)ヲ以テ施行
樺太(明治四十年三月三十一日勅令第九十五號)ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行

第三章 會計法及會計規則

○會計規則

明治二年第六〇號 改正 二六年第一二號 三三年第二七號 三四年第一五六號 三五年第二〇〇號 大正九年第五八〇號 改正 昭和七年第一〇〇號

勅令第一號 大正十一年一月九日

第一章 總 則

- 第一節 會計年度所屬區分
第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル
一 納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度
二 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發スルモノハ納入ノ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
三 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
第二條 歳出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル
一 國債ノ元利、年金、恩給ノ類ハ支拂期日ノ屬スル年度
二 諸拂戻金、缺損補填金、償還金ノ類ハ其ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
三 俸給、給料、手当、旅費、手数料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度
四 使用料、保管料、電燈電力料ノ類ハ其ノ支拂ノ原因タル事實ノ存シタル期間ノ屬スル年度
五 工事製造費、物件ノ購入代價、運賃ノ類ハ其ノ支拂

六 前各號ニ該當セサル費用ニシテ繰替拂ヲ爲シタルモノハ其ノ繰替拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度、其ノ他ノモノハ小切手ヲ振出シタル日ノ屬スル年度

第二節 國庫金ノ出納

第三條 日本銀行ハ本令ニ依ルノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金出納ノ事務ヲ取扱フヘシ

別及受拂ニ關スル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ムルモノニ限り相當ノ利子ヲ附セシム(昭和七年六月第一〇號ヲ以テ改正)

第五條 毎年度所屬歲入金ヲ日本銀行ニ於テ受入ルルハ翌年度四月三十日限トス但シ左ニ掲クルノ場合ニ於テハ翌年度五月三十一日迄之カ受入ヲ爲スコトヲ得

一 出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歲入金ノ拂込アリタルトキ

二 市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歲入金ノ送付アリタルトキ

三 國庫内ニ於テ移換ニ依ル歲入金ノ受入ヲ爲ストキ
毎年度所屬歲出金ヲ日本銀行ニ於テ支拂フハ翌年度五月三十一日限トス

第二章 豫 算

第一節 總 豫 算

第六條 大藏大臣ハ歲入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要

求書ニ基キ歲入歳出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ニハ歲計全體ニ關スル説明ヲ附スヘシ

第七條 歲入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歲入ノ性質ヲ明ニスヘシ

第八條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第九條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節 歳入豫算明細書

第十條 大藏大臣ハ毎年度歲入ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ歳入豫算明細書ヲ調製スヘシ

歳入豫算明細書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項ノ金額ヲ各目ニ區分シ各項毎ニ増減ノ事由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

第三節 豫定經費要求書

第十一條 各省大臣ハ毎年度其ノ所管經費ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十二條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ必要ノ場合ニ於テハ更ニ之ヲ細分シ經費所要ノ理由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十三條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ附スヘシ

○大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得サル費途ノ件

●勅令第三百五號 大正十二年六月十三日

改正 昭和四年第三一〇號

左ノ名稱ノ費途ニハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

- 一 俸給
- 二 機密費
- 三 交際費
- 四 宴會費
- 五 接待費
- 六 渡切費
- 七 新營費
- 八 補助費
- 九 外國旅費(昭和四年一〇月第三一〇號ヲ以テ追加)

附 則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ
調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入
ノ方法並書類ノ様式

●大藏省令第二十號 大正十一年三月二十九日

改正 大正一三年第九號、一四年第一〇號、一五年第三八號、昭和元年第六號、
二年第四號、第二〇號、第三〇號、四年第三三號、第五號、第二三號、第
一八號、五年第一五號、六年第三四號、七年第七號

- 一 支拂豫算書 別表第一號書式ニ依ル
- 一 支拂豫算更定計算書 別表第二號書式ニ依ル
- 一 年度開始前支出計算書 別表第三號書式ニ依ル
- 一 徵收報告書 別表第四號書式ニ依ル
- 一 徵收總報告書 別表第五號書式ニ依ル
- 一 徵收簿 別表第六號書式ニ依ル
- 一 歲入簿 別表第七號書式ニ依ル
- 一 支出總額報告書 別表第八號書式ニ依ル
- 一 支出總報告書 別表第九號書式ニ依ル
- 一 繰越計算書 別表第十號書式ニ依ル

- 一 支出簿 別表第十一號書式ニ依ル
- 一 歲出簿 別表第十二號書式ニ依ル
- 一 現金領收證書 別表第十三號書式ニ依ル
- 一 現金出納簿 別表第十四號書式ニ依ル
- 一 國庫日記簿 別表第十五號書式ニ依ル
- 一 國庫原簿 別表第十六號書式ニ依ル
- 一 歲入主計簿 別表第十七號書式ニ依ル
- 一 歲出主計簿 別表第十八號書式ニ依ル
- 一 作業會計、海軍工廠資金會計、朝鮮鐵道用品資金會計
及臺灣官設鐵道用品資金會計日記簿 別表第十九號書式ニ依ル
- 一 造幣局會計日記簿 別表第二十號書式ニ依ル
- 一 帝國鐵道會計日記簿 別表第二十一號書式ニ依ル
- 一 健康保險會計日記簿 別表第二十一號ノ二書式ニ依ル
（昭和元年一月第二號ヲ以テ追加）
- 一 簡易生命保險會計日記簿 別表第二十二號書式ニ依ル
- 一 郵便年金會計日記簿 別表第二十二號ノ二書式ニ依ル
（大正一五年九月第一號ヲ以テ追加）
- 一 大藏省預金部會計日記簿 別表第二十二號ノ三書式ニ依ル
（大正一五年九月第一號ヲ以テ改正）
- 一 朝鮮簡易生命保險會計日記簿 別表第二十二號ノ四書式ニ依ル
（昭和四年五月第一號ヲ以テ追加）
- 一 一家畜再保險會計日記簿 別表第二十二號ノ五書式ニ依ル

附 則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス

- 一 勞働者災害扶助責任保險會計日記簿 別表第二十二號ノ六書式ニ依ル
（昭和四年七月第一號ヲ以テ追加）
- 一 米穀需給調節會計日記簿 別表第二十三號書式ニ依ル
- 一 製鐵所會計日記簿 別表第二十三號ノ二書式ニ依ル
（昭和二年七月第二號ヲ以テ追加）
- 一 特別會計原簿 別表第二十四號書式ニ依ル
- 一 特別會計補助簿 別表第二十五號書式ニ依ル
- 一 特別會計支拂元受高差引簿 別表第二十六號書式ニ依ル
- 一 受拂勘定表 別表第二十七號書式ニ依ル
- 一 帝國鐵道會計貸借對照表 別表第二十八號書式ニ依ル
- 一 帝國鐵道會計損益計算表 別表第二十九號書式ニ依ル
- 一 帝國鐵道會計資本增減表 別表第三十號書式ニ依ル
- 一 帝國鐵道會計固定財產價格增減表 別表第三十一號書式ニ依ル
- 一 固定資本價格增減表 別表第三十二號書式ニ依ル
- 一 健康保險、簡易生命保險、郵便年金、朝鮮簡易生命保險、
一家畜再保險又ハ勞働者災害扶助責任保險會計積立金明
細目錄 別表第三十三號書式ニ依ル
（大正一五年九月第一號、昭和元年一月第一號、
二年第六號、四年五月第五號、第一三號、
六年二月第二四號ヲ以テ改正）

第三章 會計法及會計規則

明治二十三年大藏省令第九號（作業及鐵道會計規則ニ要スル諸報告書諸表帳簿書式）
 明治二十六年大藏省令第三十二號（會計規則ニ據ル諸計算書仕拂命令領收證及諸帳簿樣式）
 明治三十年大藏省令第五號（臺灣總督府特別會計規則所
 要ノ諸報告書仕拂命令領收證及計算書等樣式）
 明治四十年大藏省令第十七號（關東廳及樺太廳特別會計
 規則ニ要スル諸書類帳簿等樣式）
 明治四十二年大藏省令第十六號（帝國鐵道會計規則ニ據
 ル諸書類帳簿等樣式）
 明治四十三年大藏省令第四十五號（朝鮮總督府特別會計
 規則ニ據ル諸書類帳簿等ノ樣式）
 明治四十五年大藏省令第九號（朝鮮醫院及濟生院特別會
 計ニ要スル諸書類帳簿等樣式）
 大正五年大藏省令第三號（造幣局特別會計規則ニ依リ同
 會計ニ要スル諸書類帳簿ノ樣式）
 大正五年大藏省令第二十一號（簡易生命保險特別會計規
 則ニ依リ同會計ニ要スル諸書類帳簿ノ樣式）
 大正十年大藏省令第十一號（大學特別會計規則並學校及
 圖書館特別會計規則ニ據リ要スル諸書類帳簿ノ樣式）
 大正十年大藏省令第十六號（米穀需給調節特別會計規則
 ニ依リ要スル諸書類帳簿ノ樣式）
 本令施行ノ際現存スル帳簿及用紙ハ當分ノ内之ヲ取繕ヒ使
 用スルコトヲ得

第一號書式 支拂豫算書

何省所管 某年度歲出(何々會計歲出)經常部(臨時部) 日本銀行何店
 支出官官氏名 支出官官氏名

款	項	金額
何	何何何	0
		0
		0
		0

年 月 日
 支拂豫算書ヲ調製スル官吏官氏名
 大藏大臣(會計検査院長) 宛
 備考
 一用紙ノ厚薄 砂引美濃紙トシ 左方ニ 約一寸ノ綴代ヲ設ク
 二本式中日本銀行何店トアルハ 銀行何店トアルハ 銀行何店トアルハ 銀行何店トアルハ 銀行何店トアルハ
 三本式ハ 第二號、第三號及第十四號書式亦同シ
 五號、第八號 乃至第十號、第十三號、第二十七號乃至第三十二號書式亦同シ

第二十二號ノ六書式 (昭和六年一月第三四號ヲ以テ追加)
 「某年度勞働者災害扶助責任保險會計日記簿」

原簿數	原簿	簿目	借	貸
	未經過保險料	未經過保險料	0	
	翌年度繰越額	翌年度繰越額	0	
	支拂備金	支拂備金	0	
	國庫	前年度繰越資金繰入	0	
	收	勞働者災害扶助責任保險收入	0	
	支	國庫	0	
	入	支拂	0	
	未	國庫	0	
	濟	保險料	0	
	出	勞働者災害扶助責任保險收入	0	
	保	國庫	0	
	險	支拂	0	
	料	國庫	0	
	上	上記收入	0	
	記	何々收入(款)	0	
	損	借入	0	
	借	借入ノ増	0	
			0	0

2 何年何月何日

原簿數	原簿	簿目	借	貸
	何々	何々	0	
	入	借入	0	
	金	借入ノ減	0	
	備	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支	備品	0	
	出	備品	0	
	未	備品	0	
	濟	備品	0	
	損	備品	0	
	出	備品	0	
	支			

第二十五號書式 「某年度何々會計補助簿」
何々(原簿科目) 何々(細科目)

年月日	摘要	借	貸	借或貸	残
何年何月何日	何々々々	0	0	借	0
備考	特別會計規則ニ依リ				
一	ル				
二	本簿ハ所管大臣ノ定				
三	本簿ノ外原簿ノ詳細				
四	宜各廳ニ於テ設クル				
	證明ニスルモノトス				
	要スル原簿ノ補助簿ハ此ノ書式ニ依				
	ル				
	細科目毎ニ口座ヲ設ク				
	要スル所ノ補助簿ハ適				

第二十六號書式 「某年度何々會計支拂元受高差引簿」

年月日	摘要	支拂元受高	支拂濟額	残
何年何月何日	前年度ヨリ越	0	0	0
	入	0	0	0
	定額戻入	0	0	0
	更正減額何々	0	0	0
	翌年度ニ越	0	0	0
	何々	0	0	0

第七章 雜則

第三十四條 本令ニ於テ作業所トハ印刷局、海軍火藥廠、海軍燃料廠、陸軍造兵廠及千住製絨所ヲ謂フ(大正一五年二月第一號ヲ以テ改正)

第三十五條 本令ニ於テ作業事務長トハ印刷局長、海軍火藥廠長、海軍燃料廠長、陸軍造兵廠長官及千住製絨所長ヲ謂フ(大正一五年二月第一號ヲ以テ改正)

第三十六條 本令ニ規定セサルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル

附則
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律

●法律第八號 昭和六年三月二十八日

各特別會計ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該會計ニ於テ俸給又ハ給料ヲ支拂シタル公務員若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給(外國人恩給)支拂ニ充ツベキ金額ヲ一般會計ニ繰入ルルコトヲ得恩給法第十七條ノ規定ニ依リ國庫ノ分擔スル金額ニ付亦同シ

附則
本法ハ昭和六年度ヨリ之ヲ施行ス

○特別會計ノ第一豫備金支出ニ關スル件

●勅令第一百十八號 明治三十年四月二十八日

特別會計ノ豫算中ニ設ケタル第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ其ノ豫算ヲ所管スル主務大臣ニ於テ會計規則(第十八條)ノ勅令ニ基キ支出ヲナシ其ノ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ニ通知シ大藏大臣ハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

○特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律ノ施行ニ關スル件

●勅令第二百三號 昭和六年七月二十八日

第一條 昭和六年法律第八號ニ依リ特別會計ヨリ一般會計ニ繰入ルル金額ハ第二條乃至第七條ノ規定ニ依リ當該特別會計ノ負擔額トシテ算定シタル金額ノ合計額トス

第二條 國庫ニ於テ恩給ヲ負擔スル場合ニ於テ其ノ基礎ト爲リタル公務員又ハ之ニ準ズベキ者ノ國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ受ケタル在職年ノ全部ニ付同一特別會計ヨリ俸給

又ハ給料ヲ受ケタルトキハ其ノ恩給金額ヲ當該特別會計ノ負擔額トス
 前項ノ場合ニ於テ恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ國庫ガ國庫以外ノ經濟ニ恩給金額ノ分擔ヲ請求シ得ルトキハ當該公務員若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給額ヨリ恩給法施行令第四條第一項乃至第三項ノ規定ニ依リ算定シタル分擔請求額ヲ控除シタル殘額ヲ當該特別會計ノ負擔額トス

第三條 國庫ニ於テ普通恩給又ハ扶助料ヲ負擔スル場合ニ於テ其ノ基礎ト爲リタル公務員又ハ之ニ準ズベキ者ノ在職年中ニ二以上ノ會計ヨリ俸給又ハ給料ヲ受ケタル在職年ヲ含ムトキハ各會計ヨリ俸給又ハ給料ヲ受ケタル夫々ノ在職年ノ年數ヲ其ノ會計ニ於テ支辨セラレタル最終ノ俸給又ハ給料ノ年額(軍人及準軍人ノ俸給又ハ給料ノ年額ハ大正十二年九月三十日以前ニ在リテハ其ノ當時其ノ官職ノ者ニ付軍人恩給法第一號表又ハ第二號表ニ依リ服役年十一年ノ者ニ給スベキ恩給金額ノ四倍ニ相當スル金額、大正十二年十月一日以後ニ在リテハ其ノ當時其ノ官職ノ者ニ付恩給法別表第一號表ニ依リ在職年十一年ノ者ニ給スベキ恩給金額ノ三倍ニ相當スル金額ニ依ル)ニ乗ジタル數ニ比例シ當該恩給ニ付各會計ノ負擔額ヲ定ム
 前條第二項並ニ恩給法施行令第四條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ恩給負擔額ノ計算ニ付之ヲ準用ス但シ恩給法施行令第四條第二項中當該恩給ノ負擔者ニ歸スベキ在職

年トアルハ第四條ノ規定ニ依リ增加恩給ノ負擔者ニ歸スベキ在職年トス
 第四條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タザル年月數ハ負擔額計算上第四條ノ規定ニ依リ增加恩給ヲ負擔スル各會計ニ於ケル當該公務員ノ在職年ニ比例シテ之ヲ分チ各會計ノ負擔ニ歸スベキ在職年ヲ定ム

第四條 國庫ニ於テ增加恩給ヲ負擔スル公務員又ハ之ニ準ズベキ者ノ在職年中ニ二以上ノ會計ヨリ俸給又ハ給料ヲ受ケタル在職年ヲ含ムトキハ當該增加恩給ハ之ヲ受ケル原因タル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル會計ノ負擔トス
 前項ノ場合ニ於テ其ノ增加恩給ガ恩給法第五十四條第一項第二號又ハ第三號ノ規定ニ依リ改定セラレタルモノニシテ其ノ改定恩給額從前ノ恩給額ヨリ多額ナルトキハ從前ノ恩給額及之ト改定恩給額トノ差額ニ分チ其ノ各金額毎ニ前項ノ規定ニ依リ負擔スベキ會計ヲ定ム但シ從前ノ恩給ヲ國庫以外ノ經濟ニ於テ負擔シタルモノナルトキハ其ノ恩給額ハ之ヲ改定スベキ原因ノ生ジタル當時ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル會計ニ於テ負擔ス
 第五條 第二條第一項ノ規定ハ外國人恩給ノ、第三條第一項ノ規定ハ一時恩給、一時扶助料及外國人恩給ノ、第四條第一項ノ規定ハ傷病賜金ノ會計別恩給負擔額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第六條 第二條第一項及第三條第一項ノ規定ハ恩給法第十六條ノ規定ニ依リ國庫以外ノ經濟ニ於テ負擔スル恩給ニ付國庫ガ恩給法第十七條第二項ノ規定ニ依リ恩給金額ヲ分擔スル場合ニ於ケル分擔額ニ付之ヲ準用ス

第七條 特別會計恩給負擔額ハ前前年度ニ於ケル支給義務額ニ依リ之ヲ算定ス但シ支給義務額ハ爾後ノ年度ニ於テ異動ヲ生ズルコトアルモノ之ヲ訂正セザルモノトス

第八條 內閣恩給局長ハ各特別會計恩給負擔額ヲ前前年度ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ各特別會計毎ニ仕譯書ニ通テ作成シ前年度七月三十一日迄ニ恩給負擔額ノ繰入ヲ爲スベキ當該特別會計ノ所管大臣ニ對シ仕譯書一通ヲ添附シタル特別會計恩給負擔額通知書ヲ發シ同時ニ仕譯書一通ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第九條 本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ其ノ收入支出ニ關スルモノニ付テハ大藏大臣、其ノ他ノ事項ニ關スルモノニ付テハ內閣總理大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和六年度ヨリ之ヲ適用ス但シ內閣恩給局長以外ノ者ノ裁定ニ係ル恩給(大正十二年九月三十日以前ニ於ケル內閣總理大臣ノ裁定ニ係ル恩給ヲ含マズ)ニ付テハ昭和八年度迄之ヲ適用セズ
 本令中增加恩給、傷病賜金及外國人恩給ニ關スル規定並ニ第八條ノ特別會計恩給負擔額通知書及仕譯書ニ關スル規定ハ昭和六年度分ニ在リテハ之ヲ適用セズ
 大正十二年九月三十日以前ニ於ケル內閣總理大臣以外ノ者

ノ裁定ニ係ル恩給ニシテ國庫ノ負擔スルモノニ付テハ之ガ裁定官廳ハ當該公務員ノ履歷書ノ謄本ヲ內閣恩給局長ニ送付スベシ

○特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律施行事務取扱細則

●大藏省令第二十七號 昭和六年七月二十八日
 第一條 特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律施行規則第八條ニ規定スル特別會計恩給負擔額通知書ハ第一號書式ニ依リ仕譯書ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第二條 特別會計ニ於テ俸給又ハ給料ヲ支辨スル公務員ニ關ル恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十條ノ規定ニ依ル收入ハ當該特別會計ノ歲入トシテ之ガ整理ヲ爲スベシ

第三條 特別會計ヨリ一般會計ニ繰入ルル恩給負擔金ハ之ヲ當該年度三月三十一日迄ニ一般會計大藏省所管歲入トシテ拂込ムベシ

附則

本令ハ昭和六年度ヨリ之ヲ適用ス

第一號書式

特別會計恩給負擔額通知書

一金

右昭和何年度分貴省所管何特別會計恩給負擔額ニ有之候
條別紙仕譯書添附及通知候也

年 月 日

内閣恩給局長

所管大臣宛

第二號書式

何特別會計 恩給負擔額計	何年度分恩給負擔額仕譯書				備考
	件 數		金 額		
	件 數	金 額	件 數	金 額	
區 分	國庫負擔恩給ノ分	國庫以外負擔恩給ノ分	外庫負擔恩給ノ分	總分	
年 文	件 數	金 額	件 數	金 額	
官給料					
普通恩給					
增加恩給					
扶助恩給					
軍人給料					
普通恩給					
增加恩給					
扶助恩給					
教員給料					
普通恩給					
增加恩給					
扶助恩給					
警察監獄員給料					
普通恩給					
增加恩給					
扶助恩給					
待遇恩給					
普通恩給					
增加恩給					
扶助恩給					
一時金					
（年金ニ準ジ區分スルモノトス）					
外國人恩給計					
外 合					

○特別會計ニ於ケル營業費ニ關スル法律

●法律第九號 昭和六年三月二十八日

特別會計所屬ノ營業ニ要スル經費ハ當該特別會計法ノ規定ニ拘ラズ之ヲ一般會計ノ所屬ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ一般會計ノ所屬ト爲シタル經費ニ充用スル爲必要ナル金額ハ當該特別會計ヨリ之ヲ一般會計ニ繰入ルルモノトス

前項ノ規定ニ依リ各特別會計ノ一般會計ニ繰入ルベキ金額ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

附 則

本法ハ昭和六年度ヨリ之ヲ施行ス

○勞働者災害扶助責任保險特別會計法

●法律第五十六號 昭和六年四月二日

第一條 勞働者災害扶助責任保險法ニ依ル勞働者災害扶助責任保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歳入ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ保險料、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ保險金、保險料ノ返還金、保險施設費、借入金ノ償還金及其ノ利子、一時借入金ノ利子、事業取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

第三條 本會計ニ於テ決算上剩餘金ヲ生ズルトキハ之ヲ積立ツベシ

第四條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ借入ヲ爲スコトヲ得ル金額ハ純保險料ヲ以テ保險金及保險料ノ返還金ヲ支辨スルニ不足スル金額ヲ限度トス

第五條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルコトヲ得

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

第二章 會計法及會計規則

ベシ

第七條 本會計ノ積立金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第八條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第九條 本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル事業費ノ支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

附 則

本法ハ昭和六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

一般會計ハ昭和六年度ニ限り其ノ豫算ノ定ムル金額ヲ本會計ニ繰入ルルコトヲ得

○勞働者災害扶助責任保險特別會計規則

●勅令第二百三十二號 昭和六年八月三十一日

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

前項ノ豫定計算書ニハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ貸借對照表及損益計算表並ニ其ノ年三月三十一日現在ノ積立金明細目録ヲ添付スベシ

第二條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣社會局長官ニ命ジテ之ヲ執行セシムベシ但シ他ノ官吏ニ命ジテ其ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第三條 本會計ニ於テハ當該年度ノ收入濟歳入額及勞働者災害扶助責任保險特別會計法第六條ニ規定スル一時借入

金ヲ以テ支拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ズ

第四條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足ヲ生ジタルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ労働者災害扶助責任保險特別會計法第六條ニ規定スル一時借入金ニ代ヘ積立金ニ屬スル現金ヲ前條ノ支拂元受高ニ繰替使用スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第五條 保險料收入ノ年度所屬ハ其ノ保險料ヲ納付スベキ日ノ屬スル年度ニ依ル

第六條 毎年度内ニ收入ヲ爲スベキ權利ヲ得テ毎年度出納ノ完結迄ニ收入済ト爲ラザルモノハ收入未済トシテ遞次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲ爲シタル年度ノ歳入ニ組入ルベシ

第七條 毎年度内ニ支拂ヲ爲スベキ義務ヲ生ジ毎年度出納ノ完結迄ニ支出済ト爲ラザル歳出ニシテ時効完成ニ至ラザルモノハ支出未済トシテ遞次翌年度ニ繰越スベシ但シ支出済額ト合シテ豫算額ヲ超過スルコトヲ得ズ

第八條 毎年度ノ歳入ノ收入済額ヨリ歳出ノ支出済額、翌年度繰越額、未經過保險料及支拂備金ニ相當スル金額ヲ控除シ殘餘アルトキハ之ヲ積立金ニ組入レ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ

前項ニ規定スル未經過保險料及支拂備金ノ計算ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第九條 歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ社會局長官ニ送付スベシ

第十條 社會局長官ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中

ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十一條 支出官ハ毎月支出済額報告書ヲ調製シ之ヲ社會局長官ニ送付スベシ

第十二條 社會局長官ハ支出済額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出済額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十三條 歳入徴收官又ハ支出官一人ナル場合ニ於テハ徴收報告書又ハ支出済額報告書ヲ以テ徴收總報告書又ハ支出總報告書ニ充ツルコトヲ得

第十四條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十五條 社會局ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ労働者災害扶助責任保險ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スベシ

第十六條 貸借對照表及損益計算表ノ様式ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十七條 社會局ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、測定済額、收入済額、不納缺損額及收入未済額ヲ登記スベシ

第十八條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出済額及殘額ヲ登記スベシ

第十九條 社會局ハ歳出簿及支拂元受高差引簿ヲ備ヘ歳出簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出済額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記シ支拂元受高差引簿ニハ支拂元受高、支出済額及殘額ヲ登記スベシ但シ支出官一人ナル場合ニ於テハ支拂元受高差引簿ヲ省略スルコトヲ得

第二十條 本令ニ規定セザルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス

第四款 大藏省所管

○造幣局特別會計法

●法律第九號 大正四年六月二十一日

改正 昭和四年第二四號

第一條 造幣局ノ事業ヲ經營スル爲固定資本、据置運轉資本及資金ヲ置キ作業上ノ收入、附屬雜收入及資金ニ屬スル收入ヲ以テ歳入ト爲シ作業ノ費用及資金ニ屬スル支出ヲ以テ歳出ト爲シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 造幣局ニ於テ從來使用シ及將來増加スル所ノ土地、建物、築造、機械、重要ナル器具及標本ヲ以テ固定資本トシ從來ノ据置運轉資本ヲ以テ据置運轉資本トス

資金ハ大正四年度末現在ノ貨幣整理資金特別會計所屬ノ資金ヲ以テ之ニ充テ舊貨幣及流通不便貨幣ノ交換及處分ニ關スル用途ニ使用ス

貨幣製造ノ準備トシテ必要ナル材料地金ハ資金ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得(昭和四年三月第二四號ヲ以テ追加)

第二條ノ二 製造済ノ補助貨ニシテ年度内ニ發行ニ至ラサルモノハ資金ニ受入レ之ヲ保有スルコトヲ得(昭和四年三月第二四號ヲ以テ追加)

第三條 固定資本ノ維持、修理及補充ハ作業上ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條 本會計ニ於ケル作業上ノ歳出額ハ其ノ實際ノ歳入

及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルコトヲ許サス

第五條 資金ニ屬スル收入支出ハ別途ノ歳入歳出トシテ之ヲ整理スヘシ

第六條 作業上益金ヲ生ジタルトキハ之ヲ資金ニ編入シ損失ヲ生ジタルトキハ之ヲ資金ヨリ補填スヘシ(昭和四年三月第二四號ヲ以テ改正)

第七條 資金ノ收入支出ノ決算上過剩ヲ生ジタルトキハ之ヲ該資金ニ編入スヘシ

第八條 固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ之ヲ一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第九條 政府ハ毎年本特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ大正五年度ヨリ之ヲ施行ス

附則(昭和四年三月二十九日法律第二十四號)

本法ハ昭和五年度ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年法律第一號ニ依リ清國事件費支辨ノ爲繰替使用シタル造幣局資金二百二十八萬七百九十七圓五十七錢五厘及大正五年法律第四號ニ依リ大正三年臨時事件費支辨ノ爲繰替使用シタル造幣局資金三百五十萬圓ニ付テハ之ニ相當スル金額ヲ造幣局資金ヨリ減額シテ整理スルコトヲ得

○造幣局特別會計規則

勅令第七十五號 大正五年三月三十一日

改正 大正二年第三六號、一五年第二六四號、昭和五年第三三號

- 第一條 左ノ諸收入ヲ以テ作業上ノ歳入トス
 - 第一 作業上ノ收入
 - 第二 附屬雜收入
- 第二條 左ノ諸費ヲ以テ作業上ノ歳出トス
 - 第一 事務員技術員ノ俸給諸給旅費
 - 第二 事務所費
 - 第三 職工人夫ニ給スル諸費
 - 第四 作業用器具機械及標本ノ維持修理及補充費
 - 第五 材料素品購入代
 - 第六 動力費
 - 第七 作業場用備品消耗品費
 - 第八 建物及築造ノ維持修理及補充費
 - 第九 (削除)
- 第三條 左ノ諸收入ヲ以テ資金ニ屬スル歳入トス
 - 第一 地金賣拂代
 - 第二 既往年度製造濟補助貨發行代リ金(昭和五年二月第三三號ヲ以テ追加)
 - 第三 附屬雜收入

- 第四條 左ノ諸費ヲ以テ資金ニ屬スル歳出トス
 - 第一 舊貨幣及流通不便貨幣ノ交換金並舊貨幣ノ交換ニ關スル諸費(大正一五年七月第二六四號ヲ以テ改正)
 - 第二 舊貨幣及流通不便貨幣ノ處分ニ關スル諸費
 - 第三 地金購入代(昭和五年二月第三三號ヲ以テ追加)
 - 第四 當該年度製造濟未發行補助貨受入代リ金(昭和五年二月第三三號ヲ以テ追加)
 - 前項第四號ノ代リ金ハ原價ニ依ルヘシ(昭和五年二月第三三號ヲ以テ追加)
 - 第五條 造幣局ハ据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高及當該年度作業上ノ收入濟歳入額ヲ以テ支拂元受高トシ作業上ノ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス
 - 第六條 所管大臣ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ補助貨鑄造ノ材料素品購入代ニ相當スル金額ヲ限リ資金ニ屬スル現金ヲ前條ノ支拂元受高ニ繰替使用スルコトヲ得
 - 前項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額ハ當該年度内ニ之ヲ返還スヘシ
 - 第六條ノ二 毎年度ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出スハ當該年度三月三十一日限トス但シ資金ニ屬スル歳出ニシテ國庫内ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金補填ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度四月三十日迄小切手ヲ振出スコトヲ得
 - 第七條 受拂勘定ハ作業上ノ歳入ノ收入濟額、收入未濟額、

○造幣局据置運轉資本増加及設備擴張費ニ關スル法律

法律第九號 大正八年三月二十五日

改正 大正九年第三號

大正八年度ニ於テ造幣局据置運轉資本ニ百五十萬圓ヲ増加ス(參照總額四百萬圓トス)

前項資本ノ増加及大正八年度乃至大正十一年度ニ互リ造幣局ノ設備擴張ニ要スル經費ニ充用スル爲造幣局資金ノ内三百四十五萬二千二百二十九圓ヲ限リ一般會計ニ繰入ルルコトヲ得

○造幣局資金拂出ニ關スル法律

法律第十二號 昭和七年六月十八日

政府ハ造幣局資金トシテ保有スル銀地金ノ内五萬貫ヲ限リ當該資金ヨリ之ヲ拂出スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ拂出シタル銀地金ハ支那在留邦人ノ事業復興資金トシテ貸付クルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ拂出シタル銀地金ハ拂出シノ日ヨリ五年以内ニ一般會計ノ負擔ニ於テ之ヲ補填スベシ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ大正五年度ヨリ之ヲ施行ス

附則

第九條 本令ニ規定セサル事項ニ關シテハ作業會計規則ヲ準用ス

第八條 資金ノ受拂勘定ハ資金ニ屬スル歳入ノ收入濟額、收入未濟額、資金ニ屬スル現金ノ持越高、繰替金返還受入額、作業益金受入額、未發行補助貨ノ價格、總地金ノ價格ヲ以テ受入トシ資金ニ屬スル歳出ノ支出濟額、支出未濟額、資金額、繰替金拂出額、賣拂代價收入濟地金ノ價格、賣拂代價收入未濟既出地金ノ價格、未發行補助貨ノ發行拂出額、作業損金補填額ヲ以テ拂出トシ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ過剩アルトキハ之ヲ資金ニ編入シ不足アルトキハ之ヲ作業ノ損金トシテ資金ヨリ補填スヘシ(昭和五年二月第三三號ヲ以テ改正)

据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高、繰替金受入額、總生產品ノ價格、總材料及素品ノ價格、總機械運轉用品ノ價格、作業場用總備品ノ價格、代價支出濟未收物品ノ價格ヲ以テ受入トシ作業上ノ歳出ノ支出濟額、支出未濟額、据置運轉資本額、繰替金返還額、賣拂代價收入濟物品ノ價格、賣拂代價收入未濟既出物品ノ價格、消費シタル材料及素品ノ價格、消費シタル機械運轉用品ノ價格、損失ニ歸シタル物品ノ價格ヲ以テ拂出トシ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ殘餘アルトキハ之ヲ作業ノ益金トシテ資金ニ編入シ不足アルトキハ之ヲ作業ノ損金トシテ資金ヨリ補填スヘシ(昭和五年二月第三三號ヲ以テ改正)

○專賣局作業會計規則

勅令第二十號 明治三十三年二月二日

改正 明治三十三年第一二〇號、三十四年第一二八號、三十五年第二〇三號、三十七年第一六二號、三十八年第二九號、三十九年第三七號、第三〇三號、四一年第五四號、大正四年第四七號、一二年第三五號

- 第一條 歲入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ各省豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第二條 所管大臣ハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表及固定資本價格増減表ヲ調製シ歳入歳出ノ豫定計算書ニ添付スヘシ
- 第三條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣之ヲ專賣局長官及他ノ官吏ニ命シテ執行セシムヘシ
- 第四條 (削除)
- 第五條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第六條 支出官ハ煙草又ハ鹽ノ賠償及購買費、鹽ノ交付金、樟腦又ハ樟腦油ノ補償金、荷造費、職工人夫ニ給スル諸費、外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費並支所ノ經費ニ限り所屬ノ出納官吏ニ資金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 毎年度ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出スハ當該年度三月三十一日限トス但シ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金補填ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度四月三十日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

○國債整理基金特別會計法

法律第六號 明治三十九年三月二日

改正 大正四年第一四號、八年第一四號、九年第三八號、一三年第八號、昭和二年第四號

- 第一條 國債整理基金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス
- 國債整理基金ハ國債ノ償還發行ニ關スル費途ニ使用スルモノトス
- 第二條 國債整理基金ニ充ツヘキ資金ハ毎年度一般會計又ハ特別會計ヨリ之ヲ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ
- 前項繰入額ノ中國債ノ元金償還ニ充ツヘキ金額ハ前年度首ニ於ケル國債總額ノ萬分ノ百十六以上トシ三千萬圓ヲ下ルコトヲ得サルモノトス
- 前項ノ規定ノ適用ニ付テハ大藏省證券、借入金 臨時國庫證券及米穀證券ハ之ヲ國債ト看做サス
- 第二條ノ二 國債ノ元金償還ニ充ツル爲前條ノ繰入額ノ外毎年度其ノ前前年度ニ於テ一般會計ノ歲計上新ニ生シタル剩餘金ノ四分ノ一ヲ下ラサル金額ヲ一般會計ヨリ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ(昭和二年三月第一號ヲ以テ追加)
- 前項ノ剩餘金ノ計算ニ付テハ之ヲ生シタル年度ヨリ翌年度ニ繰越シタル歳出豫算ノ財源ニ充ツヘキ額ヲ算入セサルモノトス(昭和二年三月第一號ヲ以テ追加)
- 第三條 國債借換ニ依ル募集金其ノ他ノ收入金ハ直接ニ之

第三章 會計法及會計規則

出ニ付テハ翌年度四月三十日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

- 第八條 毎年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ當該年度三月三十一日限トス
- 第八條ノ二 煙草、鹽、樟腦及樟腦油ノ賣拂代金ハ其ノ納入告知書ニ指定シタル納期末日ノ屬スル年度ノ歳入トス
- 第九條 毎年度内ニ歳入ヲ爲スヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入済トナラサルモノハ收入未済トシテ順次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ
- 第十條 毎年度内ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ小切手ヲ振出ササルモノハ支出未済トシテ遞次翌年度ニ繰越シ時効完成ニ至ル迄ハ支拂ノ請求アル毎ニ小切手ヲ振出スヘシ但シ支出未済ノ繰越額ハ支出済額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第十一條 (削除)
- 第十二條 (削除)
- 第十三條 (削除)
- 第十四條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニヨリ毎月徵收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ專賣局ニ送付スヘシ
- 專賣局ハ作業全部ノ毎月徵收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第十五條 支出官ハ毎月支出済額報告書ヲ調製シ之ヲ專賣

ヲ國債整理基金特別會計ニ編入スヘシ

- 第四條 國債整理基金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得(昭和二年三月第一號ヲ以テ改正)
 - 前項ノ運用ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム
 - 第五條 政府ハ國債ノ整理又ハ償還ノ爲必要ナル額ヲ限度トシ起債スルコトヲ得
 - 第六條 政府ハ計算上利益アリト認ムルトキハ額面以上ニテモ買入銷却ヲ爲スコトヲ得
 - 第七條 國債整理基金ノ運用ヨリ生スル損益ハ本特別會計ノ所屬トシテ整理スルモノトス
 - 第八條 國債整理基金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ翌年度ニ繰越スヘシ
 - 國債整理基金特別會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次繰越使用スルコトヲ得
 - 第九條 政府ハ毎年度國債整理基金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
- 附則
- 第十條 本法ハ明治三十九年度ヨリ之ヲ施行ス
 - 第十一條 本法施行前一般會計ニ收入シタル借換國債ノ募集金ニシテ本法施行ノ日ニ於ケル現在額ハ之ヲ本特別會計ニ繰入ルヘシ
 - 明治三十八年度一般會計ニ於テ前項借換國債ノ募集金ヲ以テスル國債償還ノ歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ本

特別會計ニ繰越スヘシ
第十二條 償金特別會計法ハ明治三十八年度限り之ヲ廢止ス

償金特別會計ニ屬スル現金 有價證券及他ノ會計トノ計算ハ國債整理基金特別會計ニ歸屬スルモノトス

附則 (大正九年八月五日法律第三十八號)

大正五年法律第三十四號(外國債ノ整理償還ノ爲内國債ヲ發行スルコトニ關スル件)ハ之ヲ廢止ス
本法施行前國債整理基金特別會計法ニ依リ發行シタル國債ノ元金ノ消滅時効ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○昭和六年度ニ於ケル國債償還資金ノ繰入一部停止ニ關スル件

(參照 本令ハ憲法第八條第一項ニ依リタルモノニシテ昭和七年三月帝國議會承認ヲ蒙リ)

勅令第七號 昭和七年一月三十一日

昭和六年度ニ於テ國債整理基金特別會計法第二條ノ規定ニ依リ繰入ルベキ元金償還資金ハ四千四百萬圓ヲ限り之ガ繰入ヲ爲サザルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和七年度以降國債償還資金ノ繰入一部停止ニ關スル法律

●法律第八號 昭和七年六月十八日

昭和七年度以降當分ノ内國債整理基金特別會計法第二條ノ規定ニ依リ繰入ルベキ元金償還資金ハ前年度首ニ於ケル國債總額ノ萬分ノ百十六ニ相當スル金額ノ三分ノ一以上トシ同法第二條ノ二ノ規定ニ依ル元金償還資金ノ繰入ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ國債償還資金ノ繰入一部停止ヲ爲シタル年度ニ於テハ震災手形善後處理法第八條但書ノ規定ニ依リ繰入ヲ要セザル金額ハ同法ニ依リ發行シタル公債ノ前年度首ニ於ケル未償還額ノ萬分ノ百十六ニ相當スル金額ノ三分ノ一トス

附則

本法ハ昭和七年度ヨリ之ヲ施行ス

○公債金特別會計法

●法律第十五號 大正八年三月二十五日

改正 大正九年第九號

第一條 各種ノ經費ノ支辨ニ充ツヘキ公債金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第二條 公債金ヲ使用セムトスルトキハ之ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ屬スル會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第三條 公債金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第四條 本會計ハ公債ノ發行ニ依ル收入金、運用利殖金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ第二條及第六條ノ規定ニ依リ繰入金ヲ以テ其ノ歳出トス

第五條 公債金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ

本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第六條 公債金ハ之ヲ以テ支辨スヘキ經費毎ニ區分整理シ其ノ經費ヲ要セサルニ至リタル後剩餘アルトキハ之ヲ其ノ經費ノ屬シタル會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第七條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條 本法ハ大正五年法律第四號ニ依リ發行スル公債ノ收入金ニ關シテハ之ヲ適用セス

附則

本法ハ大正八年度ヨリ之ヲ施行ス
事業公債及鐵道公債特別會計法(明治三十二年二月八日法律第十三號)、朝鮮事業公債金特別會計法(明治四十四年三月二十三日法律第十九號)ハ之ヲ廢止ス
本法施行ノ際前項ノ各特別會計ニ屬スル公債金ハ之ヲ本會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

○賠償金特別會計法廢止法律

●法律第七號 昭和六年三月二十八日

賠償金特別會計法ハ昭和五年度限り之ヲ廢止ス
賠償金特別會計ニ屬スル資金及權利義務ハ之ヲ一般會計ニ歸屬セシム

昭和五年度賠償金特別會計ノ歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ一般會計ニ繰越シ使用スルコトヲ得

○國有財産整理資金特別會計法

●法律第六號 大正十一年三月二十八日

- 第一條 國有財産整理資金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス
- 第二條 國有財産整理資金ハ國有財産ノ整理處分ニ因ル收入及附屬雜收入ヲ以テ之ニ充ツ但シ其ノ收入ニシテ他ノ特別會計ノ歳入ニ屬スルモノ及國有林野又ハ北海道國有未開地ノ處分ニ因ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 國有財産整理資金ハ國有財産ノ整理ニ關シ必要ナル事務費、營繕費其ノ他ノ諸費ニ之ヲ使用ス

政府支出金ニ關スル法律ハ之ヲ廢止ス
 本法施行ノ際ニ於ケル各帝國大學ノ資金及大正十三年度各帝國大學特別會計ノ歳入殘餘ハ之ヲ帝國大學資金ニ編入スヘシ

本法施行ノ際ニ於ケル學校及圖書館資金ニシテ京都帝國大學及東北帝國大學ノ用ニ供スルモノハ之ヲ帝國大學資金ニ編入シ各之ヲ當該大學ノ資金トシテ區分整理スヘシ
 大正十三年度各帝國大學特別會計歳入歳出豫算中翌年度ニ繰越ヲ要スルモノハ之ヲ帝國大學特別會計ニ繰越使用スヘシ

○大學特別會計規則

●勅令第八十一號 大正十年四月十二日

改正 大正十一年第四一號、二年第一六五號、一四年第一二七號、昭和七年第九號

第一章 資金

- 第一條 資金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ之ヲ特別資金トシ其ノ他ノモノハ之ヲ維持資金トス
- 特別資金ヨリ生スル利子其ノ他ノ收入ハ特定ノ用途ニ充テ其ノ殘餘ハ該資金ノ増殖ニ充ツルモノトス
- 維持資金ヨリ生スル利子其ノ他ノ收入ハ帝國大學ニ在リテハ當該大學ノ經費ニ、官立大學ニ在リテハ官立大學一

般ノ經費ニ充ツルモノトス但シ大學特別會計法第三條但書其ノ他特別ノ規定ニ依リ區分整理スル資金ヨリ生スル收入ハ當該大學ノ經費ニ充ツルモノトス

- 第二條 資金ハ所管大臣之ヲ管理スヘシ
- 第三條 資金ニ屬スル現金ハ總テ大藏省預金部ニ預入ルヘシ
- 第四條 資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産、公債證書其ノ他ノ證券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル不動産、公債證書其ノ他ノ證券ヲ離權シ若ハ他ノ不動産、公債證書其ノ他ノ證券ニ換ヘムトスルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ但シ密附ニ係ル不動産ハ密附者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ離權スルコトヲ得ス
- 第五條 資金ニ屬スル現金ノ會計ハ別途ノ歳入歳出トシテ之ヲ整理スヘシ
- 第六條 資金ニ屬スル現金ノ受入及拂出ニ關スル取扱方ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ
- 第二章 豫算決算
- 第七條 歳入歳出豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第八條 所管大臣ハ其ノ年三月三十一日現在ノ資金明細目錄ヲ調製シ毎年度ノ豫算ニ添付スヘシ
- 第九條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第三章 收入支出

第十條 所管大臣ハ學部長、醫學部附屬醫院長、傳染病研究所長又ハ航空研究所長ヲシテ歳入歳出豫算ノ一部ヲ施行セシムルコトヲ得

第十一條 官立大學ニ於ケル恩給負擔金及營業費ニ屬スル豫算ハ文部大臣官房會計課長ヲシテ之ヲ施行セシムルコトヲ得(昭和七年二月第九號ヲ以テ改正)

第十二條 大學ニ於テハ當該年度ノ收入濟歳入額ヲ以テ支拂元受高ト爲シ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 (削除)

第十四條 (削除)

第十五條 (削除)

第十六條 (削除)

第十七條 大學ニ於テ在外國人、藝術家又ハ學術研究旅行者ニ物品ノ購買、採集又ハ實驗ヲ委託スル場合ニ於テハ其ノ委託ヲ受ケタル者ヲ受取人トシ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第十八條 (削除)

第十九條 (削除)

第二十條 帝國大學ノ歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ帝國大學總長ニ送付スヘシ

第二十一條 帝國大學總長ハ徴收報告書ニ依リ毎月當該大學ノ徴收集計報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ

所管大臣ハ徴收集計報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調

製シ参照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十條ノ三 帝國大學ノ支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ帝國大學總長ニ送付スヘシ

第二十條ノ四 帝國大學總長ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月當該大學ノ支出濟額集計報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ

所管大臣ハ支出濟額集計報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十條ノ五 帝國大學ニ於テ歳入徴收官又ハ支出官一人ナル場合ニ於テハ徴收報告書又ハ支出濟額報告書ヲ以テ當該大學ノ徴收集計報告書又ハ支出濟額集計報告書ニ充ツルコトヲ得

第四章 年度繰越

第二十一條 毎年度内ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ翌年度四月三十日迄ニ小切手ヲ振出ササルモノハ支出未済トシテ遞次翌年度ニ繰越シ時効完成ニ至ル迄ハ支拂ノ請求アル毎ニ小切手ヲ振出スヘシ但シ支出未済ノ繰越額ハ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十二條 工事、製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニ關スル經費ニシテ毎年度内ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生セス小切手ヲ振出スニ至ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第二十三條 所管大臣ハ前條ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲サムトスルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ作り参照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

第二十四條 大藏大臣ハ前條ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十五條 特ニ用途ヲ指定シタル寄附金ニシテ毎年度内ニ小切手ヲ振出スニ至ラサリシ繰越額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スヘシ但シ支出濟額ニシテ爾後支拂ヲ要セサルモノハ寄附者ノ同意ヲ得テ之ヲ資金ト爲スコトヲ得

第二十六條 第二十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ繰越シタル支出未済ノ金額ニシテ會計法第三十二條ノ規定ニ依リ支拂義務消滅シタルモノ及會計規則第五十四條ノ規定ニ依リ歳入ニ組入ルヘキモノハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第二十七條 毎年度ノ歳入中支出濟額及繰越額ヲ控除シタル繰越ハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第五章 雜則

第二十八條 (削除)
第二十九條 帝國大學ハ歳入支簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未済額ヲ登記スヘシ
第三十條 文部省ハ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未済額ヲ登記スヘシ
第三十一條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ

第三十二條 帝國大學ハ歳出支簿及支拂元受高差引簿ヲ備ヘ歳出支簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記シ支拂元受高差引簿ニハ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ但シ支出官一人ナル場合ニ於テハ支拂元受高差引簿ヲ省略スルコトヲ得

第三十三條 文部省ハ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ニ付歳出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ
第三十四條 本令ニ規定セサルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス
帝國大學特別會計規則(明治四十三年三月二十五日勅令第五十三號)ハ之ヲ廢止ス但シ大正九年度分ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

○學校及圖書館特別會計法
●法律第二十三號 明治四十年三月二十七日
改正 昭和四年第四號
第一條 文部省直轄諸學校及帝國圖書館ハ之ヲ通シテ一ノ特別會計ヲ立テシメ資金ヲ所有シ政府ノ支出金、資金ヨリ生スル收入、授業料、寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ歳

出ニ充テシム

第二條 前條ノ政府支出金ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ之ヲ繰入ルヘシ

第三條 學校及圖書館資金ハ政府ヨリ交付シ又ハ他ヨリ寄附シタル動産及不動産並歳入殘餘ヨリ成ル但シ第八條施行豫算ノ歳入殘餘ニシテ資金ニ編入セラレタルモノハ學校及圖書館毎ニ區分シ之ヲ整理スヘシ

第四條 資金ハ之ヲ支消スルコトヲ得ス但シ用途ヲ指定シタル資金ハ用途指定者ノ同意ヲ得テ元金ヲ使用スルコトヲ得

第五條 學校及圖書館ニ屬スル收入ヲ以テ其ノ歳出ヲ支辨シ別ニ政府支出金ヲ要セサルニ至リタルトキハ當該學校及圖書館ノ爲ニ特別會計ヲ設クルモノトス

第六條 教員事務員ノ俸給、諸給、旅費、器具機械圖書標本費、授業費、試験費、生徒ニ關スル諸費、事務所費、修繕費、雜支出其ノ他寄附者ノ指定シタル費途ヲ以テ學校及圖書館特別會計ノ歳出トス

第七條 政府ハ毎年學校及圖書館特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條 文部大臣ハ歳入歳出豫算決定ノ後學校及圖書館毎ニ歳入歳出ノ施行豫算ヲ調製シ學校長及圖書館長ヲシテ之ヲ施行セシムヘシ

文部大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項以外ノ者ヲシテ歳

入歳出豫算ノ一部ヲ施行セシムルコトヲ得(昭和四年二月第四號ヲ以テ追加)

第九條 學校及圖書館ニ於テ外國ヨリ直接ニ圖書、機械、標本及實驗用材料ノ買入ヲ爲ス場合ニハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第十條 寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其ノ條件ニ從ヒ之ヲ使用スヘシ

第十一條 總理ヲ委任スルコトヲ得

第十二條 委任總理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査院法第十條ニ依ル

第十三條 學校及圖書館特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

官立學校及圖書館會計法(明治二十三年三月二十八日法律第二十六號)ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際各學校及圖書館ニ於テ從來資金トシテ所有スル動産不動産ハ總テ學校及圖書館資金ニ之ヲ編入スヘシ但シ收入ノ目的ヲ以テ所有シタル資金ハ第三條但書ニ依ル

○學校及圖書館特別會計規則

勅令第六十號 明治四十年三月二十七日

改正 大正一年第四二號、二年第一六六號、昭和四年第三四號、七年第一〇號

第一章 資金

第一條 資金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ之ヲ特別資金トシ其ノ他ノモノハ之ヲ維持資金トス

特別資金ヨリ生スル利子其ノ他ノ收入ハ特定ノ用途ニ充テ其ノ殘餘ハ該資金ノ増殖ニ充ツルモノトス

維持資金ヨリ生スル利子其ノ他ノ收入ハ學校圖書館一般ノ經費ニ充ツルモノトス但シ學校及圖書館特別會計法第三條但書其ノ他特別ノ規定ニ依リ整理スル資金ヨリ生スル收入ハ各當該學校及圖書館ノ經費ニ充ツルモノトス

第二條 資金ハ所管大臣之ヲ管理スヘシ

第三條 資金ニ屬スル現金ハ總テ大藏省預金部ニ寄託スヘシ

第四條 資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産、公債證書其ノ他ノ證券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル不動産、公債證書其ノ他ノ證券ヲ離權シ又ハ他ノ不動産、公債證書其ノ他ノ證券ニ換ヘムトスルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ但シ寄附ニ係ル不動産ハ寄附者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ離權スルコトヲ得ス

第五條 資金ニ屬スル現金ノ會計ハ別途ノ歳入歳出トシテ之ヲ整理スヘシ

第六條 資金ニ屬スル現金ノ受入及拂出ニ關スル取扱方ハ所管大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二章 豫算決算

第七條 歳入歳出豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度

九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第八條 所管大臣ハ其ノ年三月三十一日現在ノ資金明細目錄ヲ調製シ毎年度ノ豫算ニ添附スヘシ

第九條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三章 收入支出

第十條 所管大臣ハ文部大臣官房會計課長ヲシテ印刷及用紙ニ關スル歳入歳出豫算ノ一部並ニ恩給負擔金ニ屬スル豫算ヲ施行セシムルコトヲ得(昭和四年四月第三四號、七年二月第一〇號ヲ以テ改正)

第十一條 學校及圖書館ニ於テハ當該年度ノ收入歳入額ヲ以テ支拂元受高ト爲シ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十二條 (削除)

第十三條 (削除)

第十四條 (削除)

第十五條 學校及圖書館ニ於テ在外國人、藝術家又ハ學術研究者ニ物品ヲ購買採集又ハ實驗ヲ委託スル場合ニ於テハ其ノ委託ヲ受ケタル者ヲ受取人トシ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第四章 年度繰越

第十六條 毎年度内ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ翌年度四月三十日迄ニ小切手ヲ振出ササルモノハ支出未済トシテ遞次翌年度ニ繰越シ時効完成ニ至ル迄ハ支拂ノ請求アル毎ニ小切手ヲ振出スヘシ但シ支出未済ノ繰越額ハ支出済

額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルコトヲ得ス
第十七條 工事、製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニ關スル經費ニシテ毎年度内ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生セス小切手ヲ振出スニ至ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第十八條 所管大臣ハ前條ニ依リ繰越ヲ爲サムトスルキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ作り参照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

第十九條 大藏大臣ハ前條繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十條 特ニ用途ヲ指定シタル寄附金ニシテ毎年度内ニ小切手ヲ振出スニ至ラサリシ殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スヘシ但シ支出殘額ニシテ爾後支拂ヲ要セサルモノハ寄附者ノ同意ヲ得テ之ヲ資金ト爲スコトヲ得

第二十一條 第十六條又ハ前條ノ規定ニ依リ繰越シタル支出未済ノ金額ニシテ會計法第三十二條ノ規定ニ依リ支拂義務消滅シタルモノ及會計規則第五十四條ノ規定ニ依リ歳入ニ組入ルヘキモノハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第二十二條 毎年度ノ歳入中支出済額及繰越額ヲ控除シタル殘餘ハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第五章 雜 則

第二十三條 (削除)

第二十四條 (削除)

第二十五條 文部省ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定済

額、收入済額、不納缺損額、收入未済額ヲ登記スヘシ
第二十六條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出済額及殘額ヲ登記スヘシ

附 則

本令ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

第八款 農林省所管

米穀需給調節特別會計法

法律第三十七號 大正十年四月四日

改正 大正一四年第三三號、昭和四年第三〇號、六年第三三號

第一條 米穀ノ數量又ハ市價ノ調節ノ爲ニスル米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲ニ必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

(第二項昭和六年三月第三一號ヲ以テ削除)

第三條 米穀ノ買入代價ハ外國ヨリ直接ニ買入ルル場合ヲ

第十二款 拓務省所管

朝鮮總督府特別會計ニ關スル件

(參照 本令ハ憲法第八條及第七十條ニ依リタルモ)

(ノニシテ明治四十四年三月帝國議會承認済)

●勅令第四百六號 明治四十三年九月三十日

第一條 朝鮮總督府ノ會計ハ特別トシ其ノ歳入及一般會計ノ補充金ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 前條ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 政府ハ毎年朝鮮總督府特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

附 則

第四條 本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 鐵道、森林、(平壤鑛業所)及公債金ノ特別會計並通信ノ會計ニ付テハ明治四十三年度分限リ仍從前ノ例ニ依ル

第六條 舊韓國政府ニ屬シタル債權及債務ニシテ本令施行ノ際現存スルモノハ本會計ニ移屬ス

第七條 明治四十三年勅令第三百二十六號ニ依ル豫算ニ關スル會計年度ハ明治四十三年九月三十日ヲ以テ終結ス前項ノ豫算ニ計上シタル一時借入金ハ本會計ノ負擔ニ於

テ之ヲ爲スコトヲ得

第八條 前條ノ歳入歳出並(統監府)及其ノ所屬官署ニ係ル歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ明治四十三年十二月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

第九條 第七條ノ經費並(統監府)及其ノ所屬官署ノ經費ノ支辨ニ屬スル工事又ハ製造ニシテ明治四十三年九月三十日迄ニ經費ノ支出ヲ終ラサルモノハ其ノ支出未済ノ豫算額ヲ本會計ニ移シ之ヲ使用スルコトヲ得

第十條 前條ノ經費支辨ノ諸費ニシテ既ニ契約ヲ爲シ又ハ仕拂義務ヲ生シ明治四十三年九月三十日迄ニ支出ヲ終ラサルモノハ其ノ支出未済ノ豫算額ヲ本會計ニ移シ使用スルモノトス

第十一條 第七條ノ會計ノ過不足ハ之ヲ本會計ニ移シ整理ス

朝鮮總督府特別會計規則

●勅令第四百七號 明治四十三年九月三十日

改正 大正一一年第四三號、昭和六年第一九七號

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條 所管大臣ハ朝鮮總督ヲ以テ支出官トシ朝鮮總督府特別會計ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシム朝鮮總督ハ部下ノ官吏ニ分任シテ朝鮮總督府特別會計ニ

屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシムルコトヲ得
 第三條 朝鮮總督ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎
 ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ所管大臣ヲ經由シ
 テ大藏大臣及會計検査院ニ送付シ同時ニ其ノ旨日本銀行
 ニ通知スヘシ支拂豫算ヲ更定シタルトキ亦同シ
 第四條 朝鮮總督ハ年度内一時收入金額ニ不足ヲ生スルト
 キハ其ノ不足金額ヲ豫定シ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣
 ニ支拂元金ノ繰替ヲ請求スヘシ
 大藏大臣ハ前項ノ請求ナキトキハ支拂元金ニ超過シタル
 小切手ノ支拂ヲ停止セシムルコトアルヘシ
 第五條 朝鮮總督ハ會計規則第十八條ノ規定ニ基キ發シタ
 ル勅令ニ依リ第一豫備金ノ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ金
 額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り所管大臣ヲ經由シテ大藏
 大臣ニ通知スヘシ
 第六條 大藏大臣第一豫備金支出ノ通知ヲ受ケタルトキハ
 之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
 第六條ノ二 歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書
 類ヲ添ヘ之ヲ朝鮮總督ニ送付スヘシ
 第六條ノ三 朝鮮總督ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告
 書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月
 中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
 第六條ノ四 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ朝
 鮮總督ニ送付スヘシ
 第六條ノ五 朝鮮總督ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總

報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シ
 テ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
 第七條 朝鮮總督ハ土地ノ情況ニ依リ會計規則第九十九條
 ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得
 第八條 歳入歳出ノ決定計算書ハ豫定計算書ト同一ノ區分
 ニ據リ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ大藏
 大臣ニ送付スヘシ
 第九條 朝鮮總督府ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟
 額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ
 第十條 朝鮮總督府ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決
 定後増加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ
 第十條ノ二 專賣官署ノ支出官ハ煙草又ハ水蓼ノ賠償及購
 買費、荷造費、職工人夫ニ給スル諸費並支所ノ經費ニ限り
 所屬ノ出納官吏ニ資金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得(昭和六年七月
 以テ)
 第十一條 本令ニ規定セサルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ
 依ル但シ會計規則第四十二條、第八十五條、第八十八條、
 第九十二條、第九十七條、第九十八條、第九十九條、第一百
 二十五條、第一百二十六條、第二百二十九條、第三百二十四條、第三百
 三十五條第二項、第三百三十六條乃至第三百三十八條、第四百十
 四條及第四百四十六條中各省大臣又ハ所管大臣トアルハ朝
 鮮總督トス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

會計規則ノ例ニ依ル

附則

本令ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮簡易生命保險特別會計法

●法律第六十五號 昭和四年五月四日

第一條 朝鮮總督府ニ於テ簡易生命保險事業ヲ經營スル爲
 特別會計ヲ設置シ其ノ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツ
 第二條 本會計ニ於テハ保險料、積立金ヨリ生ズル收入、毎
 年度豫算ノ定ムル所ニ依リ朝鮮總督府特別會計ヨリ繰入
 ルル金額及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ保險金、還付
 金、事業取扱費、營繕費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歳出トス
 第三條 本會計ニ於ケル歳入總額ノ歳出總額ニ超過スル金
 額ハ之ヲ積立ツベシ
 本會計ノ歳計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベ
 シ
 第四條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大
 藏省預金部ニ預入ルルコトヲ得
 第五條 政府ハ毎日本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳
 出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ
 第六條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ
 勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年六月二十
 九日勅令第二百十四號ヲ以テ昭和四年七月一日ヨリ施行)

○朝鮮簡易生命保險特別會計規則

●勅令第六號 昭和四年五月四日

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ニハ前前年度三月三十一日
 現在ノ積立金明細目錄ヲ添付スベシ
 第二條 本會計ニ於テハ當該年度ノ收入濟歳入額ヲ以テ支
 拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過ス
 ルコトヲ得ズ
 第三條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足ヲ生ジタルトキハ
 朝鮮總督ハ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ノ承認ヲ受ケ積
 立金ニ屬スル現金ヲ前條ノ支拂元受高ニ繰替使用スルコ
 トヲ得
 前項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額ハ當該年度内ニ之
 ヲ返還スベシ
 第四條 毎年度出納ノ完結迄ニ收入濟又ハ支出濟ト爲ラザ
 ルモノハ現ニ其ノ收支ヲ爲シタル年度ノ歳入又ハ歳出ト
 ス
 第五條 歳入徴收官又ハ支出官一人ナル場合ニ於テハ徴收
 報告書又ハ支出濟額報告書ヲ以テ徴收總報告書又ハ支出

總報告書ニ充ツルコトヲ得

第六條 毎年度ニ於ケル歳入ノ收入濟額ヨリ歳出ノ支出濟額ヲ控除シタル過剩額ハ之ヲ積立金ニ組入ルベシ

前項歳入ノ收入濟額ガ歳出ノ支出濟額ニ對シ不足アルトキハ之ヲ積立金ヨリ補足スベシ

第七條 朝鮮總督府ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ朝鮮簡易生命保險ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スベシ

第八條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スベシ

第九條 朝鮮總督府ハ歳出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スベシ但シ支出官一人ナル場合ニ於テハ支拂元受高差引簿ヲ省略スルコトヲ得

第十條 本令ニ規定セザルモノニ付テハ朝鮮總督府特別會計規則ノ例ニ依ル

附則

本令ハ朝鮮簡易生命保險特別會計法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府特別會計法

●法律第二號 明治三十年二月二十六日

第一條 臺灣總督府ノ會計ハ特別トシ其ノ歳入及一般會計ノ補充金ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 前條ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定

附則

本法ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

○臺灣總督府特別會計規則

●勅令第二十七號 明治三十年三月十一日

改正 明治三〇年第三一七號、三五年第二〇一號、大正一二年第四五號、昭和六年第一九八號

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日マテニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條 所管大臣ハ臺灣總督ヲ以テ支出官トシ臺灣總督府特別會計ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシム

臺灣總督ハ部下ノ官吏ニ分任シテ臺灣總督府特別會計ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第三條 臺灣總督ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ大藏大臣及會計検査院ニ送付シ同時ニ其ノ旨日本銀行ニ通知スヘシ支拂豫算ヲ更定シタルトキ亦同シ

第四條 臺灣總督ハ年度内一時收入金額ニ不足ヲ生スルトキハ其ノ不足金額ヲ豫定シ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ支拂元金ノ繰替ヲ請求スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ請求ナキトキハ支拂元金ニ超過シタル小切手ノ支拂ヲ停止セシムルコトアルヘシ

第五條 臺灣總督ハ一般會計規則第十八條ノ勅令ニ基キ第一豫備金ノ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 大藏大臣第一豫備金支出ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第六條ノ二 歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ臺灣總督ニ送付スヘシ

第六條ノ三 臺灣總督ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第六條ノ四 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ臺灣總督ニ送付スヘシ

第六條ノ五 臺灣總督ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 臺灣總督ハ土地ノ情況ニ依リ一般會計規則第九十九條ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八條 歳入歳出ノ決定計算書ハ豫定計算書ト同一ノ區分ニ據リ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日マテニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 臺灣總督府ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第十條 臺灣總督府ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第十條ノ二 專賣官署ノ支出官ハ煙草又ハ食鹽ノ賠償及購買費、樟腦又ハ樟腦油ノ補償金、荷造費、職工人夫ニ給スル諸費並支所ノ經費ニ限り所屬ノ出納官吏ニ資金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得(昭和六年七月第一九八號ヲ以テ追加)

第十一條 本令ニ規定セザルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ依リ但シ會計規則第四十二條、第八十五條、第八十八條、第九十二條、第九十七條、第九十八條、第一百四條、第一百二十五條、第二百六條、第二百九條、第三百三十四條、第三百三十五條、第三百三十六條乃至第三百三十八條、第四百四十四條及第四百四十六條中各省大臣又ハ所管大臣トアルハ臺灣總督トス

附則 (大正十一年三月二十七日勅令第四十五號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

會計規則第五十條、第五十三條又ハ第七十八條ニ規定スル期限ニ付テハ大正十年度分ニ限り四月三十日ヲ五月十五日、五月三十一日ヲ六月十五日トシ同令第七十條ニ規定スル期限ハ之ヲ六月十五日トス

大正十年度所屬歳入歳出金ヲ日本銀行ニ於テ出納スルハ大正十一年六月十五日限トス

大正十年度所屬ノ歳入歳出金ノ六月分徴收總報告書及支出總報告書ハ参照書類又ハ支出濟額報告書ト共ニ所管大臣ヲ經由シテ大正十一年六月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

○臺灣官設鐵道用品資金會計法

●法律第十三號 明治三十五年三月八日

改正 明治四〇年第四號、昭和二年第五號

第一條 鐵道用品ヲ購入貯藏シ臺灣官設鐵道ノ運輸營業並建設事業ノ需用ニ應スル爲臺灣官設鐵道用品資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 臺灣官設鐵道用品資金ハ本法施行ノ年度始現在ノ臺灣總督府鐵道部ニ於ケル貯蓄材料ヲ以テ之ニ充テ尙必要ニ應シ臺灣總督府特別會計ヨリ漸次繰入シテ百萬圓トス(昭和二年三月第一號ヲ以テ改正)

第三條 臺灣官設鐵道用品資金會計ニ屬スル用品ヲ使用スルトキハ臺灣官設鐵道所屬ノ經費ヲ以テ之ヲ購入スヘシ此ノ場合ニ於テハ前金拂並概算渡ヲ爲スコトヲ得

第四條 臺灣官設鐵道用品資金ヲ以テ購入貯藏シタル鐵道用品ノ製作、改製及修理ノ費用ハ該資金ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第五條 臺灣官設鐵道用品資金會計ニ屬スル鐵道用品ノ賣拂價格ハ其ノ自然ノ損減歩合、製作、改製及修理費並其ノ附屬費用及購入ニ附隨スル諸費ヲ其ノ購入原價ニ加算シテ之ヲ定ムヘシ

第六條 臺灣官設鐵道用品資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生スルトキハ其ノ過剩金ヲ同年度臺灣總督府特別會計ノ歲入ニ編入スヘシ

第七條 政府ハ毎年臺灣官設鐵道用品資金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條 臺灣官設鐵道用品資金特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 臺灣官設鐵道用品資金會計ノ經營ニ妨ナキ限ハ一般ノ需用ニ應シ機械其ノ他ノ製作修理ヲ爲スコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ臺灣官設鐵道用品資金會計ニ屬スル用品ヲ以テ其ノ材料ニ充ツルコトヲ得

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十五年三月二十九日勅令第二百二十七號ヲ以テ同三十五年度ヨリ施行)

○臺灣官設鐵道用品資金會計規則

●勅令第四百十號 明治三十五年四月十七日

改正 大正一二年第四六號、昭和六年第四號

第一條 臺灣官設鐵道用品資金ハ貯藏物品賣拂代金並附屬雜收入ヲ以テ歲入トシ物品購入代製作費改製費修理費並附屬諸費ヲ以テ歲出トス

第二條 臺灣官設鐵道用品資金ハ實際ノ歲入額及資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ以テ支拂元受高トシ歲出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

○官舍貸渡内規

●明治二十一年十二月二十七日內閣ヨリ各省大臣へ達

改正 明治二年五月 中略 昭和六年九月

第一條 別表ニ掲クル所ノ官吏ハ官舍ニ居住スヘキモノトス

但公務上差支ナキ者ハ所屬長官ノ意見ニ由リ又ハ其認許ヲ經テ官舍ニ居住セサルモ妨ナシ

第二條 官舍相當ノ建具疊敷物窓掛煖爐通信器點火器及對客室必要ノ椅卓ニ限リ官費ヲ以テ之ヲ設クルモノトス

但大臣ノ官舍ニ限リ以上物品ノ外接客用飲食器接客室ニ備フル所ノ花瓶書棚物置臺鏡時計ハ官費ヲ以テ之ヲ設ケ且ツ公用室客室及館外ノ點火竝ニ公用室及客室ノ石炭ハ官費供用スルコトヲ得

第三條 官舍及官舍附屬ノ建物物品等ノ保存上必要ナル手入ハ一切居住人ノ自費トス

天災若クハ自然ノ腐朽ニ由リ修繕ヲ加フルコトヲ必要トスル時ハ官費ヲ以テ支辨ス

第四條 官舍居住人ノ不注意ニ因リ官舍及其附屬ノ物品ヲ毀損シタルトキハ自費ヲ以テ支辨セシム

第五條 各廳ノ便宜ニ由リ其長官ニ於テ別表外ノ官吏ヲ官舍ニ居住セシムル時ハ總テ官舍貸渡規則ニ據ルヘキモノトス

トス

別表

- 總理大臣
- 各省大臣
- 大臣祕書官
- 內閣書記官長
- 內閣書記官ノ内一名若クハ二名
- 法制局長官
- 印刷局長若クハ印刷局事務官ノ中一名官報編輯ニ從事スル印刷局屬四名
- 樞密院議長
- 樞密院書記官ノ内一名
- 樞密院議長祕書官
- 外務次官
- 外務大臣官房電信課、文書課、人事課又ハ會計課ノ職員ノ內職務ニ由リ外務大臣ニ於テ特ニ官舍居住ヲ命スル者
- 內務次官
- 內務大臣官房祕書課、文書課又ハ會計課ノ職員ノ內職務ニ由リ內務大臣ニ於テ特ニ官舍居住ヲ命スル者
- 內務省地方局長
- 內務省警保局長
- 內務省警保局職員ノ內職務ニ由リ內務大臣ニ於テ特ニ官舍居住ヲ命スル者

内務省土木出張所職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 内務省衛生局長
 社會局長官
 明治神宮造營局職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 國立感化院職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 國立癩療養所職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 衛生試験所職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 集治監、廳、府、縣、司獄官吏ノ内職務ニ由リ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 大藏省金庫局長若クハ局長次長大藏大臣官房臨時建築課出張所職員ノ内職務ニ由リ大藏大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 造幣局職員ノ内職務ニ由リ大藏大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 陸軍次官
 海軍次官
 陸海軍武官ノ内職務ニ由リ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 陸軍監獄職員ノ内職務ニ由リ陸軍大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者

司法大臣官房職員課長
 司法省各始審裁判所豫審判事及上席檢事
 司法大臣ニ於テ指定スル島嶼ニ在勤スル判事檢事及裁判所書記
 少年審判所及矯正院ノ職員ノ内職務ニ由リ司法大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 文部省直轄各學校圖書館氣象臺緯度觀測所及測地學委員會職員ノ内職務ニ由リ文部大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 農商務省山林局試驗場詰官吏、農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル食糧局出張所職員
 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル茶業試驗場職員
 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル園藝試驗場職員
 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル種羊場職員
 農林大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル種雞場職員
 農林大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル在青島帝國總領事館附獸疫調査所職員
 商工大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル工業試驗所職員
 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル陶磁器試驗所職員
 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル花庭檢査所職員
 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル小林區署職員
 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル公有林野官行造林署職員

第七章 收入、支出及出納官吏

第一節 收入

○國稅徵收法

●法律第二十一號 明治三十年三月二十九日

改正 明治三十五年第三六號、三十八年第四六號、四十四年第三七號、大正三年第一二號、昭和六年第一六號

第一章 總則

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル
 第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス
 第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス
 第四條ノ一 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得
 一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
 二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
 三 強制執行ヲ受クルトキ
 四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

第七章 收入、支出及出納官吏

五 競賣ノ開始アリタルトキ
 六 法人カ解散ヲ爲シタルトキ
 七 納稅人脫稅又ハ遁稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ
 第四條ノ二 前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滞金及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス
 督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滞金及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス
 第四條ノ三 相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得
 國籍喪失ニ因リ相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ國稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス
 第四條ノ四 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス

第四條ノ五 同年ノ所得税、地租、營業收益税、資本利子税及同酒造年度ノ酒造税ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徴收スヘキ同一税目ノ税金ニ充ツルコトヲ得(昭和六年三月第一六號ヲ以テ改正)

第四條ノ六 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル

第四條ノ七 納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス

納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第四條ノ八 書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國内ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第二章 徴收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徴收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項徴收ノ費用トシテ其ノ徴收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告知書一通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス

第六條 國稅ヲ徴收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徴收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徴收ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料、延滞金ヲ徴收ス

第三章 滯納處分

第十條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財産ヲ差押フヘシ

- 一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手數料、延滞金及税金ヲ完納セサルトキ

ハ之ヲ滯納者ニ交付ス

賣却シタル物件質權、抵當權ノ目的物タルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、延滞金、滯納處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテヲ債權者ニ交付シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス但シ第三條ニ掲ケタル質權、抵當權ノ目的物タル物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、延滞金、滯納處分費ヲ徴シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテヲ債權者ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス

賣却シタル物件抵當證券ヲ發行シタル抵當權ノ目的物ニシテ第三條ノ證明ヲ爲スヘキ抵當證券所持人分明ナラサル場合ニ於テ其ノ代金ヨリ督促手數料、延滞金及滯納處分費ヲ徴シタル殘額力債權者ニ交付スヘキ債務額及徴收スヘキ税金ニ充タサルトキハ其ノ抵當證券所持人ニ交付スヘキ金額ハ之ヲ保管ス此ノ場合ニ於テ債權ノ辨濟期限後四月ヲ過クルモ尙其ノ證明ヲ爲ササルトキハ其ノ保管シタル金額ヲ税金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ抵當證券所持人ニ交付ス物件ノ賣却後二年内ニ其ノ證明ヲ爲ササルトキ亦同シ(昭和六年三月第一六號ヲ以テ追加)

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ督促手數料、延滞金、滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ

金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得

第三十一條 滯納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シタルトキハ納稅義務及督促手數料、延滞金、滯納處分費納付ノ義務ハ消滅ス

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ「重禁錮」ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏消費若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス(沖繩縣及東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分ニ之ヲ施行セス)

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス(北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス)

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○國稅徵收法施行規則

●勅令第三百三十五號 明治三十五年四月十一日

改正 明治三十八年第六七號、四十四年第二八二號、大正九年第五八八號
一二年第一七〇號、昭和六年第一八八號

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ日本銀行ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第二條 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ
市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル税金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ納稅告知ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ

第四條 市町村ニ於テ税金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條 市町村ニ於テ徵收シタル税金ハ送付書ヲ添へ漸次之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ但シ納期後三日ヲ過クルコトヲ得ス

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

第七條 市町村ハ納期内ニ税金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲クルモノニシテ納期ニ到リ税金ノ徵收ヲ完ウスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅
二 造石數査定濟ノ酒類、酒精並酒精含有飲料ノ造石稅及造石數査定濟ノ麥酒稅(昭和六年七月第一號八號ヲ以テ改正)
三 製造場外ニ移出セラレタル清涼飲料ニ對スル清涼飲料稅(昭和六年七月第一號八號ヲ以テ改正)

第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

第十一條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ督促狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ金十錢ヲ徵收ス

第十二條 前條ニ依リ督促ヲ受ケタル場合ニ於テハ税金額百圓ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ税金完納又ハ財産差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滯納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 納稅告知書一通ノ税金額二十圓未滿ナルトキ
二 納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ

三 納稅者ノ住所若ハ居所カ帝國内ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ニ指定シタル期限迄ニ税金及督促手數料ヲ完納シタルトキ又ハ前項ニ依リ計算シタル金額カ十錢未滿ナルトキハ延滞金ヲ徵收セス

第十二條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手數料、延滞金、滯納處分費及税金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ前項ノ場合ニ於テ抵當證券ヲ發行シタル抵當權ニ付其ノ證券所持人分明ナラサルトキハ債務者又ハ證券ノ讓渡人等ニ付調査シ尙分明ナラサルトキハ前項ニ依リ通知スヘキ事項ヲ公告スヘシ(昭和六年七月第一號八號ヲ以テ改正)

第十三條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキ亦之ニ準ス

第十四條 差押フヘキ財産管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條 差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者

ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均キモノトシテ處分スヘシ

第十六條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル差押調書ヲ作り之ニ署名捺印スヘシ

一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
二 差押財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項
三 差押ノ事由
四 調書ヲ作りタル場所、年月日

國稅徵收法第二十一條ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ立會人ト共ニ差押調書ニ署名捺印スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

收稅官吏差押調書ヲ作りタルトキハ其ノ謄本ヲ滯納者及立會人ニ交付スヘシ但シ債權及所有權以外ノ財産權ノミヲ差押ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手數料、延滞金、滯納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財産ノ差押ヲ解クヘシ

第十八條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
第十九條 國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ
一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル

事項

- 三 入札又ハ競賣ノ場所、日時
- 四 開札ノ場所、日時
- 五 保證金ヲ徴スルトキハ其ノ金額
- 六 代金納付ノ期限

第二十條 財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徴スヘシ
加入保證金又ハ契約保證金ハ國債ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金又ハ之ニ代用シタル國債ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條 公賣ハ財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 財産ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ
第二十四條 賣却シタル財産ニ付滯納者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ
前項ノ期間内ニ滯納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ收稅官吏ハ滯納者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

吏ハ滯納者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同キトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第二十六條 財産ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ收稅官吏ハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十八條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十九條 國稅徵收法第四條ノ一第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收稅官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、強制管理人、破産管財人又ハ清算人ニ督促手數料、延滞金、滯納處分費及滯納税金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス(昭和六年七月第一八八號ヲ以テ改正)

第三十條 滯納處分ヲ了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滯納者ニ交付スヘシ
賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得

許可ス

- 三 煙草ヲ賣拂フ場合ニ於テハ一口ノ賣拂代金輸出ニ供スル煙草ニシテ三千圓以上ナルトキハ六月以内、其ノ他ニ在リテハ五百圓以上ナルトキニ限リ四月以内之ヲ許可ス但シ江原道、平安南道、平安北道、咸鏡南道及咸鏡北道ニ於ケル僻遠ノ地方ニ限リ特ニ六月以内之ヲ許可スルコトヲ得(朝鮮官報昭和二年四月第一號、六年二月第三號ヲ以テ改正)
- 四 人參製品ヲ賣拂フ場合ニ於テハ一口ノ賣拂代金三百圓以上ナルトキニ限リ三月以内之ヲ許可ス(朝鮮官報大正五年一月第七五號ヲ以テ改正)
- 五 林野ヲ賣拂フ場合ニ於テハ一口ノ賣却代金三千圓以上ナルトキハ二年以内之ヲ許可ス(朝鮮官報昭和二年六月)
- 六 血清及豫防液類ヲ賣拂フ場合ニ於テハ一口ノ賣拂代金百圓以上ナルトキハ三月以内之ヲ許可ス(朝鮮官報昭和二年五月第二五號ヲ以テ追加)
- 七 專賣局工場ヨリ生ズル副生産物其ノ他不用品ヲ賣拂フ場合ニ於テハ一口ノ賣拂代金百圓以上ナルトキハ二月以内之ヲ許可ス(朝鮮官報昭和五年二月第一〇一號ヲ以テ追加)

第二條 延納ノ許可ヲ受クル者ニハ擔保物トシテ延納スヘキ賣拂代金ト同額以上ノ國債證券ヲ提供セシムルモノトス但シ分割引渡ヲ約シタル物件ノ賣拂ニ付テハ其ノ引渡物件ノ代金ト同額以上ヲ引渡ノ都度提供セシムルコトヲ得
第三條 代金延納ヲ許可シタル物件ノ引渡ハ其ノ擔保物提供ノ後之ヲ爲スモノトス

第四條 常時第一條各號ニ掲クル物件ノ賣拂ヲ受クル者代金納付ノ擔保物ヲ豫メ提供シ置クトキハ之ニ對シ其ノ擔保物ノ價額ニ達スル迄延納ヲ許可スルコトヲ得
第五條 擔保物タル國債證券ハ當該官署ニ之ヲ提供スヘシ但シ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スルコトヲ得
第六條 林野、森林産物、木材及製品ノ賣拂ヲ受クル公共團體ニ對シテハ擔保物ノ提供ヲ免除スルコトアルヘシ(朝鮮官報昭和二年六月第五五號ヲ以テ改正)

附則 明治四十四年朝鮮總督府令第四百四十七號物品賣拂代金延納規則ハ之ヲ廢止ス
附則 (昭和六年二月九日朝鮮總督府令第三號) 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ規定ニ依リ延納ヲ許可シタル代金ニシテ本令施行ノ際現ニ納入期日内ニ在リテ未ダ納入ニ至ラザルモノニ付テハ其ノ期日ヨリ更ニ一月以内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

●物件賣拂代金延納ニ關スル件

臺灣總督府令第五百五十五號 大正十年十月一日公布 同年十月二十四日官報掲載
改正 大正二年第一四三號、昭和二年第九號、四年第二號、六年第五九號
第一條 大正十年勅令第三百七十四號ニ依リ延納ヲ許可スルハ左ノ物件賣拂代金ニシテ第一號乃至第三號ニ在リテハ一口五百圓以上、第四號ニ在リテハ一口二百圓以上ナル場合ニ限ル(臺灣總督府報昭和二年二月第九號ヲ以テ改正)

樟腦、樟腦油、樟腦副産物、煙草、阿片煙膏、粗製
 一 樟腦、樟腦油、樟腦副産物、煙草、阿片煙膏、粗製
 二 度量衡器
 三 國有林野産物及其ノ製品
 四 食鹽(臺灣總督府報昭和二年二月第九號ヲ以テ追加)

第二條 延納期限ハ煙草、酒、酒糟及本島内ニ於テ消費スル
 食鹽ニ在リテハ四月内其ノ他ニ在リテハ六月内トス但シ
 當分ノ内度量衡器中水量メートル竝國有林野産物及其ノ
 製品ニ限り一年内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得(臺灣總督府報昭和二年二月第九號、四年二月第二號、六年一月第五號ヲ以テ改正)

第三條 國有林野産物及其ノ製品賣拂代金ニシテ左ノ各號
 一 該ルトキハ其ノ擔保ヲ免除スルコトヲ得度量衡器
 中水量メートルノ賣拂代金ニシテ第一號ニ該ルトキ亦同
(臺灣總督府報昭和六年一月第五號ヲ以テ改正)

- 一 公共團體ニ賣拂フトキ
- 二 法人ニ賣拂フ場合ニ於テハ信用確實ニシテ延納金ノ
 總額カ其ノ拂込資本金額ノ二分ノ一ヲ超エサルトキ
- 三 個人ニ賣拂フ場合ニ於テハ信用確實ニシテ延納金ノ
 總額カ其ノ資産ノ二分ノ一ヲ超エサルトキ

附 則

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ適用ス
 従前ノ規定ニ依リ延納ヲ許可シタルモノハ其ノ期間満了ノ
 日マテ仍其ノ效力ヲ有ス

○樺太廳ニ屬スル生産物賣拂代金延納ニ關スル件

樺太廳令第四十五號大正十年十一月十二日公布、同年十一月二十九日官報掲載

改正 大正十一年第一六號

樺太廳ニ屬スル鑛産物、水産物及林産物ノ賣拂代金ハ一口
 五百圓以上ナル場合ニ限り國債ヲ擔保トシテ提供セシメ一
 年内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得但シ左ノ場合ニ限り擔保ヲ
 免除スルコトヲ得

- 一 公共團體ニ賣拂フトキ
- 二 樺太内ニ本店ヲ有シ資本金二百萬圓以上ヲ有スル法
 人又ハ樺太内ニ本店ヲ有セサルモ資本金千萬圓以上
 ヲ有スル法人ニ賣拂フトキ
- 三 樺太内ニ住所ヲ有シ資産五十萬圓以上ヲ有スル者又
 ハ樺太内ニ住所ヲ有セサルモ資産二百五十萬圓以上
 ヲ有スル者ニ賣拂フトキ

附 則

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ適用ス

○物件賣拂代金延納規則

南洋廳令第十號大正十一年四月一日公布、同十三年二月二十日官報掲載

第一條 南洋廳及所屬官署ニ於テ物件賣拂代金ノ延納ヲ許
 可スル場合及其ノ延納期間ハ左ノ各號ニ依ル
 一 林産物ヲ賣拂フ場合ニ於テハ一口ノ賣拂代金三百圓
 以上ナルトキハ三月以内千圓以上ナルトキハ一年以
 内之ヲ許可ス

○郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入ヲ爲サシムル

ノ特例ニ關スル件

●大藏省令 昭和六年十二月三日

大正四年大藏省令第一號第一條 一定ムル收入金ノ外收入官吏ノ日本
 同 年遞信省令第八號第一條 銀行ニ拂込ムヘキ國庫ノ收入金ハ當分ノ内大正四年勅令第
 六號ニ依リ遞信大臣ノ指定スル郵便官署ヲシテ之カ取扱ヲ
 爲サシムルコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外大正四
 年大藏令第一號及同年遞信省令第八號ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九章 俸給及諸給與

第一節 俸給

○高等官官等俸給令

勅令第三百三十四號 明治四十三年三月二十八日

改正 明治四十三年第三〇八號 中略 昭和七年第九九號

第一條 親任式ヲ以テ敍任スル官ヲ除クノ外高等官ヲ分テ

九等トス親任式ヲ以テ敍任スル官及一等官二等官ヲ勅任

官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス

第二條 奏任官ノ任免及敍等ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其

ノ各省及各省所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ

經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第三條 高等官ノ官等ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第

一表ニ依ル

官制上他ノ官ニ在ル者ヲ以テ兼任セシムル官ニシテ別ニ

官等ヲ定メサルモノハ本官ノ官等ニ依ル

第四條 初メテ高等文官ニ任セララル者ノ官等ハ六等以下

トス

高等文官ニシテ退官シタル者再ヒ高等文官ニ任セララル

場合ニ於テハ其ノ官等ハ前官ノ官等以下トス但シ前官官

等在職年數二年ヲ超エタル者ハ前官ノ官等ニ一等ヲ進ム

ルコトヲ得

前官ノ官等七等以下ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス陞シ

テ六等官ニ至ルコトヲ得

第五條 高等文官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタルモノ及
七等以下ノモノヲ除キ在職二年ヲ超ユルニ非サレハ陞敍
スルコトヲ得ス

陸海軍武官ヲ其ノ部内ノ文官ニ任用シタル場合ニ於テハ
武官在職ノ年數ハ之ヲ前項ノ在職年數ニ通算ス

第六條 親任式ヲ以テ敍任スル官、内閣書記官長、特命全權
公使及辨理公使ニ任セララル場合ニ於テハ前二條ノ規定

ヲ、文官任用令第一條(第四項)ノ規定ニ依リ勅任文官ニ

任用セララル場合ニ於テハ第四條ノ規定ヲ適用セス

第七條 親任式ヲ以テ敍任スル文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモ

ノヲ除クノ外左ノ如シ(昭和六年五月第九
九號ヲ以テ改正)

内閣總理大臣 年俸 九千六百圓

各省大臣、朝鮮總督 年俸 六千八百圓

樞密院議長、特命全權大使、判事、檢事、臺灣總督、關東長
官、會計檢査院長、行政裁判所長官 年俸 六千六百圓

樞密院副議長、朝鮮總督府政務總監 年俸 六千二百圓

樞密顧問官 年俸 五千八百圓

第八條 勅任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ
如シ(以下略ス)

第九條 勅任文官親任式ヲ以テ敍任
スル文官ヲ除クニシテ五年以上其ノ官ノ最

高俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ六百圓以內

ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得(昭和六年五月第九
九號ヲ以テ改正)

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ勅任文官親任式ヲ以テ敍任
スル文官ヲ除クノ在職

年數ニシテ現官ノ最高俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ

之ヲ現官ノ最高俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ勅任文官ニ任スル際ハ特ニ第一項ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第九條ノ二 高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ニシテ三年以上(各省參與官ニ在リテハ一年以上)高等官二等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ高等官一等ニ陞叙スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等官一等又ハ高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ノ高等官二等以上ノ在職年數ハ之ヲ現官ノ高等官二等ノ在職年數ニ通算ス

前官高等官一等ノ勅任文官ニ在リタル者ヲ高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ニ任スル場合ニ於テハ特ニ高等官一等ニ叙スルコトヲ得

第十條 神宮皇學館教授、陸軍大學校及海軍大學校以外ノ陸軍及海軍諸學校教官タル陸軍教授又ハ海軍教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限り高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得(昭和四年七月第二號、昭和四年四月第六號、六年九月第二四八號ヲ以テ改正)

北海道帝國大學豫科、附屬土木專門部、附屬水産專門部教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各科ヲ通シテ三人ヲ限り高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得

○官吏療治料給與ノ件

勅令第八十號 明治二十五年九月二十七日

官吏ニシテ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケタル者ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外療治料實費ヲ以テ給與ス

○勤勉手當給與令

勅令第五百四十五號 大正九年十一月二十二日

改正 大正一〇年第一八八號、一一年第一二五號、第一〇五號、第四一〇號、一二年第二八三號、一三年第九六號、第一九六號、第二七二號、第三三三號、一四年第九七號、一五年第二二二號、昭和二年第二五八號、四年第六三號、五年第二六號、第五五號、七年第四二號

第一條 官吏、官吏ノ待遇ヲ受クル者、囑託員、雇員、傭人又ハ職工ニシテ左ニ掲クル現業ニ従事スルモノニハ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得

- 一 衛生試驗所ニ於ケル現業
- 一ノ二 (昭和五年三月第五五號ヲ以テ改正、七年三月第四二號ヲ以テ削除)
- 二 大藏省所管ノ營繕工事ノ現業
- 二ノ二 造幣局ニ於ケル現業
- 三 專賣局ニ於ケル現業
- 四 陸海軍ノ工事、製造、港務又ハ海軍探炭ノ現業
- 四ノ二 司法省所管監獄ニ於ケル現業
- 四ノ三 營林局署ニ於ケル現業(大正一五年七月第二號ヲ以テ追加)
- 五 製鐵所ニ於ケル現業(大正一五年七月第二號ヲ以テ改正)
- 五ノ二 遞信省ニ於ケル工事ノ現業

高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得(昭和四年四月第四號、第五項昭和四年四月第六號ヲ以テ削除)

京城帝國大學豫科教授又ハ朝鮮總督府專門學校教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ京城帝國大學豫科ニ在リテハ一人、朝鮮總督府專門學校ニ在リテハ各一人ヲ限り高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得(昭和五年一月第二〇九號ヲ以テ改正)

臺北帝國大學附屬農林專門部教授又ハ臺灣總督府諸學校教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ通シテ二人ヲ限り高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得(昭和二年一月第一七號ヲ以テ改正)

旅順工科大学豫科教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ一人ヲ限り高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得

第十一條 各廳ニ於テ勅任技師ヲ置クコトヲ要スルモノハ官制ニ於テ之ヲ定ム

第十二條 奏任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第二表各號ノ一ニ依ル

第十三條 別表第二表第一號ニ依ル官ノ官等ハ高等官三等乃至七等、同第二號ニ依ルモノハ高等官四等乃至八等、同第三號ニ依ルモノハ高等官五等以下トス

第十四條 別表第二表第一號ニ依ル諸官左ノ如シ(以下略ス)

第十五條 別表第二表第二號ニ依ル諸官左ノ如シ(以下略ス)

第十六條 別表第三表第三號ニ依ル諸官左ノ如シ(以下略ス)

第十七條 在外公館職員タル高等文官ノ年俸ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第三表ニ依ル

大使館一等書記官、公使館一等書記官、大使館商務書記

六 貯金局、簡易保險局、遞信局及通信官署ニ於ケル現業(大正一五年七月第二號)

七 帝國鐵道ノ現業

八 朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ於ケル工事ノ現業

九 朝鮮總督府鐵道局、朝鮮總督府專賣局、朝鮮總督府營林署及朝鮮總督府遞信官署ニ於ケル現業(大正一五年七月第二號ヲ以テ改正)

十 朝鮮總督府監獄ニ於ケル現業(昭和二年八月第二號)

十一 臺灣總督府交通部ニ於ケル鐵道又ハ通信ノ現業(大正一五年七月第二號)

若ハ獸疫病毒汚染ノ疑アル物品ノ検査若ハ検査事務及其ノ事務ヲ直接幫助スル事務

二 税關、朝鮮總督府税關又ハ臺灣總督府税關ニ於ケル臨時閉廳ノ場合又ハ日没ヨリ日出迄ノ間若ハ休日ニ保税倉庫ノ閉扉若ハ貨物ノ積卸搬出入其ノ他ノ取扱ヲ爲ス場合ノ臨時事務

三 税關又ハ臺灣總督府ニ於ケル植物ノ輸入、移入ニ關スル検査事務及其ノ事務ヲ直接幫助スル事務(昭和五年二月第二六號ヲ以テ改正)

四 臺灣總督府ニ於ケル茶検査事務及其ノ事務ヲ直接幫助スル事務(昭和五年二月第二六號ヲ以テ追加)

第二條 工場ニ服務スル技手ニシテ第一條ニ該當セサル者ヲシテ定時間外ニ服業セシメタル場合ニハ日額ニ依リ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得

第三條 前三條ノ規定ニ依リ給スル手當ノ額ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第四條 法律又ハ勅令ニ依ルニ非サレハ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

- 明治三十二年勅令第四百四十八號(定時間外服業ノ技手ニ日額給與ノ件)
- 明治三十六年勅令第四十八號(爲替貯金局及地方遞信官署現業員勤勉手當ノ件)
- 明治三十七年勅令第五百五十五號(專賣局煙草製造所職員手當及年功加俸ニ關スル件)
- 明治三十七年勅令第七十號(煙草製造及鹽加工ノ現業ニ從事スル判任官及雇員勤勉手當ニ關スル件)
- 明治三十九年勅令第三百五號(製鐵所及林區署ノ現業ニ從事スル判任官及雇員ノ勤勉手當ニ關スル件)
- 明治四十年勅令第八號(陸海軍ノ工事製造其他海軍港務ノ現業ニ從事スル判任官及雇員ニ勤勉手當給與ノ件)
- 明治四十年勅令第六十四號(大藏省臨時建築課現業從事判任官及雇員勤勉手當給與ノ件)
- 明治四十一年勅令第六號(關東都督府通信官署現業從事者ニ勤勉手當給與ノ件)
- 明治四十三年勅令第二百一十一號(衛生試驗所現業從事判任官及雇員ノ勤勉手當ニ關スル件)
- 大正三年勅令第一百七號(朝鮮總督府營林廠ノ現業ニ從事スル判任官及雇員ノ手當ニ關スル件)
- 大正七年勅令第三百一十一號(臨時議院建築局現業從事員ニ勤勉手當給與ノ件)
- 大正七年勅令第四百號(朝鮮總督府遞信官署現業從事員ニ勤勉手當給與ノ件)
- 大正九年勅令第二十五號(朝鮮總督府及其所屬官署ニ於ケル工事ノ現業ニ從事スル職員ノ勤勉手當ニ關スル件)

第三節 行政及軍備整理ニ依ル賜金

○行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等ニ交付スル公債發行ニ關スル法律

●法律第七號 昭和七年六月十八日

今回ノ行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官若ハ退職シタル者、休職ヲ命ゼラレタル者、現役ヲ退カシメラレタル者、解職若ハ解備セラレタル者等ニ特別ノ賜金又ハ手當トシテ交付スル爲政府ハ額面二千五百四十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等ニ支給スル特別ノ賜金又ハ手當ニ關スル件

●勅令第八十八號 昭和七年六月十八日

第一條 今回ノ行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官若ハ退職シ、休職ヲ命ゼラレ又ハ現役ヲ退カシメラレタル官吏又

ハ官吏ノ待遇ヲ受クル者ニハ特別ノ賜金ヲ支給スルコトヲ得

第二條 囑託員、雇員、傭人又ハ職工ニシテ今回ノ行政整理又ハ軍備整理ニ際シ解職又ハ解備セラレタル者ニハ通常解備ノ場合國庫ヨリ支給スベキ給與ノ例ニ依ラズ特別ノ手當ヲ支給スルコトヲ得

第三條 前二條ノ規定ハ今回ノ行政整理又ハ軍備整理ニ際シ死亡シタル者ニシテ前二條ニ掲グル者ニ準ズベキモノニ付之ヲ準用ス

第四條 前三條ニ規定スル特別ノ賜金又ハ手當ノ金額、其ノ支給ノ範圍及時期其ノ他支給ニ關スル事項ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

特別ノ賜金又ハ手當ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ國債ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第五條 國庫ヨリ俸給ヲ受クル官吏又ハ官吏ノ待遇ヲ受クル者第一條又ハ第三條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テ其ノ者ガ昭和六年十一月九日以後地方經濟ヨリ俸給ヲ受クル官吏又ハ官吏ノ待遇ヲ受クル者ヨリ轉任シタルモノナルトキハ之ニ支給スル特別ノ賜金ハ當該地方經濟ノ負擔トス

第六條 地方經濟ヨリ俸給ヲ受クル官吏又ハ官吏ノ待遇ヲ受クル者第一條又ハ第三條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テ之ニ支給スル特別ノ賜金ハ當該地方經濟ノ負擔トス但シ其ノ者ガ昭和六年十一月九日以後國庫ヨリ俸給ヲ受クル

官吏又ハ官吏ノ待遇ヲ受クル者ヨリ轉任シタルモノナル
トキハ國庫ノ負擔トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等ニ交付スル公債ノ發行交付ニ關スル規程

- 大藏省令第九號 昭和七年六月二十日
- 第一條 政府ハ昭和七年法律第七號ニ依リ五分利公債ヲ發行ス
- 第二條 本公債ノ額面金額ハ二十五圓、五十圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及一萬圓ノ七種トス
- 第三條 本公債ノ元金ハ發行ノ年ヨリ五年据置キ其ノ翌年ヨリ五十年内ニ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス
- 第四條 本公債ノ利率ハ年五分トシ賜金又ハ手當ノ給與發令ノ日ヨリ之ヲ附ス
- 第五條 本公債ノ交付價格ハ額面金額百圓ニ付八十六圓八十錢トス
- 第六條 特別ノ賜金又ハ手當ノ給與ヲ發令シタル官廳ハ其ノ受給者ヨリ公債交付請求書ヲ徵シ公債發行請求書(書式第一號)ヲ所管各省ヲ經由シテ大藏省ニ提出スヘシ

前項ノ公債發行請求書ハ賜金又ハ手當ノ給與發令日附ノ異ナル毎ニ別紙トシ受給者ノ氏名別内譯書(書式第二號)及取扱官吏印鑑ニ通テ添付スヘシ

請求官廳ハ本公債ニ關スル取扱官吏ヲ定メ所管各省ヲ經由シテ豫メ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第七條 大藏省前條ノ規定ニ依リ公債發行ノ請求ヲ受ケタルトキハ公債交付通知書(書式第三號)ヲ所管各省ヲ經由シテ請求官廳ニ交付ス

第八條 前條ノ規定ニ依リ公債交付通知書ノ交付ヲ受ケタル官廳ハ其ノ領收證欄ニ所定ノ記入ヲ爲シ日本銀行ニ提出シ之ト引換ニ公債ヲ受領スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

書式第一號

昭和七年法律第七號ニ依ル公債發行請求書

一五分利公債額面 圓也

(賜金又ハ手當ノ給與發令日昭和 年 月 日)

内譯

圓券 枚
圓券 枚

但シ受給者氏名別内譯別紙ノ通

公債交付指定取扱店 日本銀行本店(又ハ何支店、何代理店)

右發行相成度取扱官吏印鑑ニ通相添ヘ此段及請求候也

昭和 年 月 日

官職 氏

名印

大藏大臣宛

書式第二號

公債受給者氏名別内譯書

受給者氏名	官退職當時ノ名	給與發令日附	公債額面額
-------	---------	--------	-------

書式第三號(表面)

第 號	指定取扱店	日本銀行 店	受取人(取扱官吏)
一 五分利公債(第 回)額面 圓也			
此證券 枚			
但シ昭和 年 月 日渡以降利札附屬及日割利札添附			
右昭和七年法律第七號ニ依リ發行ス前記指定ノ取扱店ニテ之ヲ受取ルヘシ			
昭和 年 月 日	大藏大臣		
前記ノ公債正ニ領收候也	受取人		
昭和 年 月 日			

書式第三號(裏面)

第九章 俸給及諸給與

(注意)

一、受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日官廳名及官職氏名ヲ記入シ捺印ノ上公債領收ノ證トシテ之ヲ指定ノ取扱店ニ差出シ公債ノ交付ヲ受クヘシ

二、受取人ノ印章ハ請求書ニ添付セシ印鑑ト同一ノモノニ限ル

○「ロンドン」海軍條約實施ニ伴フ海軍職工整理ニ關スル公債發行ニ關スル法律

●法律第四十五號 昭和六年四月一日

昭和六年條約第一號千九百三十年「ロンドン」海軍條約ノ實施ニ伴フ艦艇建造ニ關スル經費ノ減少ニ基キ解備セラレタル海軍職工ニ特別ノ手當トシテ交付スル爲政府ハ額面六百八十萬圓ヲ限り公債ヲ發行スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○「ロンドン」海軍條約ノ實施ニ伴ヒ解備セラレタル海軍職工ニ特別手當支給ノ件

●勅令第四十四號 昭和六年四月一日

昭和六年條約第一號千九百三十年「ロンドン」海軍條約ノ實施ニ伴フ艦艇建造ニ關スル經費ノ減少ニ基キ解備セラレタル海軍職工ニハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ定ムル所ニ從

ヒ特別ノ手當ヲ支給スルコトヲ得
前項ノ手當ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ國債ヲ以テ之ヲ交
付スルコトヲ得

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○恩給法施行令

勅令第三百六十七號 大正十二年八月十七日

改正 大正一二年第五二〇號、一三年第五一號、第四〇七號、四年第五三號、
一五年第二四四號、第三〇四號、昭和二年第三六二號、三年第七三號、
五年第一九號、七年第六〇號

第一條 恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クヘキ
遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依
ル

同法第十條ノ恩給權者カ死亡ノ當時家族ナリシトキハ其
ノ相續人ハ恩給權者死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在リタ
ルコトヲ要ス

第二條 恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未
タ恩給ノ請求ヲ爲ササリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ
遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ
爲スコトヲ得

裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自
己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第三條 恩給法第十二條ノ規定ニ依リ内閣恩給局長以外ノ
者ニ於テ恩給ヲ受クルノ權利ヲ裁定スヘキ場合ハ左ノ區
分ニ依ル

- 一 内地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、
盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職
員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテ
ハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定
ス

二 前號ニ掲クルモノヲ除クノ外内地ニ於ケル公立ノ學
校又ハ圖書館ノ教育職員ニシテ文官ニ非サルモノノ
一時恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ
在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

三 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル公立ノ小學校、普通學
校、公學校、實業補習學校、幼稚園、盲啞學校其ノ他ノ
小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並
其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在
リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官
之ヲ裁定ス

四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州(南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム以
下同シ)又ハ南洋群島ニ於テ國庫ヨリ俸給ヲ受クル
警察監獄職員(陸海軍ニ屬スルモノ及樺太ニ於ケル
刑務所ニ屬スルモノヲ除ク)及其ノ遺族ノ恩給ハ朝
鮮ニ在リテハ朝鮮總督(道ノ警部補、巡查及消防手並
其ノ遺族ノ恩給ハ道知事)、臺灣ニ在リテハ臺灣總督
(州又ハ廳ノ警部補及巡查並其ノ遺族ノ恩給ハ州知
事又ハ廳長)、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ
在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官
之ヲ裁定ス

五 内地ニ於テ國庫以外ノ者ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄
職員及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳
長官、府縣ニ在リテハ府縣知事(警視廳部内ノ職員
ニ在リテハ警視總監)之ヲ裁定ス

六 恩給法第二十四條第三號ニ掲クル待遇職員（國庫ヨリ俸給ヲ給スルモノヲ除ク）及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事（警視廳部内ノ職員ニ在リテハ警視總監）、朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ裁定ス（大正一五年九月第一〇四號ヲ以テ改正）

第四條 恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給及扶助料トシ國庫カ恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者ヲ異ニスヘキ二種以上ノ公務員ノ在職年ヲ含ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ最終ノ俸給年額（下士以下ノ軍人及之ニ相當スル準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ金額ヲ俸給年額ト看做ス）ニ乗シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム

恩給法第四十五條ノ規定ニ依リテ普通恩給ヲ受クヘキ所定ノ年數ニ滿タサル在職年ノ者ニ給スル普通恩給及其ノ遺族ニ給スル扶助料ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タサル年數ハ分擔請求額計算上之ヲ當該恩給ノ負擔者ニ歸スヘキ在職年ト看做ス

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年數ニ加算ス

一 恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤績在職年ノ一年ニ付一

年

二 恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤績ニ因ル加給ヲ爲スヘキ場合及同法第六十二條第四項又ハ同法第六十三條第三項ノ規定ニ依リ加給ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤績在職年ノ一年ニ付六月

前三項ノ規定ハ恩給法第十七條第二項乃至第四項ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

第五條 恩給ノ分擔ハ支給義務額ニ依リ之ヲ爲スモノトス

第六條 左ニ掲クルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文官トス

一 地方官制第二條ニ規定スル府縣判任官

二 都市計畫地方委員會ノ職員ニシテ官吏タルモノ

三 神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

四 朝鮮道立醫院ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第七條 恩給法第二十一條第二號ノ陸軍又ハ海軍ノ學生生徒トハ陸軍士官學校、陸軍幼年學校、陸軍戶山學校、陸軍工科學校、海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校ノ生徒、陸軍ノ士官候補生、海軍豫備生徒並海軍豫備練習生ニシテ軍人ニ非サルモノヲ謂フ

第八條 恩給法第二十二條第二項ノ在外指定學校ハ外務大臣及文部大臣之ヲ指定ス但シ關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ指定ス

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ關東長官之ヲ定ム

第九條 恩給法第二十二條第三項ノ準教育職員トハ教授心得、助教教授心得、教諭心得、助教諭心得、准訓導及判任官ノ

待遇ヲ受ケサル保母ニシテ專任教員タルモノヲ謂フ

第十條 恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 道路管理職員制ニ依ル職員
- 二 地方土木職員制ニ依ル職員
- 三 地方產業職員制ニ依ル職員（市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク）
- 四 地方測候所職員制ニ依ル職員
- 五 地方學校衛生職員制ニ依ル職員
- 六 地方社會教育職員制ニ依ル職員（大正一五年九月第三〇四號ヲ以テ追加）
- 七 地方社會事業職員制ニ依ル職員
- 八 地方建築職員制ニ依ル職員（昭和三年四月第七三號ヲ以テ追加）
- 八ノ二 地方警察職員制ニ依ル職員（昭和五年二月第一九號ヲ以テ追加）
- 八ノ三 地方體育運動職員制ニ依ル職員（昭和七年四月第六〇號ヲ以テ追加）
- 九 防疫職員制ニ依ル職員
- 十 稅關官制第二十六條ノ規定ニ依ル職員
- 十一 臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員
- 十二 廳府縣衛生職員制ニ依ル職員
- 十三 癩療養所職員制ニ依ル職員
- 十四 家畜防疫職員制ニ依ル職員（大正一五年九月第三〇四號ヲ以テ追加）
- 十五 朝鮮地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、產業、衛生、社會事業又ハ測候ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員（府費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク）（昭和五年二月第一九號ヲ以テ改正）
- 十六 臺灣地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、衛生、產業、物産検査、社會事業又ハ社會教育ノ事務又ハ技術

ニ從事スル職員（市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク）（昭和五年二月第一九號ヲ以テ改正）

十七 關東州地方待遇職員令ニ依ル地方ノ產業、土木、衛生、教育又ハ行政ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員（昭和五年二月第一九號ヲ以テ改正）

- 第十一條 恩給法第二十四條第四號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
- 一 造幣醫、專賣醫及專賣藥劑師（昭和二年二月第三六二號ヲ以テ追加）
- 二 陸軍ノ通譯ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
- 三 靖國神社附屬遊就館職員ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
- 四 鐵道醫
- 五 北海道廳事業手
- 六 朝鮮ニ於ケル監獄ノ藥劑師、鐵道醫及鐵道藥劑師並臺灣ニ於ケル警察醫（大正一五年九月第三〇四號ヲ以テ追加）
- 七 臺灣又ハ關東州ニ於ケル檢疫員及檢疫醫
- 第十二條 恩給法第三十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依リノ外左ノ各號ノ例ニ依ル
- 一 戰爭開始後戰地ニ到リタル者ニ付テハ戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在スル地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス
- 二 戰爭中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到著シタル月迄加算ス
- 前項ノ地域トハ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島

及之ニ準スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ
恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ
爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ル
ノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一 動員(之ニ準スルモノヲ含ム)部隊ニ編入セラレタル
者ニ付テハ編入ノ月、動員(之ニ準スルモノヲ含ム)
下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令
ノ月ヨリ加算ス

二 戰爭開始後戰務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中
其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準
用ス

前三項ノ規定ハ恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル加
算ニ付テハ準用ス

第十三條 恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ鎮戍加算ヲ爲ス
ヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外
公務員鎮戍ノ爲内國ヲ出發シタルトキハ内國ヲ離レタル
月ヨリ加算シ鎮戍ノ終了後直ニ内國ニ歸還シタルトキハ
内國歸著ノ月迄加算ス

第十四條 恩給法第三十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲ス
ヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル

一 同月内ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乘シ航
空勤務ニ服シタルトキ又ハ航空機ニ搭乘シ特ニ危険
ト認ムル航空試験ニ從事シタルトキハ其ノ一月ニ付
一月半

二 同月内ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乘シ又
ハ五時間以上航空船、航行中ノ艦船繫留ノ氣球若ハ
自由氣球ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一
月ニ付一月

三 前二號ニ掲クルモノヲ除クノ外航空機ニ搭乘シ航空
勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付半月

第十五條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ加算スヘキ邊陲
又ハ不健康ノ地域及其ノ加算ノ程度ハ別表第二號表ニ依
ル

第十六條 邊陲又ハ不健康ノ地域ノ加算ハ在勤地外ノ地ヨ
リ其ノ在勤地ニ赴任シタル者ニ付テハ在勤地ニ到著シタ
ル月ヨリ、其ノ地ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ
月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ヲ止メタル月ヲ以テ終ル

第十七條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依ル不健康業務ノ加
算ハ一月ニ付半月トス其ノ業務左ノ如シ
一 有毒ノ瓦斯若ハ蒸氣、爆藥類又ハ危險ナル細菌ノ研
究又ハ製造ニ直接ニ從事スル勤務ニシテ内閣總理大
臣ノ指定スルモノ

二 排水量千噸以下ノ在役ノ驅逐艦若ハ掃海艇乗員トシ
テノ勤務又ハ鐵道事業ニ於ケル蒸汽機關車乗員トシ
テノ現業勤務

一 明治三十三年勅令第七十三號(明治三十三年法律
第七十五號同第七十六號在臺灣官吏及軍人ノ恩給並
遺族扶助料ノ件ニ依ル風土病及流行病種類指定ノ件)

一 明治三十三年勅令第四百四號(明治二十九年法律第
十三號ヲ臺灣ニ施行スル件)

一 巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令(明治三十四
年七月二十六日勅令第四百四十八號)

一 明治三十四年勅令第五百十號(巡查看守退隱料及遺
族扶助料法ヲ臺灣ニ施行スルノ件)

一 明治三十五年勅令第五十七號(明治三十五年法律
第二十九號ニ依ル風土病及流行病ノ種類指定ノ件)

一 明治四十一年勅令第三百三十七號(在外指定學校職員
退隱料及遺族扶助料法中主務大臣及領事館ノ管掌ス
ル事項ニ關スル件)

一 明治四十三年勅令第二百二十七號(巡查看守退隱料及
遺族扶助料法施行令準用ノ件)

一 明治四十四年勅令第七十號(明治四十四年法律第五
十九號軍人恩給法中改正附則第六項ノ規定ニ依ル恩
給等ニ關スル件)

一 大正六年勅令第二百四十一號(軍人恩給法第二十七
條ノ二ノ傷痍ニ關スル件)

一 大正六年勅令第二百四十二號(大正六年法律第六號
軍人恩給法中改正附則第九項ノ規定ニ依ル恩給等ニ
關スル件)

一 大正九年勅令第三百二十三號(大正九年法律第十號
恩給扶助料等ノ増額ニ關スル件ニ依ル恩給増額中執
達吏ニ對スル特例ニ關スル件)

一 明治十八年第十五號達文官恩給令附則

一 明治十八年第十六號達文官傷痍疾病等差例

一 明治十八年第四十號達陸軍恩給令附則

一 第四十條 第十條各號ニ掲クル官制ニ依リ廢止セラレタル
官制又ハ其レニ依リ廢止セラレタル官制ニ依リテ判任官
以上ノ待遇ヲ受ケタル職員ハ在職年通算ノ關係ニ於テハ
之ヲ當該各號ニ掲クル官制ニ依ル職員ト看做ス

附則 (大正十二年十二月二十七日勅令第五百
二十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十條ノ規定ハ大正
十二年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

附則 (大正十三年三月十九日勅令第五十一號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十五年七月一日勅令第二百四十四
號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十五年七月一日勅令第二百四十四
號)

恒春郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部	東港郡 球庄	臺東廳 管内中臺街ヨリ里端ニ至ル鐵道沿線二里以内ノ地域及其ノ東ノ地域ヲ除キタル殘部	花蓮港廳 管内中臺街ヨリ里端ニ至ル鐵道沿線二里以内ノ地域及其ノ東ノ地域ヲ除キタル殘部
--------------------	-----------	--	---

(二) 二分ノ一月ヲ加算スヘキモノ

北海道 厚岸大黒島 根室諸島 移島列島(安渡) 及古守島ヲ除ク	京畿道 八尾島、鳧島 忠清北道 丹陽郡 沃羅北道 沃羅郡 全羅南道 麗水郡 所里島 慶尚北道 海州郡 奉化郡 英陽郡 奉化郡 黃海道 遂安郡 松谷郡 禾山郡 平安南道 大島郡	臺北州 宜蘭郡 頭圍庄ノ内龜山島 羅東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中清水、牛鬮、松羅溪駐在警察官管轄區域 蘇澳郡 街庄ヲ置カサル蕃地中寒溪、四方林、大元山駐在警察官管轄區域、蘇澳庄中東澳 文山郡 坪林庄中、大字、大舌湖、柑脚坑、鸞巒、大粗坑、潤潭、桐子寮、九等林、字、石槽、鷺子潭、四堵ニ限ル、街庄ヲ置カサル蕃地中、四堵ニ限ル、ウ、ライ、ラ、ウ、阿玉駐在警察官管轄區域 海山郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 新竹州 新竹郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 大溪郡	關東州 小島島 長島島 中島島	南洋群島 中列島 コロール サイパン島 ヤップ島	其ノ他 オムスク ノヴォシビ ルスク(昭和二年) イルクーツク チゴウ ブラゴウ エスチエン ハバロフスク 黒河 滿洲 齊哈爾 洮南 太原 鄭州(昭和七年) 鄭州(昭和六年) 鄭州(昭和五年) 鄭州(昭和四年) 鄭州(昭和三年) 鄭州(昭和二年) 鄭州(昭和一年) 鄭州(昭和零年) 鄭州(昭和負年) 鄭州(昭和負一年) 鄭州(昭和負二年) 鄭州(昭和負三年) 鄭州(昭和負四年) 鄭州(昭和負五年) 鄭州(昭和負六年) 鄭州(昭和負七年) 鄭州(昭和負八年) 鄭州(昭和負九年) 鄭州(昭和負十年) 鄭州(昭和負十一年) 鄭州(昭和負十二年) 鄭州(昭和負十三年) 鄭州(昭和負十四年) 鄭州(昭和負十五年) 鄭州(昭和負十六年) 鄭州(昭和負十七年) 鄭州(昭和負十八年) 鄭州(昭和負十九年) 鄭州(昭和負二十年) 鄭州(昭和負二十一年) 鄭州(昭和負二十二年) 鄭州(昭和負二十三年) 鄭州(昭和負二十四年) 鄭州(昭和負二十五年) 鄭州(昭和負二十六年) 鄭州(昭和負二十七年) 鄭州(昭和負二十八年) 鄭州(昭和負二十九年) 鄭州(昭和負三十年) 鄭州(昭和負三十一年) 鄭州(昭和負三十二年) 鄭州(昭和負三十三年) 鄭州(昭和負三十四年) 鄭州(昭和負三十五年) 鄭州(昭和負三十六年) 鄭州(昭和負三十七年) 鄭州(昭和負三十八年) 鄭州(昭和負三十九年) 鄭州(昭和負四十年) 鄭州(昭和負四十一年) 鄭州(昭和負四十二年) 鄭州(昭和負四十三年) 鄭州(昭和負四十四年) 鄭州(昭和負四十五年) 鄭州(昭和負四十六年) 鄭州(昭和負四十七年) 鄭州(昭和負四十八年) 鄭州(昭和負四十九年) 鄭州(昭和負五十年) 鄭州(昭和負五十一年) 鄭州(昭和負五十二年) 鄭州(昭和負五十三年) 鄭州(昭和負五十四年) 鄭州(昭和負五十五年) 鄭州(昭和負五十六年) 鄭州(昭和負五十七年) 鄭州(昭和負五十八年) 鄭州(昭和負五十九年) 鄭州(昭和負六十年) 鄭州(昭和負六十一年) 鄭州(昭和負六十二年) 鄭州(昭和負六十三年) 鄭州(昭和負六十四年) 鄭州(昭和負六十五年) 鄭州(昭和負六十六年) 鄭州(昭和負六十七年) 鄭州(昭和負六十八年) 鄭州(昭和負六十九年) 鄭州(昭和負七十年) 鄭州(昭和負七十一年) 鄭州(昭和負七十二年) 鄭州(昭和負七十三年) 鄭州(昭和負七十四年) 鄭州(昭和負七十五年) 鄭州(昭和負七十六年) 鄭州(昭和負七十七年) 鄭州(昭和負七十八年) 鄭州(昭和負七十九年) 鄭州(昭和負八十年) 鄭州(昭和負八十一年) 鄭州(昭和負八十二年) 鄭州(昭和負八十三年) 鄭州(昭和負八十四年) 鄭州(昭和負八十五年) 鄭州(昭和負八十六年) 鄭州(昭和負八十七年) 鄭州(昭和負八十八年) 鄭州(昭和負八十九年) 鄭州(昭和負九十年) 鄭州(昭和負九十一年) 鄭州(昭和負九十二年) 鄭州(昭和負九十三年) 鄭州(昭和負九十四年) 鄭州(昭和負九十五年) 鄭州(昭和負九十六年) 鄭州(昭和負九十七年) 鄭州(昭和負九十八年) 鄭州(昭和負九十九年) 鄭州(昭和負一百年)
---	--	---	--------------------------	--------------------------------------	--

○理蕃加算ニ關スル件

●内閣告示第三號 昭和七年六月六日
昭和五年十月二十七日以後臺灣臺中州能高郡「イナゴ」、
「櫻」、「パーラン」、「霧社」及「ロードフ」ノ各駐在所ノ管轄地
域ニ於テ理蕃ニ従事スル公務員、昭和六年三月一日以後同
郡「スーク」、「ブカサン」、「富士見」、「松原」、「見晴」及「梅
木」ノ各駐在所ノ管轄地域ニ於テ理蕃ニ従事スル公務員並
ニ昭和五年十月二十七日ヨリ同年十二月二十日ニ至ル期間
ニ同郡「獅子頭」及「眉溪」ノ各駐在所ノ管轄地域ニ於テ理蕃
ニ従事シタル公務員ニ對シ夫々恩給法第九十二條第一項ニ
規定スル理蕃加算ヲ爲ス

○恩給ノ減額補給及停止ニ關スル法律

●法律第十三號 昭和七年六月十八日
第一條 昭和六年六月一日以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ
關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレ勅令ヲ以テ指定スル時
期迄ニ退職シ若ハ死亡シタル軍人以外ノ公務員若ハ之ニ
準ズベキ者又ハ其ノ遺族ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ
恩給額ト改正前ノ俸給ニ關スル規程ニ依レバ受クベカリ
シ俸給ヲ基礎トスル恩給額トノ差額ヲ年金タル恩給ニ在

リテハ退職又ハ死亡ノ翌月ヨリ増給シ一時金タル恩給ニ
在リテハ追給ス

前項ノ規定ハ昭和六年六月一日以降勅令ヲ以テ指定スル
時期迄ニ新ニ制定セラルル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給
ヲ給セラレテ退職シ若ハ死亡シタル軍人以外ノ公務員若
ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ遺族ニ付之ヲ準用ス
第二條 恩給法第九十九條第一項ノ規定ニ依リ従前ノ例ニ
依リ普通恩給ト其ノ基礎ト爲リタル在職年ニ通算スルコ
トヲ得ル官職ニ就キ受クル俸給トノ合算額ノ退職當時ノ
俸給ヲ超過スル差額ヲ普通恩給ト停止スル場合ニ於ケ
ル其ノ退職當時ノ俸給ハ本法施行後ニ在リテハ勅令ヲ以
テ指定スル時期迄昭和六年六月一日以降減俸ノ爲改正シ
タル俸給ニ關スル規程ニ依ル其ノ俸給ニ相當スル俸給ト
ス

附則

前項俸給額ノ算定ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十章 預金及有價證券

第一節 預金

○預金部預金法

●法律第二十五號 大正十四年三月三十日

第一條 法律勅令ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルル現金ハ預金部預金トシ大藏大臣之ヲ管理ス

第二條 郵便貯金トシテ受入レタル現金ハ之ヲ大藏省預金部ニ預入レ其ノ利子ヲ以テ貯金利子ノ支拂ニ充ツヘシ

第三條 預金部預金ノ種類、利子及取扱ニ關シテハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 預金部預金並大藏省預金部特別會計ノ積立金及支拂上ノ餘裕金ハ之ヲ預金部資金トシ預金部資金運用委員會ニ諮問シ有利且確實ナル方法ヲ以テ國家公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用スヘシ

預金部資金運用委員會ノ組織權限及預金部資金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 預金部資金ノ運用ニ關スル事務ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

附則

本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

預金規則(明治十八年五月三十日太政官布告第十三號)、明

治二十三年法律第七十五號(預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件)及明治三十九年勅令第二百十一號(明治三十七八年戰役ニ關スル一時賜金預託ノ件)ハ之ヲ廢止ス

本法施行前大藏省預金部ニ於テ受入レタル預金ハ之ヲ預金部預金トス

預金規則第一條第三號ノ規定ニ依ル預金及其ノ預金ヲ以テ購入保管シタル國債證券並明治三十九年勅令第二百十一號ニ依ル預金及預託ノ國債證券ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ付本法施行後三月内ニ預ケ人ノカ拂戻ノ請求ヲ爲ササルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ預金ハ之ヲ郵便貯金ニ振替ヘ國債證券ハ之ヲ郵便貯金法第九條ノ規定ニ依リ購入シタルモノト看做シテ保管ス

○預金部資金運用規則

●勅令第五十五號 大正十四年四月一日

改正 昭和五年第三五號、六年第二九號

第一條 預金部資金ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ運用スヘシ

一 國債、地方債又ハ健康保險組合債ノ應募、引受又ハ買入(昭和五年二月第三五號ヲ以テ改正)

二 一般會計又ハ特別會計ニ對スル貸付

- 三 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ債券ヲ發行スルモノノ發行ニ係ル債券ノ應募、引受若ハ買入又ハ此等ノ法人ニ對スル三年内ノ貸付(昭和六年八月第三號ヲ以テ改正)
- 四 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル銀行ニシテ社債ヲ發行セサルモノニ對スル貸付
- 五 外國政府ノ發行ニ係ル國債ノ應募又ハ買入
- 六 日本銀行ニ對スル在外指定預金
- 第二條 大藏大臣ハ毎年度預金部資金ノ運用ニ關シ必要ナル計畫ヲ定メ豫メ之ヲ預金部資金運用委員會ニ付議スヘシ其ノ計畫ニ付追加又ハ變更ヲ爲サムトストキ亦同シ
- 第三條 大藏大臣ハ毎年度預金部資金運用報告書ヲ調製シ年度經過後四月内ニ之ヲ預金部資金運用委員會ニ提出スヘシ
- 前項ノ報告書ニハ當該年度ニ於ケル預金部資金運用ノ狀況及運用資産ノ異動ニ關スル重要ナル事項ヲ記載スヘシ
- 第四條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外預金部資金ノ運用ノ爲必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第五條 預金部資金運用委員會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ大藏大臣ノ諮問ニ應ジ預金部資金ノ運用ニ關スル事項ヲ調査審議ス
- 第六條 預金部資金運用委員會ハ預金部資金ノ運用ニ關シ大藏大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第七條 預金部資金運用委員會ハ會長一人及委員十五人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

- 臨時必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得
- 第八條 會長ハ大藏大臣ヲ以テ之ニ充ツ
- 第九條 委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一 大藏政務次官
 - 二 大藏次官
 - 三 關係各廳高等官
 - 四 會計検査院部長
 - 五 日本銀行總裁
 - 六 學識経験アル者
- 前項第三號、第四號及第六號ニ掲クル者ヲ以テ充ツル委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 臨時委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第十條 會長ハ會務ヲ總理ス
- 會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス
- 第十一條 預金部資金運用委員會ニ幹事ヲ置ク
- 幹事ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ大藏部内高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
- 第十二條 預金部資金運用委員會ニ書記ヲ置ク
- 書記ハ大藏部内判任官ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ運用中ノ預金部資金ニシテ其ノ運用方法カ第一條ノ規定ニ該當セサルモノニ付テハ同條ノ規定ニ拘ラス仍其ノ運用方法ニ依ルコトヲ得

○大藏省預金部ニ預入ルル資金ニ關スル件

- 勅令第百十八號 大正十四年四月一日
- 左ノ資金ハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルルコトヲ得
 - 一 國債整理基金
 - 二 明治二十三年法律第二十七號ニ依ル積立金
- 附則
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- (參照)
- 明治二十三年三月三十日法律第二十七號ハ陸軍給與ニ關スル委任經理ノ件ナリ

○預金部預金取扱規程

- 大藏省令第六號 大正十一年二月一日
- 改正 大正十四年第五號、十五年第九號、昭和五年第一七號、六年第三二號
- 第一章 總則

第十章 預金及有價證券

第三章 預金ノ拂込

第四條 預ケン預金ノ拂込ヲ爲サムトストキハ定期預金ニ在リテハ第一號書式ノ預金部預金拂込書ヲ、其ノ他ノ

第一條 預金部預金及預金購入有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂ヲ爲スヘシ

第二條 預ケン人ハ左ノ者ヲ擔當者ト爲シ其ノ資格氏名及住所ヲ日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ届出ツヘシ

第二章 預金ノ種類

第三條ノ二 預金部預金中預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第二百一十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノモノハ之ヲ普通預金及定期預金ノ二種トス

第三條ノ三 普通預金ハ預ケン人ノ請求アルトキハ何時ニテモ之カ拂戻ヲ爲スモノトス

預金ニ在リテハ第一號ノ二書式ノ預金部預金拂込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ拂込ミ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

定期預金以外ノ預金ノ預ケ人ハ預金ノ拂戻ニ使用スル小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ
預ケ人ハ必要アル場合ニ於テハ預金部預金帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テハ保管金ヲ提出スヘキ者ヲシテ第二號書式ノ保管金振込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ於ケル預ケ人ノ預金ニ振込マシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ振込ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ振込人ヲシテ日本銀行ヨリ預金部預金振込済通知書ノ交付ヲ受ケシムヘシ

第六條 (削除)

第七條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人ハ其ノ預金ヲ以テ購入保管ニ係ル有價證券ノ利子支拂期到來シタルモノアルトキハ第三號書式ノ有價證券利子預金組入請求書ニ、其ノ償還ヲ受クヘキモノアルトキハ第四號書式ノ有價證券償還預金組入請求書ニ受領ノ旨ヲ記入シ當該有價證券ノ記番號内譯表ヲ添附シテ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金組入金額ノ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第八條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ日本銀行

政府有價證券取扱規程第十二條ノ規定ニ依リ遺失物法ニ依ル政府保管有價證券ノ元利金受入ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ受領ノ旨ヲ記入シテ日本銀行ニ提出シ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第八條ノ二 預ケ人定期預金ノ更新ヲ爲サムトスルトキハ其ノ期限到來ノ日迄ニ第四號ノ二書式ノ預金部定期預金更新通知書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ
預ケ人前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ定期預金ノ期限到來ノ日ヨリ普通預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做ス

第四章 預金ノ拂戻

第九條 預ケ人預金ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ定期預金ニ在リテハ第五號書式ノ預金部預金拂戻請求書ヲ日本銀行ニ提出シ其ノ他ノ預金ニ在リテハ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スヘシ

第十條 (削除)

第十一條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ保管替ヲ爲サムトスルトキハ第六號書式ノ預金部預金預入替請求書ヲ添ヘ保管替ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トセル小切手ヲ日本銀行ニ交付スヘシ

第十二條 預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第八條又ハ供託物取扱規則第八條ノ規定ニ依リ日本銀行ヲシテ保管金又ハ供託金ノ他店拂ヲ爲サシメムトスルトキハ他店拂ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金

額トセル小切手ノ裏面ニ保管金又ハ供託金ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ氏名、住所及支拂店名ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ交付スヘシ

第五章 預金ノ利子

第十二條ノ二 普通預金及定期預金ニ對シテハ拂込ノ翌日ヨリ拂戻ノ日迄日割計算ヲ以テ左ノ區分ニ依リ利子ヲ付スヘシ但シ一圓未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ付セス

一 普通預金 年二分(昭和五年九月第一七號ヲ以テ改正)
二 定期預金 年四分二厘(昭和五年九月第一七號ヲ以テ改正)

但シ法律ニ依リ預金部へ資金ノ預入ヲ認メラレタル法人(公共團體ヲ除ク)ノ預金ニ付スル利子ハ普通預金年一分定期預金年三分七厘トス(昭和六年八月第三一號ヲ以テ改正)

第十三條ノ三 第二項但書ノ規定ニ依リ拂戻ヲ爲シタル定期預金ノ額ニ對シテハ利子ヲ付セス但シ事情ニ依リ普通預金ニ付スヘキ利子ト同額以下ノ利子ヲ付スルコトヲ得

第十三條 普通預金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモノトス但シ預金全額ノ拂戻ニ係ル利子ハ預金ノ拂戻ヲ爲ストキ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモノトス

第十三條ノ二 預ケ人定期預金ノ利子ノ支拂ヲ受ケムトスルトキハ定期預金期限到來ノ日ニ於テ第六號ノ二書式ノ預金部預金利子支拂請求書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ
預ケ人前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ前項ノ利子ハ期限到來ノ日ニ普通預金トシテ拂込マレタルモノト看做ス

第十四條 預ケ人毎年四月日本銀行ヨリ預金利子元加通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ承認ノ旨ヲ記入シ日本銀行ニ提出スヘシ

第十三條但書及前項ノ場合ニ於テ預ケ人ハ日本銀行ニ對シ元加利子額ニ相當スル金額ノ預金部預金領收證書ヲ請求スルコトヲ得

第十四條ノ二 預ケ人日本銀行ヨリ預金部預金利子組入通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ承認ノ旨ヲ記入シ日本銀行ニ提出スヘシ

第十五條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人郵便貯金規則第二十四條ノ規定ニ依リ郵便貯金ニ對スル利子ノ元加ヲ要スルトキハ第七號書式ノ預金部預金利子元加請求書ヲ、郵便貯金規則第七十九條ノ規定ニ依リ隨時郵便貯金ニ對スル利子ノ支拂ヲ要スルモノアルトキハ第八號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第十六條 大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ調査ノ上元加又ハ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ該請求書ニ記入シ之ヲ日本銀行本店ニ送付シ利子元加又ハ支拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十七條 預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ

於テ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ有スル者ニ對シテ利子ノ支拂ヲ要スルトキハ第九號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ニ依リ其ノ利子額ニ相當スル預金利子額ノ支拂ヲ日本銀行ニ請求スヘシ但シ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ提出シタル利子請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第六章 預金購入有價證券

第十八條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人預金ヲ以テ有價證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ第十號書式ノ有價證券購入請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第十九條 大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ該請求書ニ記載ノ購入日附ニ於ケル時價ヲ以テ日本銀行本店ヲシテ指定ノ有價證券ヲ購入セシムヘシ

第二十條 (削除)

第二十一條 大藏省預金部日本銀行本店ヨリ購入有價證券ノ額面金額及購入代價ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十一號書式ノ有價證券購入濟通知書ヲ日本銀行ヲ經テ預ケ人ニ送付スヘシ

第二十二條 預ケ人前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ該通知書ノ裏面ニ有價證券購入代價ニ相當スル金額ノ預金ヲ領收セル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券保管通知書ヲ交付ヲ受クヘシ

第二十三條 預ケ人預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ第十二號書式ノ預金購入有價證券拂戻請求書ニ

當該有價證券ノ記番號内譯表ヲ添附シ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二十四條 預ケ人日本銀行ヨリ預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ第十三號書式ノ預金購入有價證券受領證書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第七章 證明

第二十五條 預ケ人官廳ナル場合ニ於テ日本銀行統轄店又ハ特設代理店ヨリ預金部預金ノ受入及拂渡ノ請求書並支拂小切手ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添へ預金部預金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日以内ニ之ヲ日本銀行ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テハ預金取扱店ヲ經由スヘシ

第一項ノ規定ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏統轄店ヨリ預金部受拂計算表ヲ送付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第八章 雜則

第二十六條 日本銀行甲店ヲ預金取扱店トスル預ケ人日本銀行乙店ヲ預金取扱店ニ變更セムトスルトキハ第十四號書式ノ預金取扱店變更申込書ヲ日本銀行甲店ニ提出シ預金部預金現在額證明書ヲ交付ヲ受クヘシ

預ケ人前項ノ證明書ヲ日本銀行乙店ニ提出シ承認ノ旨ヲ記入ヲ受クヘシ

第二十七條 預ケ人預金部預金領收證書、預金部預金振込濟通知書又ハ預金購入有價證券保管通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明

部預金帳ト看做ス
附則 (大正十四年四月一日大藏省令第五號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

預金部預金法附則第四項ニ規定スル預金及國債證券ニシテ本令施行後三月内ニ受拂ヲ爲スモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

附則 (大正十五年三月二十九日大藏省令第九號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第二百一十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノ預金ニシテ本令施行前預金ニ係ルモノニ付テハ其ノ預ケ人ハ本令施行後一月内ニ預金ノ種類ヲ定メ之ヲ日本銀行ニ通知スルコトヲ要ス

預ケ人前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ本令施行ノ日ニ於テ當該預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做シ其ノ通知ヲ爲ササルトキハ本令施行ノ日ニ於テ普通預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做ス

附則 (昭和五年九月三十日大藏省令第十七號)
大正九年九月大藏省告示第六十五號(大藏省預金部ニ於ケル預金利子割合ノ件)ハ之ヲ廢止ス

附則 (昭和五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス)
本令ハ昭和五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和六年八月二十二日大藏省令第三十一號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ預入シタル定期預金ニ付テハ該預金ノ期限到來ノ日迄從前ノ利率ニ依ル

ヲ請求スルコトヲ得第五條第二項ノ振込人預金部預金振込濟通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ亦同シ

第二十八條 第二十五條ノ規定ニ依リ預ケ人又ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏預金部預金月計突合表又ハ預金部受拂計算表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ特設代理店ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ預金取扱店ヲ經由スヘシ

第二十九條 預金部預金帳ノ交付ヲ受ケタル預ケ人ハ隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金ノ受拂額ノ記入ヲ受クヘシ

第三十條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人ハ日本銀行ヨリ預金購入有價證券保管帳ノ交付ヲ受ケ隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券ノ受拂額ノ記入ヲ受クヘシ

附則

第三十一條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 預金取扱規程(明治二十六年九月二十日大藏省令第十九號)ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 本令施行前大藏省預金部ニ預入ヲ爲シタル預ケ人ハ從前ノ規定ニ依ル總代人、擔當者又ハ取扱主任官ヲ以テ本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス

保管金取扱規程第二十三條ノ規定ニ依ル預金部預金ノ預ケ人ハ保管物取扱規程ニ依ル取扱主任官ヲ以テ本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス

第三十四條 本令施行前預ケ人カ金庫ヨリ交付ヲ受ケタル預金通帳ハ本令ニ依リ日本銀行ヨリ交付ヲ受ケタル預金

第一號書式 預金部預金拂込書 (用紙寸法)

預金部預金拂込書

第 號
金 期 限 年 月 日

預入根據法令
上記金額預金部定期預金トシテ拂込候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事者) 印
住 所 氏 名

日本銀行(何店)宛

第一號ノ二書式 預金部預金拂込書 (用紙寸法)

預金部預金拂込書

第 號
金 期 限 年 月 日

預入根據法令
上記金額拂込候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事者) 印
住 所 氏 名

日本銀行(何店)宛

第十四號書式 預金取扱店變更申込書 (用紙寸法)

預金取扱店變更申込書

左記預金日本銀行(何店)ノ取扱ニ變更相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事者ハ) 印
何々總代住所氏名

日本銀行(何店)宛

記

金

預金現在高

○預金部普通地方資金貸付規程

●大藏省達第二號 昭和三年十一月九日

改正 昭和六年第一號

第一章 總 則

第一條 預金部普通地方資金ノ貸付ハ別段ノ定アル場合ヲ
除クノ外本規程ノ定ムル所ニ依リ之ヲ取扱フモノトス(昭
六年九月第一號ヲ以テ改正)

第二條 預金部普通地方資金ハ之ヲ左ノ九種トス(昭和六年九
月第一號ヲ
改正)

- 一 公共團體普通事業資金
- 二 社會事業資金
- 三 耕地整理事業資金
- 四 産業組合事業資金
- 五 森林組合事業資金
- 六 漁業組合事業資金
- 七 畜産組合事業資金
- 八 工業組合事業資金 (昭和六年九月第一號ヲ以テ改正)
- 九 輸出組合事業資金 (昭和六年九月第一號ヲ以テ追加)

第二章 貸付先

- 第三條 本資金ハ左記ノ者ニ限り之ヲ貸付クルコトヲ得
 - 一 公共團體普通事業資金ニ在リテハ
 - イ 道、府、縣、市、町、村及市町村組合
 - ロ 水利組合及北海道土功組合

- 二 社會事業資金ニ在リテハ
 - イ 道、府、縣、市、町、村及市町村組合
 - ロ 住宅組合
 - ハ 産業組合
 - ニ 營利ヲ目的トセサル法人
- 三 耕地整理事業資金ニ在リテハ
 - イ 耕地整理組合
 - ロ 耕地整理組合聯合會
 - ハ 耕地整理共同施行者
 - ニ 耕地整理ヲ施行シ又ハ耕地整理事業助成ノ目的ヲ以テ工事又ハ設備ヲ行フ道、府、縣、市、町、村及市町村組合
- 四 産業組合事業資金ニ在リテハ
 - イ 産業組合
 - ロ 産業組合聯合會
- 五 森林組合事業資金ニ在リテハ
 - イ 森林組合
- 六 漁業組合事業資金ニ在リテハ
 - イ 漁業組合
 - ロ 漁業組合聯合會
- 七 畜産組合事業資金ニ在リテハ
 - イ 畜産組合
 - ロ 畜産組合聯合會
- 八 工業組合事業資金ニ在リテハ(昭和六年九月第一號ヲ以テ改正)

- イ 工業組合
 - ロ 工業組合聯合會
- 九 輸出組合事業資金ニ在リテハ(昭和六年九月第一號ヲ以テ追加)
 - イ 輸出組合
 - ロ 輸出組合聯合會
- 第四條 本資金ノ貸付ヲ受クル者ハ左記ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
 - 一 財務ノ整理良好ナルコト
 - 二 事業ノ計劃及償還ノ見込確實ナルコト
- 産業組合、森林組合、漁業組合、畜産組合、工業組合、輸出組合及其ノ聯合會ニ在リテハ前項ニ依ルノ外其ノ設立後三事業年度ヲ經過シタルコトヲ要ス但シ地方長官ニ於テ其ノ基礎鞏固ナリト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス(昭和六年九月第一號ヲ以テ改正)
- 第三章 資金ノ用途
 - 第五條 本資金ハ左記ノ用途ニ對シ之ヲ貸付クルモノトス
 - 一 公共團體普通事業資金ニ在リテハ(昭和六年九月第一號ヲ以テ改正)
 - イ 灌漑及排水事業費
 - ロ 災害豫防費
 - ハ 隔離病舎、結核療養所及傳染病院建設費
 - ニ 上水道及下水道費
 - ホ 墓地、汚物取扱場、火葬場及塵芥處分場費
 - ハ 屠場費

第四章 資金ノ割當

- ト 道路、河川及港灣修築並砂防ニ關スル負擔金
- チ 道路、橋梁及渡船場費
- リ 河川及港灣費
- ヌ 開墾及埋立事業費
- ル 學校及教員住宅建設費
- ヲ 電氣及瓦斯事業費
- ワ 軌道及自動車事業費
- 二 社會事業資金ニ在リテハ
 - イ 住宅ノ建設費
 - ロ 公益質屋費
 - ハ 公益市場費
 - ニ 簡易宿泊所費
 - ホ 託兒所費
 - ヘ 職業紹介所費
 - ト 其ノ他ノ社會事業費
 - チ (昭和六年九月第一號ヲ以テ創設)
- 三 耕地整理事業資金ニ在リテハ
 - イ 耕地整理ニ關スル事業費
 - ロ (昭和六年九月第一號ヲ以テ創設)
- 四 産業組合事業資金、森林組合事業資金、漁業組合事業資金、畜産組合事業資金、工業組合事業資金及輸出組合事業資金ニ在リテハ(昭和六年九月第一號ヲ以テ改正)
 - イ 當該組合及同聯合會ノ事業費
 - ロ (昭和六年九月第一號ヲ以テ創設)

第六條 本資金借入ノ申請アリタルトキハ地方長官ハ第二章及第三章ノ規定ニ該當スルヤ否ヤヲ調査シ特ニ本資金ヲ必要トスルモノヲ定メ毎年三月三十一日迄ニ其ノ翌年度内ニ借入ヲ要スヘキ金額ヲ第二條第一號及第二號ノ資金ニ在リテハ内務大臣ニ、第二條第三號乃至第七號ノ資金ニ在リテハ農林大臣ニ、第二條第八號及第九號ノ資金ニ在リテハ商工大臣ニ申出ツヘシ但シ爾後借入ノ必要ヲ生シタルモノニ付テハ期日經過後ト雖申出ヲ爲スコトヲ得(昭和六年九月第一號ヲ以テ改正)

第七條 前條ノ規定ニ依リ地方長官ノ申出アリタルトキハ内務大臣、農林大臣及商工大臣ハ之ヲ調査シ大藏大臣ニ協議ノ上割當額ヲ決定スルモノトス其ノ割當額ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ割當額ヲ決定シタルトキハ内務大臣、農林大臣及商工大臣ハ直チニ之ヲ地方長官ニ通知スルモノトス

第八條 地方長官ハ前條第二項ノ規定ニ依リ預金部資金割當ノ通知ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 資金ノ供給ヲ受ケムトスルモノ公共團體ナルトキハ預金部資金供給稟請書類正副二通ヲ内務大臣ニ進達スルモノトス但シ起債ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノニ付テハ起債許可稟請書類正副二通ヲ内務大臣ニ進達シ之ニ代フルコトヲ得